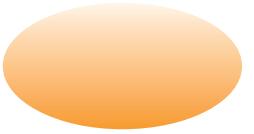


愛媛大学 沿岸環境科学研究中心年報



CMES
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES



第7号 2006年

**愛媛大学沿岸環境科学研究センター
年 報**

(第7号)

2006年

まえがき

平成17年度には、CMESにとって歴史的な出来事が二つありました。一つは、生物環境試料バンク（es-BANK）棟の完成です。es-BANKは、CMESの所有する野生生物や土壌、海水などの環境試料を体系的に整理するとともに今後も試料収集を推進して、CMESのみならず学内外の研究にも提供するための施設です。これらの試料は、CMESの生態環境計測分野が、センター設立以前の農学部農芸化学科農芸分析学研究室時代以来40年以上をかけて世界の各地から収集してきたもので、世界にも類を見ないコレクションになっています。CMESでは、これらの試料をもとに平成14年度に組織としてのes-BANKを設立していましたが、旧情報処理センターの建物を改修してes-BANK棟とする工事が平成17年11月に完了しました。es-BANK棟は、9章に概要を示したように、1階と2階の冷凍室（計314m², -25°C）を中心とする施設で、3階には高分解能質量分析計（GC-MS）等を備えた実験室があります。また、1階には液体窒素による超低温保存室や解剖室なども配置しています。es-BANKの試料の大部分はこれまで学外の民間会社に保管を委託していましたが、17年度中にこれらの試料の移動も終了しました。これにより、es-BANKは平成18年度から本格的に活動を開始することとなり、CMESがこの分野の世界的研究拠点としてさらに大きく発展していくことが期待できます。

もう一つの歴史的な出来事とは、CMESのもう一つの附属施設である中島マリンステーション（NMS）に関することです。NMSは、理学部附属の臨海実験所として昭和47年に設立され、平成11年度のCMES設立とともにCMESの附属施設に移行したもので、これまで30年余りにわたり、愛媛県近海の海洋研究や学生実習などに活躍してきました。しかし、近年における諸般の事情により、平成18年度から当面NMSの活動を休止することになりました。これらの事情としては、建物の老朽化などのほか稼働率の低下も大きな要因となっています。この原因としては、CMESの研究が、愛媛県近海ばかりでなく瀬戸内海全域から世界の沿岸域へも広がってきたことが挙げられます。すなわち、NMSはCMESの発展の中で一つの役割を終えたといえるでしょう。なお、CMESの調査船「とびうお」は、母港を中島港から伊予市の森漁港に移して機動性を高め、これまで以上に調査や実習に活躍しています。

こうした出来事と並行して、CMESの活動は17年度も順調に進みました。研究プロジェクトでは、4年目となる21世紀COEプログラムの他、科学研究費では、基盤研究（A）4件（うち新規1件）、萌芽研究1件（新規）、若手研究（B）3件（うち新規2件）、特別研究員奨励費3件が進行しています。また、3年目を迎えた文部科学省の人・自然・地球共生プロジェクトRR2002も進行中です。

研究面での受賞においても、画期的なものがありました。田辺教授のSETAC国際賞受賞です。この賞は、環境化学・環境毒性学分野で最も優れた業績を挙げた人に贈られるSETAC（Society of Environmental Toxicology and Chemistry）最高の賞であり、毎年世界で1人だけ選ばれます。田辺教授の受賞はアジアに拠点を置く研究者としては初めてであり、愛媛大学としてもこのレベ

ルの国際賞の受賞は初めてのこと、受賞を記念して12月5日には受賞記念式典が開催されました。また、加藤元海COE研究員が、日本生態学会から宮地賞を受賞したほか、若手研究員や学生の優秀講演賞、優秀ポスター賞などの受賞も相次ぎました。

その他、CMESと関連深い17年度の出来事としては、スーパーサイエンス特別コース（SSC）の発足が挙げられます。SSCとは、国際的レベルの研究者育成を目指して設けられた学部学生の教育コースで、環境科学コース、地球惑星科学コース、生命科学コースの三つのサブコースから成っており、学生定員は15名です。SSCは、他大学にはないユニークな教育コースで、文部科学省はじめ各方面から注目されるとともに、大きな期待も寄せられています。愛媛大学には、CMES、地球深部ダイナミクス研究センター、無細胞生命科学工学研究センターという研究に特化した三つのセンターがあり、これらのセンターの教員はSSCの教育にも深く関わることとなりました。17年度にはSSCの1期生を迎える、CMES教員は環境科学セミナーやコース初步科目等の講義を行いました。SSCの発展は、愛媛大学やCMESの発展にもつながるものであり、CMES教員一同、研究者を目指す若い学生の教育にも力を注ぎたいと考えています。

平成18年度は、近年におけるCMESの活動の中心となっていた21世紀COEプログラムの最終年度となります。このため本年度は、同プログラムの総仕上げを行うとともに、19年度から立ち上げられることが見込まれている新規のCOEプログラムへの採択を目指す非常に重要な年度となります。この重要な年を、CMESスタッフ一同、力を合わせて乗り切っていきたいと考えています。関係各位におかれましては、今後とも一層の御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 武岡英隆

目 次

まえがき	1
1. 総 説.....	4
1. 1 組 織.....	4
1. 2 各分野の概要.....	6
2. 研究者要覧.....	7
3. 研究プロジェクト.....	18
3. 1 21世紀COEプログラム.....	18
3. 2 科学研究費等.....	18
3. 3 共同研究.....	20
3. 4 受託研究.....	21
3. 5 各種研究助成金（民間・財団等）、奨学寄付金等	21
4. 研究成果（曆年で2005年に出版、掲載されたもの）	23
4. 1 著 書.....	23
4. 2 学協会誌等.....	23
4. 3 学内、所内誌等.....	30
4. 4 一般誌等.....	31
4. 5 報告書等.....	31
4. 6 学会発表等.....	33
5. 学会及び社会における活動.....	53
5. 1 併任・委員会委員等.....	53
5. 2 学協会委員等.....	55
5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）	56
5. 4 学会、講演会などの開催（個人）	63
5. 5 学会賞等.....	63
6. 国際的活動.....	65
6. 1 国際研究プロジェクト.....	65
6. 2 在外研究等.....	66
6. 3 海外調査・国際学会等.....	66
6. 4 外国人客員研究員等.....	68
6. 5 海外からの訪問者.....	69
6. 6 招聘研究員.....	69
6. 7 留学生.....	70
7. 教育活動.....	71
7. 1 所属学生および研究テーマ.....	71
7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	73
7. 3 講義・集中講義.....	76
8. 施 設.....	80
9. 設 備.....	82
10. 広 報.....	83
10. 1 CMES ニュース	83
10. 2 報道関係	84
10. 3 講座、講演会等	86
11. 中島マリンステーション利用状況	87
12. 研究員名簿.....	90
13. 客員研究員名簿.....	91
14. 運営委員会.....	94
15. センター規則等.....	95

1. 総 説



1. 1 組 織

センター長 : 武岡 英隆

環境動態解析分野

教授 : 武岡 英隆
 客員教授 : 杉本 隆成
 助教授 : 郭 新宇
 助手 : 兼田 淳史
 COE研究員 : 川村 有二
 COE研究員 : 加 三千宣
 COE研究員 : 高橋 大介
 COE研究員 : 藤井 直紀
 COE研究員 : 山口 一岩

日本学術振興会外国人特別研究員 : 張 弼勳 (平成18年3月までCOE研究員)

日本学術振興会外国人特別研究員 : Rolando Sayo Balotro (平成17年11月～)

* 日本学術振興会特別研究員 : 加 玲美(平成17年10月から佐賀大学有明海総合研究プロジェクト非常勤研究員)
 研究支援推進員 : 福森香代子
 COE研究補助員 : 松本 有紀

生態環境計測分野

教授 : 田辺 信介
 客員教授 : Annamalai Subramanian
 助教授 : 高橋 真
 客員助教授 : Tu Binh Minh (平成18年4月～)
 * 研究機関研究員 : Nguyen Hung Minh (平成18年4月からCenter for Environmental Technology and Sustainable Development, Hanoi University of Science, Lecturer)
 * 研究機関研究員 : 阿南弥寿美 (平成18年4月から千葉大学日本学術振興会特別研究員)
 * 研究機関研究員 : 井上 英 (～平成18年3月)
 COE研究員 : 国末 達也
 COE研究員 : 磯部 友彦 (平成17年9月～)
 COE研究員 : Agus Sudaryanto (平成18年4月～)
 研究員 : 染矢 雅之 (平成18年4月～)
 研究員 : 池本 徳孝 (平成18年4月～)
 COE研究補助員 : 國本 昌宏
 COE研究補助員 : 経廣 規子
 事務補佐員 : 松田 昌子

生態毒性解析分野

教授 : 岩田 久人
 客員助教授 : 金 恩英

1. 総 説

* 助手 : 梶原 夏子 (平成18年4月から独立行政法人国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センターNIESポスドクフェロー)
助手 : 仲山 慶 (平成18年4月～)
* 日本学術振興会特別研究員 : 上野 大介 (平成17年10月から佐賀大学農学部講師)
COE研究員 : 石橋 弘志
COE研究員 : 阿草 哲郎
研究機関研究員 : 久保田 彰 (平成18年4月～)
研究機関研究員 : 新美 聰子 (平成18年4月～)
研究機関研究員 : 渡辺 倫夫 (平成18年4月～)
日本学術振興会外国人特別研究員 : 南 銅是 (平成18年4月～)
事務補佐員 : 上城戸香奈 (平成18年4月～)

生態系解析分野

教授 : 鈴木 聰
* 助教授 : 上田 拓史 (平成18年3月から高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設教授)
助手 : 金本自由生
助手 : 野中 里佐
COE研究員 : 大林由美子
COE研究員 : Habibur Md. Rahman
COE研究員 : 西部裕一郎
* COE研究員 : 小林 剛 (~平成18年3月)
研究機関研究員 : 張 光竑
COE研究補助員 : 富久保雅美

環境影響評価予測分野

教授 : 井内 美郎
助教授 : 大森 浩二
助手 : 奈良 正和
COE研究員 : 宮坂 仁
COE研究員 : 加藤 元海
日本学術振興会外国人特別研究員 : Todd Miller (平成18年5月～)
COE研究補助員 : 小倉 真紀
COE研究補助員 : 大西秀次郎
COE研究補助員 : 坂木佳菜子 (平成18年4月～)

中島マリンステーション

ステーション長 : 武岡 英隆 (平成18年3月～)

研究協力部研究国際協力課

課長 : 松本 正 (平成18年4月～)
* 課長 : 徳永平太郎 (平成18年4月より研究協力部部長)
専門役 : 篠川 満俊
事務補佐員 : 家久 恒美
事務補佐員 : 中山 真理
事務補佐員 : 星加恵理子
事務補佐員 : 内藤亜矢子 (平成18年4月～)
派遣社員 : 池田 梨沙
* 事務補佐員 : 栗田 純子 (~平成18年3月)

※ * は転任または退職した職員を示す

1. 2 各分野の概要

環境動態解析分野

研究内容：潮流や密度流などの沿岸海域の流れの実態と、これらと生物生産機構や海洋汚染の機構の関わりを解明することを中心的課題とする分野である。貧酸素水塊や赤潮などの発生機構の解析、養殖漁場の物質循環と環境変動の解析、沿岸域開発に伴う環境影響の解析等に加え、沿岸域の環境変動の長期的モニタリングを行って、地球環境変動に伴う沿岸海域の環境変動の実態や原因の究明と将来予測などを行う。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇和海水温情報システムの開発、瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明、赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明、養殖漁場の物質循環と環境保全、クラゲ類の大量発生と集群メカニズム

生態環境計測分野

研究内容：内分泌搅乱物質（環境ホルモン）など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質を対象に、海洋汚染の現状と推移、海洋環境における挙動とゆくえ、海洋生態系における蓄積の特徴、生物濃縮機構、毒性影響評価などについて地域的・地球的視点で研究をすすめ、化学物質のリスクから海洋生態系をまもるための方途を提言する。

主な研究テーマ：地球規模での大気、水質、堆積物（土壌）、生態系汚染の実態解明と動態解析、途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析、養殖魚場の化学汚染と影響の解明、野生生物（プランクトン、両生類、は虫類、魚類、鳥類・哺乳類）およびヒトの汚染実態の解明と生物濃縮の機構の解析およびリスク評価、水産資源がもたらす人体の汚染と健康影響評価、海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測

生態毒性解析分野

研究内容：ダイオキシン類・内分泌かく乱化学物質や重金属に代表されるような環境汚染物質を対象に、水圏野生生物のシトクロム P450やメタロチオネインを指標とした暴露・毒性影響の評価法の開発、細胞内情報ネットワーク搅乱の包括的モニタリング法の開発、および毒性影響の感受性を決定する分子機構の解明に関する研究を実施し、水圏生態系のリスク評価を目指す。

主な研究テーマ：化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素系への影響、核内レセプターの比較機能学的研究、シトクロム P450およびメタロチオネインの比較機能学的研究、野生生物の DNA マイクロアレイを利用した遺伝子発現モニタリング、化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明

生態系解析分野

研究内容：海洋物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究、海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究、沿岸・内湾域の動物プランクトンや底生動物を対象生物とした生態と分類に関する研究、魚類と藻場の生態学的研究。

主な研究テーマ：海洋微生物の物質代謝に関する研究、海洋微生物間での遺伝子伝播の研究、魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態、動物プランクトンやメイオベントスの生態・分類に関する研究、ナメクジウオの生態学的研究、共生性甲殻類と二枚貝類を用いた種の多様化機構の解明、アイナメ科魚類の生態学、藻場の経時的变化

環境影響評価予測分野

研究内容：海底及び海底境界層の解析：海底堆積物を研究の主な対象とし、堆積物の分析による過去の環境変遷の復元と、それに基づいた将来の環境変動による沿岸環境変動の予測、底棲生物を含めた堆積物中の物質循環過程の解明、堆積物の底棲生物への影響、藻場や干潟などの堆積環境の変遷とその生物生産に対する役割の解明及び将来予測等に関する研究

主な研究テーマ：瀬戸内海の砂堆の生態系に関する総合研究、宇和海の環境変遷史解明、琵琶湖の環境変遷史解明、野尻湖の環境変遷史解明、沿岸域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究、新第三紀以降の沿岸システムにおける底生群集と生痕ファブリックに関する研究

2. 研究者要覧



(平成18年4月現在)

環境動態解析分野



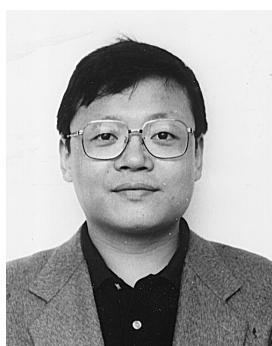
武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

【生年月日】昭和25年10月22日 【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部卒業、昭和51年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究】1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3.瀬戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響, 6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 【受賞歴】1999年日本海洋学会日高論文賞 2003年愛媛県政発足記念日知事表彰 2003年瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰



杉本 隆成 Sugimoto Takashige

【生年月日】昭和17年12月4日 【職名】客員教授(21世紀COE) 【電話】089-927-8178 【FAX】089-927-9846 【E-mail】sugimoto@scc.u-tokai.ac.jp 【学歴】昭和41年3月京都大学理学部地球物理学卒業、昭和43年3月京都大学大学院理学研究科修士課程地球物理学専攻修了、昭和46年6月京都大学大学院理学研究科博士課程地球物理学専攻単位取得退学 【学位】昭和49年3月京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 海洋気象学会, 4. 水産海洋学会, 5. 日本水産学会, 6. 日本プランクトン学会, 7. 生物資源研究会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学, 3. 水産海洋学 【主な研究】1. 沿岸海洋における循環流の力学と海水交換過程, 2. 黒潮の物質・輸送機構および生物生産機能, 3. 黒潮親潮移行域の海況変動とその魚群回遊に及ぼす影響, 4. 海洋生態系と浮魚類資源の気候変動への応答過程 【受賞歴】1976年日本海洋学会岡田賞



郭 新宇 Guo Xinyu

【生年月日】1968年1月22日 【職名】助教授 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月中国天津大学海洋船舶工学科卒業、平成3年1月中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了、平成9年3月愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月博士(工学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. American Geophysical Union, 4. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 黒潮と沿岸海域の相互作用, 2. 瀬戸内海の海洋環境予測に関する基礎研究



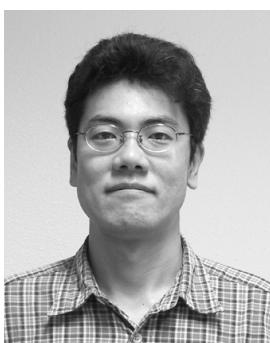
兼田 淳史 Kaneda Atsushi

【生年月日】1971 年 8 月 7 日 【職名】助手 工学部環境建設工学科兼務 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kaneda@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月 愛媛大学工学部海洋工学科卒業, 平成8年3月愛媛大学大学院工学研究科博士前期課程土木海洋工学専攻終了 【学位】平成15年3月博士(理学)愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 水産海洋学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 黒潮が沿岸環境に与える影響 2. 豊後水道の物理環境に関する研究, 3. 沿岸域の長期環境変動, 4. 陸棚域の物質輸送過程



川村 有二 Kawamura Yuji

【生年月日】昭和 50 年 9 月 3 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】kawamura@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年3月 東京水産大学海洋生産学科卒業, 平成13年3月 東京水産大学水産学研究科博士前期課程海洋生産学専攻修了, 平成16年3月 東京水産大学水産学研究科博士後期課程海洋環境学専攻修了 【学位】平成16年3月博士(水産学)東京水産大学 【所属学会】1. 日本海洋学会 【専門分野】1. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 内部潮汐の反射・散乱過程に関する研究



加 三千宣 Kuwae Michinobu

【生年月日】昭和 43 年 2 月 11 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月大阪市立大学大学院博士(理学) 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本海洋学会, 4. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水文学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 硅藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答, 3. ウロコを用いた多種性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた陸棚斜面域の冷水湧昇の長期変動に関する研究.



山口 一岩 Yamaguchi Hitomi

【生年月日】1975 年 2 月 20 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】yama@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成 9 年 3 月 東京水産大学卒, 平成13年3月香川大学大学院修士課程了, 平成17年3月北海道大学大学院博士後期課程了 【学位】平成17年3月 博士(水産科学), 北海道大学 【所属学会】日本海洋学会, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 日本ベントス学会 【専門分野】海洋物質循環学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海洋における親生物元素(炭素・窒素・リン・珪素等)の分布と収支, 2. 沿岸海洋における浮遊性および底生性微細藻類の動態



高橋 大介 Takahashi Daisuke

【生年月日】1977 年 8 月 17 日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】d-taka@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月 北海道大学水産学部水産海洋科学科卒業, 平成14年3月 北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士前期課程修了, 平成17年3月 北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成17年3月博士(水産科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会 【専門分野】1. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 噴火湾における風駆動の循環に関する研究, 2. 海洋における残留性有機汚染物質の輸送過程に関する研究, 3. 濑戸内海における水位変動に関する研究



藤井 直紀 Fujii Naoki

【生年月日】昭和52年5月18日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】medusae@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月広島大学大学院生物圏科学研究科環境循環系制御学専攻修了 【学位】平成17年3月博士(学術)広島大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 水産海洋学会, 3. 日本プランクトン学会, 4. 日本沿岸域学会, 5.瀬戸内海研究会議, 6.漂着物学会 【専門分野】1. 生物海洋学, 2. 水圏環境学 【主な研究】1. 内湾における生物資源持続性評価法の開発, 2. クラゲ類の生態学的研究, 3. ゼラチン質動物プランクトンの集群形成メカニズムに関する研究



張 強勳 Chang Pilhun

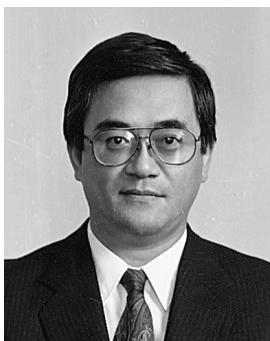
【生年月日】1973年3月19日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】phchang@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年2月東亜大学卒, 平成11年2月東亜大学大学院修士課程了, 平成16年9月九州大学大学院博士後期課程了 【学位】平成16年9月 博士(理学)九州大学 【所属学会】日本海洋学会, 韓国海洋学会 【主な研究テーマ】1. 沿岸海洋の変動における外洋環境の役割, 2. 瀬戸内海における海洋環境予測



ロランド・サヨ・バルトロ Rolando Sayo Balotro

【生年月日】1965年8月24日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-8997 【FAX】089-927-9846 【E-mail】balotro@dpc.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年9月九州大学大学院博士後期課程了 【学位】平成14年9月 博士(理学)九州大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. American Geophysical Union 【主な研究テーマ】1. ルソン海峡における黒潮の進入過程とそのフィリピン沿岸環境への影響評価

生態環境計測分野



田辺 信介 Tanabe Shinsuke

【生年月日】昭和26年2月21日 【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース, 理学部生物地球圏科学科, 大学院農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース, 大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻, 大学院理工学研究科博士前期課程生物地球圏科学専攻, 大学院理工学研究科博士後期課程環境科学専攻兼務 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本水産学会, 4. 日本農芸化学会, 5. 日本極地研究振興会, 6. 日本薬学会, 7. 日本環境科学会, 8. 日本生態学会, 9. 日本地球化学会, 10. 日本環境化学会, 11. 日本比較生理化学会, 12. 日本環境毒性学会, 13. 日本BICER協議会, 14. 日本鳥学会, 15. 日本哺乳類学会, 16. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 17. 日本化学会, 18. 日本微量元素学会, 19. 日本海セトロジー研究会, 20. 日本ウミガメ協議会, 21. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議, 22. 東南アジ

ア国際農学会, 23. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 24. Society for Marine Mammalogy, 25. American Chemical Society 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質(P TS)による地球規模の海洋汚染とその動態, ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究, 2. P TSによる海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3. P TSによる北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4. P TSによる鳥類の汚染と毒性影響に関する研究, 5. P TSによる深海生物の汚染と毒性影響に関する研究, 6. マッセルウオッチ:二枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究, 12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究, 13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究, 14. 有機臭素化合物等防燃剤による環境汚染, 生物蓄積, 経年変化, 生態影響に関する研究, 15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究, 16. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究 【受賞歴】1985年4月日本海洋学会岡田賞, 1999年3月日産科学賞, 2000年10月ISI引用最高栄誉賞, 2003年12月ベトナム政府フレンドシップメダル, 2004年7月日本環境化学会学術賞, 2004年10月日本環境科学会学術賞, 2005年11月The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award国際賞



アンナマライ・スブラマニアン Annamalai Subramanian

【生年月日】1949年1月3日 【職名】客員教授(21世紀COE) 【電話】089-927-8192 【FAX】089-927-8172 【E-mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月愛媛大学博士(学術), 1982年6月Annamalai University Ph.D. 【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】1. 海洋環境学 【主な研究テーマ】1. 内分泌搅乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



高橋 真 Takahashi Shin

【生年月日】昭和46年5月21日 【職名】助教授 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】shint@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本環境毒性学会, 4. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 5. 廃棄物学会, 6. American Chemical Society, 7. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境地球化学, 2. 環境保全工学 【主な研究テーマ】1. 有害物質による海洋生態系の汚染と物質挙動に関する環境化学的研究, 2. 有機スズ化合物による陸上および海洋生態系の汚染と影響に関する研究, 3. 循環資源・廃棄物を対象とした試験法開発と対策評価に関する研究, 4. 有機ハロゲン化合物の分解・代謝挙動と活性化に関する研究, 5. 安定同位体を用いた海洋食物連鎖網における有害物質濃縮挙動の解析に関する研究

2. 研究者要覧



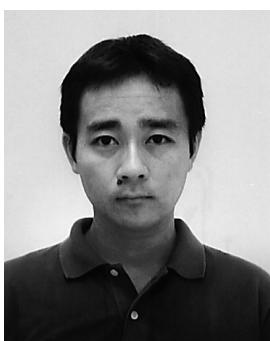
ツ・ミン・ビン Tu Binh Minh

【生年月日】1972年5月11日 【職名】客員助教授(21世紀COE) 【電話】089-927-8174【FAX】089-927-8171 【E-mail】minh@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年9月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成12年9月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 途上国都市ゴミ集積場における有害物質の汚染と影響に関する研究, 2. ベトナムにおける生物蓄積性有害物質の環境汚染と生体影響に関する研究



国末 達也 Kunisue Tatsuya

【生年月日】昭和43年9月21日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171 【E-mail】kunisue@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. アジア途上国の都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類等POPsの汚染に関する研究, 2. 野生高等動物におけるダイオキシン類の肝集積に関する研究, 3. 水酸化代謝物の生成機構と体内挙動に関する比較生物学的研究



磯部 友彦 Isobe Tomohiko

【生年月日】昭和49年2月19日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171 【E-mail】t.isobe@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年3月東京農工大学大学院連合農学研究科資源環境学専攻博士課程修了 【学位】平成13年3月東京農工大学博士(農学) 【所属学会】日本内分泌かく乱化学物質学会, 日本水環境学会 【専門分野】環境化学, 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 新規POPs候補物質の分析法開発, 2. 臭素系難燃剤の環境動態解明に関する研究



アグス・スダリヤント Agus Sudaryanto

【生年月日】1969年1月21日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8174 【E-mail】aguss@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化合物によるアジア途上国の環境汚染に関する研究, 2. 有機ハロゲン化合物によるインドネシアの環境汚染に関する研究



池本 徳孝 Ikemoto Tokutaka

【生年月日】昭和50年8月26日 【職名】研究員 【電話】089-927-8132 【FAX】089-927-8133 【E-mail】tokuzo@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻修士課程終了, 平成16年3月愛媛大学大学院連合農学研究科環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成15年愛媛大学修士(農学), 平成16年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本微量元素学会, 2. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 3. 日本ペントス学会 【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. 海棲高等動物の重金属解毒機構の解明, 2. 水圏生態系における環境化学物質の食物連鎖を介した生物濃縮特性の解明



染矢 雅之 Someya Masayuki

【生年月日】昭和53年5月9日 【職名】研究員 【電話】089-927-8174 【FAX】089-927-8171
【E-mail】somekiti@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻修士課程終了 【学位】平成15年愛媛大学修士(農学) 【所属学会】なし
【専門分野】1. 環境化学 【主な研究テーマ】1. アジア途上国沿岸域におけるダイオキシン類の汚染実態と推移の解明に関する研究

生態毒性解析分野



岩田 久人 Iwata Hisato

【生年月日】昭和39年6月2日 【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース, 大学院農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース, 大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻兼務 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成6年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成6年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本分子生物学会, 2. 日本生化学会, 3. Society of Toxicology, 4. 日本環境化学会, 5. 日本BICER協議会, 6. 日本環境毒性学会, 7. 日本獣医学会, 8. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 9. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 内分泌搅乱物質による海洋生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 内分泌搅乱物質の暴露に反応する生体内分子の検索, 3. 内分泌搅乱物質による毒性影響の種特異的感受性を決定する生体分子機構の解明 【受賞歴】1994年9月QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology



金 恩英 Kim Eun-Young

【生年月日】昭和43年8月17日 【職名】客員助教授 (21世紀COE) 【電話】089-927-8194
【FAX】089-927-8194 【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. エコトキシコロジー研究会, 3. 日本内分泌搅乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌搅乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの検索



仲山 慶 Nakayama Kei

【生年月日】昭和49年6月13日 【職名】助手 【電話】089-927-8133 【FAX】089-927-8133
【E-mail】kei-n@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月九州大学大学院生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士(後期)課程修了 【学位】平成15年9月九州大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1. 環境毒性学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. トキシコジェノミクスおよびプロテオミクスアプローチによる野生高等動物における化学物質毒性メカニズムの解明, 2. 有機スズおよびPCBsがメダカの再生産および行動に及ぼす影響

2. 研究者要覧



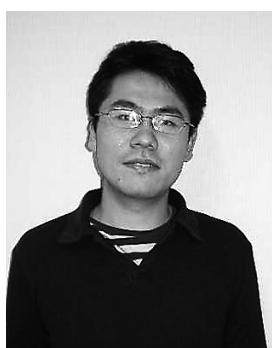
石橋 弘志 Ishibashi Hiroshi

【生年月日】昭和47年10月21日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】hiroishi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年3月長崎大学大学院生産科学研究科博士課程修了 【学位】平成15年3月長崎大学博士(学術) 【所属学会】1. 日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1.環境毒性学 【主な研究テーマ】1.in vitro PPAR-レポーター遺伝子アッセイ系を用いた野生生物の化学物質リスク評価系の開発, 2. 野生生物における有機フッ素化合物代謝の比較生物学, 3. バイカルアザラシのオリゴアレイを用いた化学物質曝露に反応する遺伝子の探索 【受賞歴】2002年日本水環境学会九州支部学術奨励賞



阿草 哲郎 Agusa Tetsuro

【生年月日】1977年11月16日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8133 【FAX】089-927-8133 【E-mail】ax@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成17年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1.日本微量元素学会, 2.Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1.環境化学, 2.環境毒性学 【主な研究テーマ】1.アジア途上国における微量元素汚染とヒトへの影響, 2.野生生物におけるヒ素蓄積機構の解明



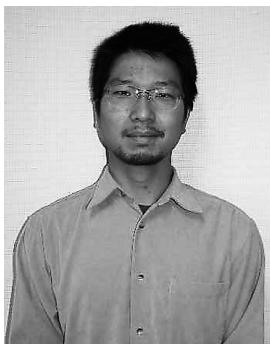
久保田 彰 Kubota Akira

【生年月日】昭和53年5月20日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】danzig@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】1.日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1.環境毒性学 【主な研究テーマ】1. ダイオキシン類による野生鳥類の汚染とその影響評価, 2. 鳥類チトクロームP4501A分子種の機能解析 【受賞歴】2005年日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞



新美 智子 Niimi Satoko

【生年月日】昭和50年12月20日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】stkniiimi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3月愛媛大学博士(農学) 【所属学会】 【専門分野】1.環境毒性学 【主な研究テーマ】1.水棲哺乳類における内分泌搅乱化学物質による毒性影響評価および薬物代謝酵素の機能解明



渡辺 優夫 Watanabe Michio

【生年月日】昭和52年12月2日 【職名】研究機関研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-914-8194 【E-mail】earth@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3月愛媛大学博士(学術) 専門分野 1.環境毒性学 【主な研究テーマ】1.野生の陸棲動物におけるダイオキシン類汚染と肝チトクロームP450への影響, 2.ニワトリ初代培養細胞を用いたダイオキシン類および有機フッ素化合物暴露の遺伝子発現プロファイルへの影響, 3.カワウ胚発生におけるTCDD暴露の影響



南 銅呈 Nam Dong-Ha

【生年月日】昭和 50 年 1 月 30 日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-8194 【FAX】089-914-8194 【E-mail】dhn@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成18年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成18年3月愛媛大学博士(学術) 【所属学会】1.日本内分泌搅乱化学物質学会 【専門分野】1.環境毒性学 【主な研究テーマ】1.野生鳥類のメタロチオネインを利用した重金属汚染のリスク評価に関する研究

生態系解析分野



鈴木 聰 Suzuki Satoru

【生年月日】昭和31年6月24日 【職名】教授 農学部生物資源学科・理学部生物地球圏科学科・連合農学研究科・理工学研究科併任 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】ssuzuki@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月薬学博士北海道大学 【所属学会】1.日本微生物生態学会, 2.日本魚病学会, 3.日本海洋学会, 4.マリンバイオテクノロジー学会, 5.日本水産学会, 6.日本化学会, 7.米国微生物学会, 8.国際微生物生態学会 【専門分野】1.微生物学, 2.生態系生化学, 3.環境分子生物学 【主な研究テーマ】1.海洋微生物由来高分子の溶存態への移行過程に関する研究, 2.微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3.海洋コア中の微生物群集の研究, 4.有機スズ耐性・分解菌の分子生態学的研究, 5.魚介類の日和見・再興感染症原因ビルナウイルスの生態に関する研究 【受賞歴】1999年日本魚病学会研究奨励賞, 2001年日本微生物生態学会論文賞



金本自由生 Kanamoto Ziyusei

【生年月日】1947年6月20日 【職名】助手 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-8295 【FAX】089-927-8295 【E-mail】ziyusei@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月東北大学大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了 【学位】昭和61年2月農学博士東北大学 【所属学会】1.日本水産学会, 2.水産増殖学会, 3.日本魚類学会, 4.日本ベントス学会, 5.稚魚研究会, 6.沖縄生物学会, 7. American Society of Herpetologist and Ichthyologist 【専門分野】海洋生態学 【主な研究テーマ】1.アイナメ科魚類の分布生態, 2.アイナメ科魚類の繁殖生態, 3.アイナメ科魚類の生活史, 4.海草の分布生態, 5.海草藻場の経時的変化の研究



野中 里佐 Nonaka Lisa

【生年月日】昭和48年8月8日 【職名】助手 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551
【E-mail】lisa@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成14年3月 博士(農学) 愛媛大学 【所属学会】1. 米国微生物学会, 2. 日本微生物生態学会 【専門分野】環境微生物学 【主な研究テーマ】1. 海洋細菌における環境由来DNAの利用機構, 2. 海洋細菌におけるテトラサイクリン耐性遺伝子の分布と伝播



大林由美子 Obayashi Yumiko

【生年月日】昭和47年12月3日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】jojo@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年12月名古屋大学大学院理学研究科地球惑星理学専攻修了 【学位】平成14年12月 博士(理学) 名古屋大学 【所属学会】日本海洋学会 【専門分野】1. 生物地球化学 【主な研究テーマ】1. 海洋における有機物の動態



ハビブル・モハマド・ラーマン Habibur Md. Rahman

【生年月日】昭和39年9月1日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】hrzool@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物資源生産学修了 【学位】平成11年3月 博士(学術) 愛媛大学 【所属学会】未入会 【専門分野】1. 微生物生態学 2. 魚病学 【主な研究テーマ】1. 海洋生物腸内と海底堆積物中における薬剤耐性遺伝子の分布



西部裕一郎 Nishibe Yuichiro

【生年月日】昭和52年1月8日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】nishibe@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月北海道大学大学院水産科学研究科環境生物資源学専攻修了 【学位】平成17年3月博士(水産科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本プランクトン学会, 3. 日本陸水学会 【専門分野】水圏生態学 【主な研究テーマ】1. 海産カイアシ類の生態学, 2. 湖沼における有害藻類と動物プランクトンの生物間相互作用に関する研究



張 光炫 Chang Kwang-Hyeon

【生年月日】昭和47年10月18日 【職名】研究機関研究員 【電話】090-1829-4430 【FAX】089-946-9773 【E-mail】changkwang38@hotmail.com 【学歴】平成15年3月信州大学工学系研究科博士課程地球環境システム専攻修了 【学位】平成15年3月博士(理学) 信州大学 【所属学会】1. 日本プランクトン学会, 2. 日本生態学会, 3. 日本陸水学会 【専門分野】1. 生態学, 2. 陸水学 【主な研究テーマ】1. 沿岸動物プランクトン群集の変動と環境要因との関わり, 2. 沿岸浮遊生物群集における動物プランクトン群集を中心とした生物間相互作用解析, 3. 淡水生態系における動物プランクトン群集の構造と機能解析

環境影響評価予測分野

井内 美郎 Inouchi Yoshio



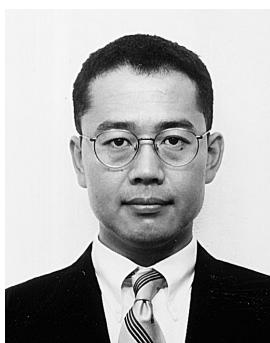
【生年月日】昭和24年7月11日 【職名】教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9674 【FAX】089-927-9674 【E-mail】yinouchi@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月京都大学理学部地質学鉱物学教室 【学位】昭和59年5月理学博士京都大学 【所属学会】1. 日本地質学会, 2. 日本第四紀学会, 3. 日本陸水学会, 4. 日本堆積学会, 5. 日本沿岸域学会, 6. American Geophysical Union, 7. Geological Society of America, 8. 日本海洋学会 【専門分野】1. 環境地質学, 2. 堆積学, 3. 第四紀学 【主な研究テーマ】1. 濑戸内海の砂堆の形成機構と資源量評価, 2. 琵琶湖の環境変遷に関する研究, 3. 野尻湖における環境変遷史解明, 4. 愛媛県下宇和海における環境変遷史解明, 5. 濑戸内海各地における環境変遷史解明, 6. 美保湾における堆積作用の研究

大森 浩二 Omori Koji



【生年月日】1955年2月6日 【職名】助教授 理学部生物地球圏科学科併任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】ohmori@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析

奈良 正和 Nara Masakazu



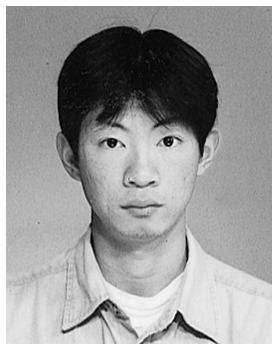
【生年月日】昭和44年2月7日 【職名】助手 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】nara@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成8年3月京都大学大学院理学研究科博士後期課程地質学鉱物学専攻修了 【学位】平成8年3月京都大学博士(理学) 【所属学会】1. 日本古生物学会, 2. 日本地質学会, 3. 堆積学研究会, 4. 日本ベントス学会, 5. 東京地学協会, 6. 石油技術協会, 7. Society for Sedimentary Geology, 8. International Association of Sedimentologists 【専門分野】1. 生痕学, 2. 古生態学, 3. 堆積学 【主な研究テーマ】1. 地球規模の環境変動が沿岸生態系に及ぼしてきた影響の解析, 2. 新生代の浅海環境における生痕ファブリック解析, 3. 浅海域の堆積作用と底生生物との相互作用に関する研究, 4. 現世の波浪卓越型および潮汐卓越型海岸における堆積相と生痕ファブリックに関する研究, 5. 生痕化石の古生態学的研究。

宮坂 仁 Miyasaka Hitoshi



【生年月日】昭和44年2月1日 【職名】COE 研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】predator@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成12年北海道大学大学院地球環境科学研究科生態環境科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成12年3月 地球環境科学博士 北海道大学 【専門分野】1. 水圏生態学, 2. 同位体生態学 【主な研究テーマ】1. 安定同位体比を用いた沿岸生態系における群集構造解析に関する研究 2. 深海生態系における汚染化学物質の生物濃縮過程に関する研究 3. 河川生態系における物質循環と生物群集の連結に関する研究 4. 汚染物質の現状と歴史の解析に基づく流域・沿岸域環境の適正管理に関する研究

2. 研究者要覧



加藤 元海 Kato Motomi

【生年月日】昭和48年10月3日 【職名】COE研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】genkai@mserv.sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年京都大学大学院理学研究科生物科学専攻博士後期課程修了 【学位】平成13年3月 理学博士 京都大学専門分野 1.水圈生態学, 2.数理生態学 【主な研究テーマ】1. 数理モデルを用いた水圏生態系解析に関する研究



Todd William Miller

【生年月日】1969年3月19日 【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-8167 【E-mail】Todd.Miller@noaa.gov 【学歴】オレゴン州立大学博士課程修了 【学位】2006年5月 理学博士 オレゴン州立大学 【専門分野】1. 海洋生態学 【主な研究テーマ】1. 安定同位体比解析による沿岸域生態系の健全性の定義に関する研究

3. 研究プロジェクト



3.1 21世紀COEプログラム

CMESを中心とする「沿岸環境科学研究拠点」が21世紀COEプログラムに採択され、平成14年度は231,000千円、平成15年度は253,000千円、平成16年度は240,000千円、平成17年度は205,700千円が交付された。同拠点では、CMESの所有する世界各地の野生生物や環境の試料を集積した「生物環境試料バンク」と佐田岬で行っている栄養塩自動モニタリングを重要な研究基盤として、「内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明」と「地球環境変動による沿岸域生態系変動機構の解明と将来予測」の二つのテーマを中心に研究を展開している。また本拠点では、関連研究分野の博士課程学生やポスドク研究員を対象に、学際化や国際化を意図した沿岸環境科学の研究・教育を展開し、21世紀の環境展望が語れる人材、国際社会や地域社会に貢献できる人材、組織のチームリーダーになれる人材を多数育成する計画である。

3.2 科学研究費等

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆（代表）、基盤研究（A）(1)「瀬戸内海における海砂生態系の機能とその破壊からの回復過程に関する研究」、10,010千円

概要：瀬戸内海ではコンクリート骨材として大量の海砂が採取されてきたが、このような海砂採取は大規模な環境破壊として大きな社会問題となり、近年各県で海砂採取禁止措置が相次いでいる。これらの動きに並行して、環境省や沿岸各県で海砂採取の影響調査が行われてきた。しかしこれらの研究は、海砂によって形成された砂堆域を中心とする生態系の構造や機能に関する本質的理解にはほど遠い。本研究では海洋の各分野の専門家の学際的連携により、海砂が採取された後の海域と採取が行われていない海域での総合的な実験調査、モニタリングを行うことにより、主に以下のことを明らかにすることを目的としている。(1) 砂堆域および周辺海域の生態系の構造、物質循環、生物生産性などを明らかにし、砂堆域が瀬戸内海の生態系に対して果たしている役割を包括的に解明する。(2) 海砂採取後の海域の地形や生態系の経年変化をモニターして、自然による環境の回復力を明らかにするとともに、将来の環境変化を予測する。

- 2) 郭 新宇（代表）、若手研究（B）「三峡ダムと長江分水プロジェクトが東シナ海の海洋環境に及ぼす影響に関する研究」、2,800千円、

概要：東シナ海の高解像度数値モデルと現地観測データを用いて、長江と黄河の淡水流出量の変化による東シナ海への栄養塩供給の変化を定量的に評価する。

- 3) 加（榎木）玲美（代表）、日本学術振興会特別研究員奨励費「琵琶湖生態系の変動の鍵を握る動植物プランクトンに関する研究」、900千円

- 4) 黒田 寛（代表）、日本学術振興会特別研究員奨励費「沿岸親潮の形成・維持および季節変化機構に関する研究」、900千円

概要：北海道太平洋沿岸域における海洋観測資料を解析し、沿岸親潮の形成・維持および季節変化機構を明らかにする。

- 5) Balotro Rolando Sayo（代表）、日本学術振興会特別研究員奨励費「ルソン海峡における黒潮の進入過程とそのフィリピン沿岸環境への影響評価」、600千円

概要：現地観測と数値モデルを用いて、フィリピン沿岸海域の海洋環境、特に黒潮の変動に伴う栄養塩環境の変動特性を明らかにする。

- 6) 郭 新宇（分担）、総合地球環境学研究所研究課題「近年の黄河の急激な水循環変化とその意味するもの」、2,500千円

概要：渤海での現地観測により、黄河の流量変動が渤海生態系に及ぼす影響を調査する。

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介 (拠点リーダー), 21世紀 COE「沿岸環境科学研究拠点」, 205,700千円
概要: 内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明, 地球環境変動による沿岸生態系変動機構の解明と将来予測に関する研究および教育を展開するとともに, 生物環境試料バンクの施設およびデータベースの整備や国際ワークショップを開催するなど本事業の中核的活動を遂行した。
- 2) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 「臭素系難燃剤 PBDE による広域汚染・生物蓄積の実態解明と生態影響評価に関する研究」, 15,210千円
概要: 生物環境試料バンクに保存されている鯨類および鰓脚類の臓器・組織を供試して PBDEs 汚染の歴史的推移を明らかにした。
- 3) 田辺 信介 (代表), 研究成果公開促進費 「Bioindicators of POPs -Monitoring in Developing Countries-」, 2,900千円
概要: 生物指標を用いて残留性有機汚染物質の環境モニタリングを実施する際の利点や問題点および途上国汚染監視に適した生物種等についてまとめ, 欧文書籍として出版した。
- 4) 田辺 信介 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」, 国立環境研究所, 5,000千円
概要: 鳥類の試料を供試して, 有機臭素系難燃剤 PBDEs の蓄積特性や生物濃縮の態様について明らかにした。
- 5) 高橋 真 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」, 国立環境研究所, 3,000千円
概要: 途上国のゴミ集積場における POPs および有機臭素系難燃剤 PBDEs の汚染実態について明らかにした。
- 6) 高橋 真 (分担), 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金 「循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ/モニタリング手法の開発」, 国立環境研究所, 2,000千円
概要: 廃棄物のリサイクル, 処理工程における有機臭素化合物の動態について明らかにした。
- 7) 久保田 彰 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費 「ダイオキシン類による野生鳥類の汚染とその影響評価」, 900千円
概要: 野生の鳥類に注目して, ダイオキシン類の汚染実態解明とチトクローム P450が介在する毒性影響を遺伝子レベルで究明した。

生態毒性解析分野

- 1) 岩田 久人 (代表), 基盤研究 (A) 「水圏生物の核内受容体 CAR を利用した化学物質のハイスクローリング評価」, 11,900千円
概要: 水圏生物の核内受容体 CAR の遺伝子をクローニングし, in vitro レポーター遺伝子アッセイ系を構築した。また, そのアッセイ系を用いて, 化学物質の CAR 活性化能を評価した。
- 2) 岩田 久人 (代表), 萌芽研究 「野生カワウ個体群のエコトキシコゲノミクス」, 2,000千円
概要: カワウのマイクロアレイを作成した。さらに, そのアレイを用いて, 化学物質が野生カワウ個体群の遺伝子発現プロファイルに及ぼす影響について評価した。
- 3) 岩田 久人 (分担), 新世紀重点研究創成プラン, 人・自然・地球共生プロジェクト 「インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発」, 1,650千円
概要: メコン川流域における地下水のヒ素汚染や, 水圏環境の POPs 汚染の実態について調査した。
- 4) 梶原 夏子 (代表), 若手研究 (B) 「臭素系難燃剤 PBDE による日本沿岸漂着鯨類の汚染とその影響に関する研究」, 1,200千円
概要: 日本沿岸漂着鯨類の組織中に蓄積する臭素系難燃剤 PBDE の汚染レベルやその経年変動について明らかにした。
- 5) 梶原 夏子 (代表), 愛媛大学研究開発支援経費 「新規有害物質 PBDE によるアジア途上国の汚染」, 1,800千円
概要: アジア途上国の沿岸性生物やゴミ投棄場土壤の PBDE 汚染の実態を明らかにした。
- 6) 上野 大介 (代表), 日本学術振興会特別研究員奨励費 「指標生物を用いた海洋におけるダイオキシン類汚染モニタリングとその生体影響評価」, 1,100千円
概要: カツオを指標生物とし, ダイオキシン類や有機臭素系難燃剤による海洋汚染の実態と地球規模の挙動について明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰 (分担), 基盤研究 (A) (2) 「微生物からみた東南アジアの環境評価」, 2,500千円
概要: メコン川堆積物中における薬剤耐性遺伝子の多様性および有機スズ耐性菌・分解菌の多様性を解析し, メコン川の遺伝子汚染状況と微生物生態系の安定性を明らかにする。
- 2) 上田 拓史 (分担), 科研費基盤 (A) (2) 「有明海スズキとタイリクスズキをめぐる資源生物学と保全生態学の融合」
概要: 有明海スズキ稚魚の主要な餌になっている筑後川河口域の動物プランクトンの分布について調査を行った。
- 3) 金本自由生 (分担), 基盤研究 (A) (1) 「瀬戸内海における海砂生態系の機能とその破壊からの回復過程に関する研究」, 800千円
概要: 海砂採取が海洋生物に与える影響についての, 過去のデータを採集した。現在現地調査と, 回復過程のシミュレーションとして既存の藻場の調査を計画中である。
- 4) 野中 里佐 (代表), 愛媛大学研究開発支援経費「海からの遺伝子伝播—海洋における薬剤耐性遺伝子の分布とヒトへの伝播」, 愛媛大学, 1,800千円
概要: 養殖場底泥中でテトラサイクリン耐性遺伝子のコピー数が薬剤の投与により変化していることを明らかにした。
- 5) 大林由美子 (代表), 科研費若手研究 (B) 「海洋における高分子溶存有機物の代謝機構に関する研究」, 2,200千円
概要: 海水中に複数の種類のタンパク質分解酵素 (アミノペプチダーゼ, トリプシン型酵素, キモトリプシン型酵素) 活性があることを示した。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎 (代表) 基盤C, 琵琶湖の古環境プロキシ (指標) と測器データとの対応をもとにした古環境変遷史解説, 800千円
概要: 琵琶湖表層堆積物の高精度時間分解能による分析結果と彦根市における過去約100年間の気象観測データとの相関関係を明らかにすることにより, 琵琶湖ボーリングデータに示される過去約40万年間の分析結果が示す気象変化を明らかにする。

3. 3 共同研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆, 伊方原子力発電所温排水影響調査, 愛媛県, 653千円
概要: 伊方原子力発電所から排出される冷却用の温排水が付近漁場に与える影響の有無を判断するために, 隣接する海域の環境及び漁業の実態を把握すること目的とした現地調査及び漁獲資料の収集を行う。
- 2) 武岡 英隆, 伊方発電所前面海域における海生生物の挙動に関する研究, 四電技術コンサルタント, 525千円.
概要: 近年, 瀬戸内海や世界各地でクラゲ類の大量発生が頻発し, 問題となっている。本研究では, 伊方発電所の冷却水の取水時に採取されるクラゲ類の量のデータを解析し, クラゲ大量発生の周期性や気象, 海況との関係を解析して, 大量発生や移動・集積機構の解明を目指す。
- 3) 郭 新宇, 東シナ海における栄養塩環境の変動予測, 九州大学応用力学研究所, 400千円
- 4) 郭 新宇, 台湾東北部の湧昇流の季節変化と黒潮流量変動の関係, 名古屋大学地球水循環研究センター, 150千円

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介, ガス中臭素系残留性有機汚染物質処理システム実用化の研究開発, ツルイ化学, 1,386千円
概要: 有機臭素系難燃剤 PBDEs の分解処理に関する化学分析技術と学術情報について産学共同研究を展開した。
- 2) 田辺 信介, ダイオキシン類等有害化学物質共同研究事業, 愛媛県, 1,800千円
概要: 生物環境試料バンク (es-BANK) の野生生物試料及び底質試料中の臭素系難燃剤の調査分析を実施し, この種の物質による汚染が愛媛県にも存在することを明らかにした。
- 3) 田辺 信介, サメに着目した放射能レベル調査の共同研究事業, 愛媛県, 2,260千円

3. 研究プロジェクト

4) 田辺 信介, 南西諸島における魚介類の有害化学物質影響調査, 世界自然保護基金ジャパン, 4,290千円

概要: POPs, 重金属類など有害化学物質による南西諸島魚介類汚染の実態を明らかにした。

生態系解析分野

1) 鈴木 聰, 東レ株式会社愛媛工場, 1,350千円

概要: 逆浸透膜を用いた海水淡水化工程におけるバイオフィルム形成について形成過程を明らかにし, 予測・遅延・防御する技術を開発する。

2) 鈴木 聰, ユニチャーム株式会社, 400千円

概要: 新規表面加工による各種フィルターのウイルス補足能向上をめざした技術開発。

3) 金本自由生, 伊方原発温排水影響調査, 愛媛県, 1,087千円

概要: 伊方原子力発電所から排出される温排水が付着生物に及ぼす影響を調べるために, 排水口近辺から順次定点を定め, 付着生物を調べた。

環境影響評価予測分野

1) 大森 浩二, 下水処理水河川還流実証研究, 松山市, 4,000千円

3. 4 受託研究

環境動態解析分野

1) 郭 新宇, 琵琶湖塩津湾と北湖北部との物質輸送の数値シミュレーション, 琵琶湖・環境科学センター, 2,000千円

生態環境計測分野

1) 田辺 信介, 宇和海の底泥に含まれる有機スズ化合物の分析, 愛媛県水産試験場, 209千円

概要: 有機スズ化合物による宇和海の堆積物の汚染実態を調査し, その汚染の低減は遅いことを明らかにした。

生態毒性解析分野

1) 梶原 夏子, 瀬戸内海に漂着したスナメリの PBDEs 汚染と, 瀬戸内海研究会議, 700千円

概要: 瀬戸内海に死亡漂着したスナメリから高濃度の PBDEs を検出し, 内海の汚染が顕在化していることを示唆した。

2) 梶原 夏子, 有機臭素系難燃剤 PBDEs によるアジア途上国ゴミ集積場の汚染, 住友財団, 1,500千円

概要: ベトナム, カンボジア, インドなどのアジア途上国ゴミ集積場内で採取した土壌から高濃度の PBDEs を検出し, その汚染源が途上国にも存在することを明らかにした。

生態系解析分野

1) 鈴木 聰(代表), 文部科学省, 27,000千円

RR2002, 人・自然・地球共生プロジェクト, インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発

概要: 愛媛大 CMES, 農学部, 医学部, 工学部, 情報センターおよび東京農工大のメンバーで構成され, メコン流域を中心としたインドシナ半島の水資源のヒ素, POPs などによる化学汚染の水循環に伴う拡散と生物濃縮過程と毒性の解明, および汚染除去技術開発を行う。

3. 5 各種研究助成金(民間・財団等), 奨学寄付金等

環境動態解析分野

1) 兼田 淳史, 愛媛大学外国派遣研究員制度, 豊後水道の底入り潮と Gulf Stream 域の bottom intrusion の比較研究, 1,000千円

- 2) 福森香代子, 濑戸内海の環境保全・創造に係る研究助成事業, 濑戸内海沿岸生態系における基礎生産構造の再検討: 安定同位体分析による底棲藻類の生産量推定, 600千円

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介, 平成17年度内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究－韓国沿岸における有機ハロゲン化合物の汚染実態について－, 自然環境研究センター, 4,000千円
概要: 韓国沿岸で採取したイガイを指標生物にして, 有機臭素系難燃剤 PBDEs の汚染実態を明らかにした。
- 2) 田辺 信介, 野生生物のダイオキシン類蓄積状況等調査, 自然環境研究センター, 1,600千円
概要: カワウ, カラス, アカネズミにおけるダイオキシン類の肝臓蓄積と薬物代謝酵素誘導について究明した。
- 3) 田辺 信介, 有害物質によるポルトガルの環境汚染, アベイロ大学(ポルトガル), 409千円
概要: 有機スズ等によるポルトガル沿岸の魚介類汚染について明らかにした。

生態系解析分野

- 1) 金本自由生(代表), 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター共同研究, 「アイナメ科魚類の生活史」, 東京大学海洋研究所, 70千円。
概要: 大槌湾のアイナメ類について, 生活史を10年来追っており, 2004年度は2005年3月の成魚の採集を行ったが1尾採集されたのみであった。浮遊稚魚に関しても1尾採集されたのみで, 予想通り低水温の影響と思われた。
- 2) 野中 里佐(代表), 三菱財団研究助成 「養殖環境・海洋環境の抗生物質耐性遺伝子による汚染環境とヒトへの伝達」, (財) 三菱財団, 3,000千円,
概要: 養殖場底泥中のテトラサイクリン耐性遺伝子保有菌が底泥中に通年存在することを明らかにした。

環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎, 地球温暖化時の湖水位変動の推定を指向した琵琶湖湖水面変動史, 住友財団, 3,000千円
概要: 琵琶湖の過去3.5万年間の湖水位変動を明らかにするために, 琵琶湖において湖底掘削を実施し, 堆積物中の年代資料を得る。
- 2) 大森 浩二, 貯水池の適正管理手法の開発, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 2000千円

4. 研究成果



(暦年で2005年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著 書

生態環境計測分野

- 1) 宮崎信之・田辺信介：有機塩素化合物の汚染、三陸の海と生物、宮崎信之編、サイエンティスト社、239-258.
- 2) Prudente, M. S., Kan-Atireklap, S., Tanabe, S. and Subramanian, An. : Marine pollution monitoring of butyltins and organochlorines in the coastal waters of Thailand, the Philippines, and India. *Mankind and the Oceans*, Miyazaki, N., Adeel, Z. and Ohwada, K. (Eds), United Nations University Press, Tokyo, Japan, 68-91.
- 3) Nakata, H., Tanabe, S., Tatsukawa, R., Amano, M., Miyazaki, N. and Petrov, E. A. : Organochlorine contamination in Baikal seal (*Phoca sibirica*) from Lake Baikal, Russia. *Mankind and the Oceans*, Miyazaki, N., Adeel, Z. and Ohwada, K. (Eds), United Nations University Press, Tokyo, Japan, 92-110.

生態系解析分野

- 1) 上田 拓史：有明海の泥水河口域にすむカイアシ類、水中の小さな巨人たち：カイアシ類の世界、長澤和也編、東海大学出版会、189-202.

環境影響評価予測分野

- 1) 井内 美郎：陸水の事典、講談社、分担 578.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析分野

原 著

- 1) 武岡英隆・速水祐一・兼田淳史：瀬戸内海における環境の長期変動、沿岸海洋研究、43 (1), 45-50.
- 2) 速水祐一・扇山 舟・山田正徳・山田政彦・竹村公宏・武岡英隆：宇和海・北灘湾におけるクロロフィル a 濃度の季節・経年変動、水産海洋研究、69 (1), 1-9.
- 3) Y., Katano, T., Kaneda, A., Takeoka, H. and Nakano, S. : Seasonal changes in the abundance and composition of picophytoplankton in relation to the occurrence of 'Kyuchō' and bottom intrusion in Uchiimi Bay, Japan, *Marine Ecology Progress Series* 298, 59-67.
- 4) Miyazawa Y., Yamane, S., Guo, X., and Yamagata, T. : Ensemble forecast of the Kuroshio meandering, *Journal of Geophysical Research*, 110, C10026, doi : 10.1029/2004JC002426.
- 5) Pil-Hun Chang and Atsuhiko Isobe : Interannual variation of freshwater in the Yellow and East China Seas : Roles of the Changjiang discharge and wind forcing. *J. Oceanogr.*, 61, 817-834
- 6) 杉本隆成・金熙容・竹内淳一・古島靖夫：黒潮沿岸域における環境と生態系の気候変動への応答、沿岸海洋研究、43, 19-25.
- 7) 二村彰・武岡英隆・郭新宇：燧灘成層域における流動・海水交換と熱収支、海の研究、14 (3), 429-440.
- 8) Yuji Kawamura, Yujiro Kitade, Masaji Matsuyama : Scattering of semidiurnal internal Kelvin wave at step bottom topography, *Journal of Oceanography*, Vol. 61, 59-68., 2005
- 9) Yoshihiro Narumi, Yuji Kawamura, Tomoko Kusaka, Yujiro Kitade, Hideki Nagashima : Deep western boundary current along the eastern slope of the Kerguelen Plateau in the Southern Ocean, *La mer*, Vol 43, 49-59, 2005
- 10) Takahashi, D., Nishida, Y., Kido, K., Nishina, K., Miyake, H. : Formation of the summertime anticyclonic eddy

- in Funka Bay, Hokkaido, Japan. *Continental Shelf Research*, 25, 1877-1893.
- 11) Urabe, J., Yoshida, T., Gurung, T., Sekino, T., Tsugeki, N., Nozaki, K., Maruo, M., Nakayama, E., and Nakanishi, M.: The production respiration ratio and its implication in Lake Biwa, Japan, *Ecological Research*, 20, 367-375.
 - 12) 磯田 豊・矢部いつか・黒田 寛:回転系における線形渦度方程式の適用範囲, *沿岸海洋研究*, 43 (1), 61-67.
 - 13) Takata, H., Kuma, K., Iwade, S., Isoda, Y., Kuroda, H. and Senju, T.: Comparative vertical distributions of iron in the Japan Sea, the Bering Sea and the western North Pacific Ocean. *Journal of Geophysical Research*, 110, C07004, doi : 10.1029/2004JC002783

総説等

- 1) 武岡英隆: 沿岸環境問題と沿岸海洋学. *月刊海洋*, 40, 62-66.
- 2) 青山昌史・上 真一・武岡英隆: 宇和海におけるミズクラゲの出現量の経年変動と中型動物プランクトンに及ぼす捕食インパクト, *日本プランクトン学会報*, 52 (1), 38-41.
- 3) 門谷 茂・山口一岩: 底生基礎生産者の再評価. *月刊海洋*, 号外40, 137-146.
- 4) 杉本隆成・黒田一紀・坪井守夫・加三千宣: 資源変動の歴史的変遷—古文書と堆積物コアに基づく海洋環境と生物生産の推定—, *月刊海洋*, 37, 563-567.
- 5) 小松輝久・J. B. Fillipi・松永大輔・三上温子・佐川龍之・石田健一・立川賢一・鰯坂哲朗・田中克彦・青木優和・杉本隆成: 東シナ海における流れ藻の分布, *月刊海洋*, 37, 522-526.
- 6) 宮澤泰正・鍵本崇・川尻秀之・章若潮・佐久間弘文・郭新宇・山形俊男: JCOPE 海洋変動予測システムとその展開, *月刊海洋*, 37 (4), 263-269.
- 7) 郭 新宇: 瀬戸内海の海況予報に向けて, *月刊海洋*, 37 (4), 289-293.

Proceedings

- 1) Guo, X., Miyazawa Y., Yamagata Y.: Seasonal variation of Kuroshio onshore flux in the East China Sea, Extended Abstract of Workshop on the Marine Environment in the East Asian Marginal Seas, 63-66, Kyushu University.
- 2) Wang Q., Guo, X., Takeoka, H.: Wind-dependence of Yellow River plume path in the Bohai Sea, Extended Abstract of Workshop on the Marine Environment in the East Asian Marginal Seas, 19-20, Kyushu University.
- 3) Shiraki Y., Yanagi T., Guo X.: Different behavior of giant jellyfish, Nemopilema nomurai, around Japan in 2003 and 2005, Extended Abstract of Workshop on the Marine Environment in the East Asian Marginal Seas, 97-100, Kyushu University.
- 4) Kuroda, H., Isoda, Y., Kuma, K., Takeoka, H., Honda, S. and Kobayashi, N.: The Intrusion of Shelf Slope Water from the Hidaka Bay into the Eastern Mouth of the Tsugaru Strait at the Beginning of Summer. CD-Rom Proceedings of The 13th PAMS/JECSS Workshop, Bali, Indonesia, 13-15 Jul.
- 5) Chang, P. -H., Isobe A., Matsuno T. and Shimiz, M. : A numerical study on the Changjiang diluted water over the East China Sea in 2003. CD-Rom Proceedings of The 13th PAMS/JECSS Workshop, Bali, Indonesia, 13-15 Jul.
- 6) Yuji Kawamura, Yuichi Hayami, Takeshi Kohama, Atsushi Kaneda, Hidetaka Takeoka : Semidiurnal internal tide in Kitanada Bay, Japan, CD-Rom Proceedings of The 13th PAMS/JECSS Workshop, Bali, Indonesia, 13-15 Jul.
- 7) Hayami, Y., Omori, K., Santoso, A., D., Riyadi, A., Muawanah and Takeoka, H.: Hypoxic water mass in Lampung Bay, Indonesia. Proceedings of International Workshop on Coastal Water Environments and Fish Culture - Case Study in Lampung Bay- Indonesia, Jakarta, Indonesia, 7 June.
- 8) Omori, K., Hayami, Y., Ohnishi, H., Okuda, N. and Takeoka, H.: Mathematical model analysis on coastal ecosystems : Sustainable usage of a coastal ecosystem. Proceedings of International Workshop on Coastal Water Environments and Fish Culture -Case Study in Lampung Bay- Indonesia, Jakarta, Indonesia, 7 June.
- 9) 郭 新宇・金 熙容: 東シナ海の黒潮の変動, 第54回理論応用力学講演会講演論文集, 17-20.
- 10) 藤井直紀・上 真一: 内湾域の生物資源持続性に及ぼす環境の変化, 第4回海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム論文集, 87-92.

生態環境計測分野

原 著

- 1) Agusa, T., Kunito, T., Iwata, H., Monirith, I., Tana, T. S., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Mercury

4. 研究成果

- contamination in human hair and fish from Cambodia: levels, specific accumulation and risk assessment. *Environmental Pollution*, 134 (1), 79-86.
- 2) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S., Muchtar, M. and Razak, H.: Organotin residues and the role of anthropogenic tin sources in the coastal marine environment of Indonesia. *Marine Pollution Bulletin*, 50 (2), 226-235.
 - 3) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Okabe, Y., Kim, E. Y., Subramanian, An., Saeki, K. and Tanabe, S.: Specific accumulation of 20 trace elements in great cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. *Environmental Pollution*, 134 (3), 503-514.
 - 4) Kobayashi, M., Kashida, Y., Yoneda, K., Iwata, H., Watanabe, M., Tanabe, S., Fukatsu, H., Machida, N. and Mitsumori, K.: Thyroid lesions and dioxin accumulation in the livers of jungle crows (*Corvus Macrorhynchos*) in urban and suburban Tokyo. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 48 (3), 424-432.
 - 5) Ueno, D., Watanabe, M., Tanaka, H., Subramanian, An., Fillmann, G., Lam, P. K., Zheng, G. J., Muchtar, M., Razak, H. and Prudente, M., Chung, K. H. and Tanabe, S.: Global pollution monitoring of polychlorinated dibenzo-p-dioxins (PCDDs), furans (PCDFs) and coplanar polychlorinated biphenyls (coplanar PCBs) using skipjack tuna as bioindicator. *Environmental Pollution*, 136 (2), 303-313.
 - 6) Lam, J. C. W., Tanabe, S., Lam, M. H. W. and Lam, P. K. S.: Risk to breeding success of waterbirds by contaminants in Hong Kong : evidence from trace elements in eggs. *Environmental Pollution*, 135 (3), 481-490.
 - 7) Kunisue, T., Nakanishi, S., Watanabe, M., Abe, T., Nakatsu, S., Kawauchi, S., Sano, A., Horii, A., Kano, Y. and Tanabe, S.: Contamination status and accumulation features of persistent organochlorines in pet dogs and cats from Japan. *Environmental Pollution*, 136 (3), 465-476.
 - 8) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S.: Hepatic CYP1A induction by dioxin-like compounds, and sequestration in wild common cormorants from Lake Biwa, Japan. *Environmental Science and Technology*, 39 (10), 3611-3619.
 - 9) 上田浩三・岩本智史・梅村省三・長屋喜一・岩田久人・田辺信介：間接加熱によるダイオキシン類汚染土壤のオンライン処理、*環境化学*, 15 (2), 311-320.
 - 10) 今西克也・川上 学・島田あづさ・木村義孝・近石一弘・村上雅志・梶原夏子・山田 格・田辺信介：トキサフェン及びマイレックスによる日本近海鯨類の汚染とその蓄積特性、*環境化学*, 15 (2), 429-443.
 - 11) Watanabe, M. X., Iwata, H., Watanabe, M., Tanabe, S., Yoneda, K. and Hashimoto, T.: Bioaccumulation of organochlorines in crows from an Indian open dumping site : evidence for direct transfer of dioxin-like congeners from the contaminated soil. *Environmental Science & Technology*, 39 (12), 4421-4430.
 - 12) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular characterization of the aryl hydrocarbon receptors (AHR1 and AHR2) from red seabream (*Pagrus major*). *Comparative Biochemistry and Physiology*, 141 (2), 177-187.
 - 13) Agusa, T., Matsumoto, T., Ikemoto, T., Anan, Y., Kubota, R., Yasunaga, G., Kunito, T., Tanabe, S., Ogi, H. and Shibata, Y.: Body distribution of trace elements in black-tailed gulls from Rishiri Island, Japan : age-dependent accumulation and transfer to feathers and eggs. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 24 (9), 2107-2120.
 - 14) Kannan, K., Ramu, K., Kajiwara, N., Sinha, R. K. and Tanabe, S.: Organochlorine pesticides, polychlorinated biphenyls, and polybrominated diphenyl ethers in Irrawaddy dolphins from India. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 49 (3), 415-420.
 - 15) Sudaryanto, A., Kunisue, T., Tanabe, S., Niida, M. and Hashimur, H.: Persistent organochlorine compounds in human breast milk from mothers living in Penang and Kedah, Malaysia. *Archives of Environmental Contamination and Toxicology*, 49 (3), 429-437.
 - 16) Sekizawa, J. and Tanabe, S.: A comparison between integrated risk assessment and classical health/environmental assessment : emerging beneficial properties. *Toxicology and Applied Pharmacology*, 207, S617-S622.
 - 17) Kim, E. Y., Iwata, H., Suda, T., Tanabe, S., Amano, M., Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Arylhydrocarbon receptor (AHR) and AHR nucleartranslocator (ARNT) expression in Baikal seal (*Pusa sibirica*) and association with 2,3,7,8-TCDD toxic equivalents and CYP1 expression levels. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part C*, 141 (3), 281-291.
 - 18) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T. and Tanabe, S.: Multielemental accumulation and its intracellular distribution in tissues of some aquatic birds. *Marine Pollution Bulletin*, 50 (11), 1347-1362.

- 19) Ramu, K., Kajiwara, N., Tanabe, S., Lam, P. K. S. and Jefferson, T. A.: Polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines in small cetaceans from Hong Kong waters : levels, profiles and distribution. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 669-676.
- 20) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Distribution of trace elements in subcellular fractions of three aquatic birds. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 750-756.
- 21) Niimi, S., Watanabe, M. X., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Molecular cloning and mRNA expression of cytochrome P4501A1 and 1A2 in the liver of common minke whales (*Balaenoptera acutorostrata*). *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 784-793.
- 22) Kubota, R., Kunito, T., Fujihara, J., Tanabe, S., Yang, J. and Miyazaki, N.: Placental transfer of arsenic to fetus of Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*). *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 845-849.
- 23) Anan, Y., Kunito, T., Tanabe, S., Mitrofanov, I. and Aubrey, D. G.: Trace element accumulation in fishes collected from coastal waters of Caspian Sea. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 882-888.
- 24) Ikemoto, T., Kunito, T., Tanabe, S., Tsurumi, M., Sato, F. and Oka, N.: Non-destructive monitoring of trace element levels in short-tailed albatrosses (*Phoebastria albatrus*) and black-footed albatrosses (*Phoebastria nigripes*) from Torishima Island, Japan using eggs and blood. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 889-895.
- 25) Agusa, T., Kunito, T., Yasunaga, G., Iwata, H., Subramanian, An., Ismail, A. and Tanabe, S.: Concentrations of trace elements in marine fish and its risk assessment in Malaysia. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 896-911.
- 26) Murai, R., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takeuchi, I.: Status of butyltin pollution along the coasts of western Japan in 2001, 11 years after partial restrictions on the usage of butyltin. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 940-949.
- 27) Watanabe, M. X., Iwata, H., Okamoto, M., Kim, E. Y., Yoneda, K., Hashimoto, T. and Tanabe, S.: Induction of cytochrome P450 1A5 mRNA, protein and enzymatic activities by dioxin-like compounds, and congener-specific metabolism and sequestration in the liver of wild jungle crow (*Corvus macrorhynchos*) from Tokyo, Japan. *Toxicological Sciences*, 88 (2), 384-399.
- 28) Hiramatsu, K., Oshima, Y., Inoue, S. and Shikasho, S.: Numerical modeling of environmental behavior and fate of tributyltin in a semi-closed bay. *Paddy and Water Environment*, 3, 79-92.

総説等

- 1) 田辺信介：学術賞受賞業績：有害物質による地球規模の環境汚染と生態系への蓄積および毒性影響に関する研究，環境科学会誌，18 (2), 191-198. (招待原稿)
- 2) Tanabe, S.: Synthetic musks - arising new environmental menance? *Marine Pollution Bulletin*, 50 (10), 1025-1026. (招待原稿)
- 3) 田辺信介：提言：保存試料を活用して地球汚染の過去を読み将来を予測する，SCAS (住化分析センター) NEWS, 2005-I, 1-2. (招待原稿)
- 4) 田辺信介：海と化学物質，市民が作るゴミ読本 C&G, 16 (9), 26-33.
- 5) 田辺信介：特集 環境科学シンポジウム2004 生態系の化学汚染とエコトキシコロジー，環境科学会誌，18 (2), 123-125. (招待原稿)
- 6) 高橋 真：有機スズ化合物による生態系汚染の現状と今後の課題，化学と教育, 53 (8), 446-447. (招待原稿)
- 7) 田辺信介・国末達也：ダイオキシン類によるヒトおよび野生生物の汚染—最近の研究を中心に—，中毒研究, 18 (4), 319-331. (招待原稿)
- 8) 岩田久人・山内正信・金 恩英・田辺信介：ダイオキシン曝露によるマダイ胚発生への毒性影響—形態異常の分子メカニズムの解明を目指して—，中毒研究, 18 (4), 333-347. (招待原稿)
- 9) 田辺信介：保存試料を活用して海洋汚染の過去を読み将来を予測する，Ship & Ocean Newsletter, 128, 6-7. (招待原稿)
- 10) 田辺信介：卷頭言：環境試料バンクを活用した戦略的研究，Endocrine Disrupter News Letter, 8 (3), 1. (招待原稿)
- 11) 田辺信介：国際シンポジウム Dioxin 2005 雜感，ダイオキシン・環境ホルモン国民会議ニュースレター, 37, 2-3. (招待原稿)

Proceedings 等

- 1) Tanabe, S., Ramu, K., Mochizuki, H., Miyasaka, H., Okuda, N., Muraoka, M., Kajiwara, N., Takahashi,

4. 研究成果

- S. and Kubodera, T. : Contamination and distribution of persistent organochlorine and organotin compounds in deep-sea organisms from East China Sea. Deep-Sea Fauna and Pollutants in Nansei Islands, National Science Museum Monographs, Hasegawa, K., Shinohara, G. and Takeda, M. (Eds), No. 29, 453-476.
- 2) Minh, T. B., Iwata, H., Agusa, T., Minh, N. H., Inoue, S., Kubota, R., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Contamination by arsenic and persistent organic pollutants in Mekong River : geographical distribution, patterns of accumulation and implications for environmental quality and human health. Proceedings on 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 15-23.
- 3) Yamaguchi, S., Ito, A., Iwata, H., Agusa, T., Tanabe, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S., Miura, C. and Miura, T. : Influences of arsenic on fresh water fish reproduction in Indochina. Proceedings on 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 31-37.
- 4) Ikemoto, T., Tu, N. P. C., Watanabe, M. X., Okuda, N., Omori, K., Tanabe, S., Hien, P. P., Tuyen, B. C. and Takeuchi, I. : Trophic transfer of environmental contaminants in biota of Mekong delta watershed in south Vietnam. Proceedings on 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 38-44.
- 5) Sudaryanto, A., Muchtar, M., Razak, H. and Tanabe, S. : Persistent organochlorine contaminant in green mussels (*Perna viridis*) from Indonesian waters. Oseanologi dan Limnologi di Indonesia, 37, 1-14.
- 6) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Subramanian, An., Iwata, H., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Widely-distributed arsenic pollution in groundwater in the Red River Delta, Vietnam. Biomedical Research on Trace Elements, 16 (4), 296-298.

生態毒性解析分野

原 著

- 1) Agusa, T., Kunito, T., Iwata, H., Monirith, I., Tana, T. S., Subramanian, An. and Tanabe, S. : Mercury contamination in human hair and fish from Cambodia: levels, specific accumulation and risk assessment. Environmental Pollution, 134 (1), 79-86.
- 2) Sudaryanto, A., Takahashi, S., Iwata, H., Tanabe, S., Muchtar, M. and Razak, H. : Organotin residues and the role of anthropogenic tin sources in the coastal marine environment of Indonesia. Marine Pollution Bulletin, 50 (2), 226-235.
- 3) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Okabe, Y., Kim, E. Y., Subramanian, An., Saeki, K. and Tanabe, S. : Specific accumulation of 20 trace elements in great cormorants (*Phalacrocorax carbo*) from Japan. Environmental Pollution, 134 (3), 503-514.
- 4) Kobayashi, M., Kashida, Y., Yoneda, K., Iwata, H., Watanabe, M., Tanabe, S., Fukatsu, H., Machida, N. and Mitsumori, K. : Thyroid lesions and dioxin accumulation in the livers of jungle crows (*Corvus Macrorhynchos*) in urban and suburban Tokyo. Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 48 (3), 424-432.
- 5) Kubota, A., Iwata, H., Tanabe, S., Yoneda, K. and Tobata, S. : Hepatic CYP1A induction by dioxin-like compounds, and sequestration in wild common cormorants from Lake Biwa, Japan. Environmental Science and Technology, 39 (10), 3611-3619.
- 6) 上田浩三・岩本智史・梅村省三・長屋喜一・岩田久人・田辺信介：間接加熱によるダイオキシン類汚染土壤のオンサイト処理、環境化学, 15 (2), 311-320.
- 7) Watanabe, M. X., Iwata, H., Watanabe, M., Tanabe, S., Yoneda, K. and Hashimoto, T. : Bioaccumulation of organochlorines in crows from an Indian open dumping site : evidence for direct transfer of dioxin-like congeners from the contaminated soil. Environmental Science & Technology, 39 (12), 4421-4430.
- 8) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Molecular characterization of the aryl hydrocarbon receptors (AHR1 and AHR2) from red seabream (*Pagrus major*). Comparative Biochemistry and Physiology, Part C, 141 (2), 177-187.
- 9) Agusa, T., Matsumoto, T., Ikemoto, T., Anan, Y., Kubota, R., Yasunaga, G., Kunito, T., Tanabe, S., Ogi, H.

- and Shibata, Y. : Body distribution of trace elements in black-tailed gulls from Rishiri Island, Japan : age-dependent accumulation and transfer to feathers and eggs. *Environmental Toxicology and Chemistry*, 24 (9), 2107-2120.
- 10) Kim, E. Y., Iwata, H., Suda, T., Tanabe, S., Amano, M., Miyazaki, N. and Petrov, E. A. : Arylhydrocarbon receptor (AHR) and AHR nucleartranslocator (ARNT) expression in Baikal seal (*Pusa sibirica*) and association with 2,3,7,8-TCDD toxic equivalents and CYP1 expression levels. *Comparative Biochemistry and Physiology, Part C*, 141 (3), 281-291.
 - 11) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T. and Tanabe, S. : Multielemental accumulation and its intracellular distribution in tissues of some aquatic birds. *Marine Pollution Bulletin*, 50 (11), 1347-1362.
 - 12) Nam, D. H., Anan, Y., Ikemoto, T., Kim, E. Y. and Tanabe, S. : Distribution of trace elements in subcellular fractions of three aquatic birds. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 750-756.
 - 13) Niimi, S., Watanabe, M. X., Kim, E. Y., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S. : Molecular cloning and mRNA expression of cytochrome P4501A1 and 1A2 in the liver of common minke whales (*Balaenoptera acutororstrata*). *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 784-793.
 - 14) Agusa, T., Kunito, T., Yasunaga, G., Iwata, H., Subramanian, An., Ismail, A. and Tanabe, S. : Concentrations of trace elements in marine fish and its risk assessment in Malaysia. *Marine Pollution Bulletin*, 51 (8-12), 896-911.
 - 15) Nomiyama, K., Tanizaki, T., Ishibashi, H., Arizono, K. and Shinohara, R. : Production mechanism of hydroxilated PCBs by oxidative degradation of selected PCBs using TiO₂ in water and estrogenic activity of their Intermediates. *Environmental Science and Technology*, 39 (22), 8762-8769.
 - 16) Watanabe, M. X., Iwata, H., Okamoto, M., Kim, E. Y., Yoneda, K., Hashimoto, T. and Tanabe, S. : Induction of cytochrome P450 1A5 mRNA, protein and enzymatic activities by dioxin-like compounds, and congener-specific metabolism and sequestration in the liver of wild jungle crow (*Corvus macrorhynchos*) from Tokyo, Japan. *Toxicological Sciences*, 88 (2), 384-399.

総説等

- 1) 岩田久人・山内正信・金 恩英・田辺信介：ダイオキシン曝露によるマダイ胚発生への毒性影響—形態異常の分子メカニズムの解明を目指して—，中毒研究，18 (4)，333-347. (招待原稿)

Proceedings 等

- 1) Minh, T. B., Iwata, H., Agusa, T., Minh, N. H., Inoue, S., Kubota, R., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S. and Tanabe, S. : Contamination by arsenic and persistent organic pollutants in Mekong River: geographical distribution, patterns of accumulation and implications for environmental quality and human health. *Proceedings on 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed*, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 15-23.
- 2) Yamaguchi, S., Ito, A., Iwata, H., Agusa, T., Tanabe, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S., Miura, C. and Miura, T. : Influences of arsenic on fresh water fish reproduction in Indochina. *Proceedings on 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed*, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 31-37.
- 3) Ikemoto, T., Tu, N. P. C., Watanabe, M. X., Okuda, N., Omori, K., Tanabe, S., Hien, P. P., Tuyen, B. C. and Takeuchi, I. : Trophic transfer of environmental contaminants in biota of Mekong delta watershed in south Vietnam. *Proceedings on 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed*, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in Japan, 38-44.
- 4) Agusa, T., Inoue, S., Kunito, T., Kubota, R., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Subramanian, An., Iwata, H., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Widely-distributed arsenic pollution in groundwater in the Red River Delta, Vietnam. *Biomedical Research on Trace Elements*, 16 (4), 296-298.

生態系解析分野

原 著

- 1) Lin, J-G., Zhang, C-X. and Suzuki, S. : An anti-apoptosis gene of the Bcl-2 family from marine birnavirus inhibiting

4. 研究成果

- apoptosis of insect cells infected with baculovirus. *Virus Genes*, 31, 185-193.
- 2) Obayashi, Y. and Suzuki, S. : Proteolytic enzymes in coastal surface seawater : significant activity of endopeptidases and exopeptidases. *Limnology and Oceanography*, 50, 722-726.
 - 3) Islam, M. S., Ueda, H. and Tanaka, M. : Spatial distribution and trophic ecology of dominant copepods associated with turbidity maximum along the salinity gradient in a highly embayed estuarine system in Ariake Sea, Japan. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 316, 101-116.
 - 4) Ferrari, F. D. and Ueda, H. : Development of leg 5 of copepods belonging to the calanoid superfamily Centropagoidea (Crustacea). *Journal of Crustacean Biology*, 25, 333-352.
 - 5) 伊谷行・伊知地稔・上田拓史：瀬戸内海燧灘でユムシの巣穴から採集されたカニ類. *Cancer*, 14, 1-4.
 - 6) 三根崇幸・川村嘉応・上田拓史：ソウジソコミジンコ [新称] *Amphiascus* sp. (カイアシ垂綱, ソコミジンコ目)によるノリ糸状体培養カキ殻の付着珪藻除去効果. *日本水産学会誌*, 71, 923-927.
 - 7) Ueda, H. and Bucklin, A. C. : *Acartia (Odontacartia) ohtsukai*, a new brackish-water calanoid copepod from Ariake Bay, Japan, with a redescription of the closely related *A. pacifica* from the Seto Inland Sea. *Hydrobiologia*, 560, 77-91.
 - 8) Ueda, H. and Kamakura, H. : Synchronous recruitment and growth pattern of planktonic larvae of the amphioxus *Branchiostoma belcheri* in the Seto Inland Sea, Japan. *Marine Biology*, 148, 1263-1271.
 - 9) Ueda, H. and Nagai, H. : Redescription of a symbiotic poecilostomatoid copepod *Anthesiuss graciliunguis* Do & Kajihara from plankton : the second record of the species and first record of the male. *Plankton & Benthos Research*, 2, in press.
 - 10) Islam, M. S., Yamashita, Y., Ueda, H. and Tanaka, M. : Spatial and seasonal variation in copepod assemblage in relation to hydrodynamic condition along a temperate estuarine gradient in Ariake Bay, Japan. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, in press.
 - 11) Nonaka, L., Connell, S. R. and Taylor, D. E.: 16S rRNA mutations that produce tetracycline resistance in *Helicobacter pylori* decrease ribosome binding in an *Escherichia coli* system. *Journal of Bacteriology*, 187, 3708-3712.
 - 12) Chang, K. H. and Hanazato, T.: Impact of selective predation by Mesocyclops ehpeiensis on a zooplankton community: experimental analysis using mesocosms. *Ecol. Res.*, 20 : 726-732.
 - 13) Chang, K. H. and Hanazato, T. : Heterogeneous distribution of zooplankton in a shallow eutrophic lake : species composition and diversity of zooplankton community associated with habitat structure in littoral area. *Verh. Int. Ver. Limnol.*, 29 : 922-926.
 - 14) Kim, H. W., Chang, K. H. and Joo, G. J. : Characteristics and inter-annual variability of zooplankton dynamics in the middle part of the river (Nakdong River). *Korean J. Limnol.*, 38 : 412-419.
 - 15) Chang, K. H. and Hanazato, T. : The predaceous cladocerans *Leptodora kindtii* as a prey for the cyclopoid copepod *Mesocyclops* sp. : laboratory observations of predatory-prey interaction. *J. Freshw. Ecol.*, 20 : 655-660.
 - 16) Sakamoto, M., Chang, K. H., and Hanazato, T. : Differential sensitivity of a predaceous cladoceran (*Leptodora*) and its prey (the cladoceran *Bosmina*) to the insecticide carbaryl: results of acute toxicity tests. *Bull. Environ. Contam. Toxicol.*, 75 : 28-33.
 - 17) Chang K. H., Hanazato, T., Ueshima, G, and Tahara, H.: Feeding habit of pond smelt (*Hypomesus transpacificus nipponensis*) and its impact on the zooplankton community in Lake Suwa, Japan. *J. Freshw. Ecol.*, 20 : 129-138.
 - 18) Chang, K. H., Sakamoto, M. and Hanazato, T. : Impact of pesticide application on zooplankton communities with different densities of invertebrate predators : an experimental analysis using small-scale mesocosms. *Aquat. Toxicol.*, 72 : 373-382.
 - 19) Chang, K. H. and Hanazato, T. : Prey handling time and ingestion probability for *Mesocyclops* sp. predation on small cladoceran species *Bosmina longirostris*, *Bosminopsis deitersi*, and *Scapholeberis mucronata*. *Limnology*, 6:39-44.

環境影響評価予測分野

原 著

- 1) 岩本直哉・川口優美・井内美郎：バイカル湖湖底堆積物の粒子密度が示す過去約650万年間の気候変遷, 第四紀研究, 44, 79-92.
- 2) 井上卓彦・塩屋藤彦・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：音波探査記録からみた美保湾の海底地質と宍道低地帶東部の後期更新世以降の地史, 地質学雑誌, 111, 255-268.

- 3) 井上卓彦・奥村学・原口強・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：皆生海岸漂砂系から美保湾への年間土砂移動量の推定，海岸工学論文集，52, 626-630.
- 4) Y. Peng, Xiao J., Nakamura, T., Liu B., Inouchi, Y. : Holocene East Asian monsoonal precipitation pattern revealed by grain-size distribution of core sediments of Daihai Lake in Inner Mongolia of north-central China, Earth and Planetary Science Letters, 233, 467-479.
- 5) 合田幸子・大森浩二・柳沢康信：干潟に生息するイワガニ科2種における巣穴外活動の季節変化と日周変化，日本ベントス学会誌，印刷中。
- 6) Omori, K., Kikutani, K., Irawan, B., and Goda, Y. : Size-dependent intraguild reciprocal predation between *Helice tridens* De Haan and *H. japonica* Sakai and Yatsuzuka (Decapoda : Grapsidae), as analyzed in field experiments. Journal of Crustacean Biology, in press.
- 7) Okuda, N., Hamaoka, H., & Omori, K. : Life history and ecology of a glowbelly Acropoma japonicum in the Uwa Sea, Japan., Fishery Science, 71, 1042-1048.
- 8) 大森浩二・堂浦 旭・福元 亨・松本潤二・大西秀次郎・奥田昇：マングローブ林に対する人間活動の長期的影響とその地球温暖化問題における意味づけ，沿岸海洋研究 43, 27-31.
- 9) Genkai-Kato M. & Carpenter S. R. : Eutrophication due to phosphorus recycling in relation to lake morphometry, temperature, and macrophytes, Ecology, 86, 210-219.
- 10) Genkai-Kato M., Mitsuhashi H., Kohmatsu Y., Miyasaka H., Nozaki K. & Nakanishi M. : A seasonal change in the distribution of a stream-dwelling stonefly nymph reflects oxygen supply and water flow. Ecological Research, 20, 223-226.
- 11) 加藤元海：生態系における突発的で不連続な系状態の変化－湖沼を例に－，日本生態学会誌，55, 199-206.
- 12) Miyasaka H., Kawaguchi Y., Genkai-Kato M., Yoshino K., Ohnishi H., Kuhara N., Shibata Y., Tamate T., Taniguchi Y., Urabe H. & Nakano S. : Thermal changes in the gastric evacuation rate of the freshwater sculpin, *Cottus Nozawae* Snyder, Limnology, 6, 169-172.
- 13) Kitamura, A., Omura, A., Tominaga, E., Kameo, K. and Nara, M. : U-series ages for solitary coral species from the middle Pleistocene Kunosan Formation in the Udo Hills, Shizuoka, central Japan. The Quaternary Research, 44, 177-182.
- 14) 小嶋瑞穂・奈良正和：愛媛県松山市沖の浅海砂堆群を構成する生碎物の特徴と供給源，堆積学研究，61, 15-25.

総説等

- 1) 中原知明・井上卓彦・吹田歩・井内美郎：四万十川河口域の塩水楔とその時経列形状変化，第15回環境地質学シンポジウム論文集，135-140.
- 2) 吉原裕紀・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・芦田貴史・中原知明・深井照平・井内美郎：愛媛県松山市沖の砂堆“大洲”の砂浪移動様式，第15回環境地質学シンポジウム論文集，147-152.
- 3) 芦田貴史・塩屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：音波探査記録からみた琵琶湖の湖水面変動，第15回環境地質学シンポジウム論文集，179-184.
- 4) 渡部遼・岩本直哉・天野敦子・斎藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物の物性と気象観測結果との対応，第15回環境地質学シンポジウム論文集，185-190.
- 5) 深井照平・吉原裕紀・市原季彦・松木宏彰・原口強・井上卓彦・井内美郎：宍道湖西岸斐伊川河口域の堆積環境変遷史，第15回環境地質学シンポジウム論文集，197-202.
- 6) 井内美郎・塩屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・芦田貴史：松山市沖の上部更新統～完新統のシーケンス層序学的検討（予察），第15回環境地質学シンポジウム論文集，203-208.
- 7) 井内美郎：海砂資源量と採取後海域の状況変化，瀬戸内海（社団法人 瀬戸内海環境保全協会），2006-45, 20-25.

4. 3 学内、所内誌等

環境動態解析分野

- 1) 黒田 寛・久保允人・磯田 豊・武岡英隆・本田 聰：日高湾東部陸棚上における数日～十数日周期の流速変動，北海道大学水産科学研究彙報，56 (2), 43-53.

4. 研究成果

- 2) 丹野友海・磯田 豊・黒田 寛・相木智一：津軽海峡東口の恵山沖における流速変動, 北海道大学水産科学研究彙報, 56 (2), 33-41.

4. 4 一般誌等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆：沿岸環境の長期変動と水産資源—瀬戸内海を中心に—, 水産振興, 454号, 1-48.
- 2) 杉本隆成・黒田一紀・坪井守夫・加 三千宣：資源変動の歴史的変遷—古文書と堆積物コアに基づく海洋環境と生物生産の推定—, 月刊海洋, 37, 563-567.
- 3) 藤井直紀：内湾域における生物資源持続性の評価, 瀬戸内海, 44, pp. 37-41

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介：子どもの事件と化学汚染, 四国エコウォッチング自然・環境・生命, 毎日新聞, 1月18日朝刊. (招待原稿)
- 2) 田辺信介：汚染の経年変化ありあり—冷凍保存の試料が威力, 四国エコウォッチング自然・環境・生命, 每日新聞, 2月22日朝刊. (招待原稿)
- 3) 野田創太郎：開発から派生するもの—私が環境化学を選んだ理由—, 國際協力大学生エッセイコンテスト2004作品集, 58-62.

4. 5 報告書等

環境動態解析分野

- 1) 兼田淳史：豊後水道における近年の水温変動に関する研究, 共同研究成果報告書, 九州大学応用力学研究所.
- 2) 加三千宣：数十年スケールの黒潮変動の復元と宇和海沿岸生態系の応答様式の解明, 平成17年度高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用研究報告書

生態環境計測分野

- 1) 國末達也・染矢雅之・渡部真文・豊田卓枝・黒田優子・長山淳哉・田辺信介：残留性有機汚染物質(POPs)による愛媛県在住初産婦の母乳汚染, 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書「有害化学物質への胎児期複合暴露によるクレチニン症発症のリスク評価」, 平成17年3月, 94-105.
- 2) Minh, N. H., Someya, M., Minh, T. B., Kunisue, T., Watanabe, M., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C.: Persistent organochlorine residues in human breast milk from Hanoi and Hochiminh City, Vietnam: contamination, accumulation kinetics and risk assessment for infants. 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書「有害化学物質への胎児期複合暴露によるクレチニン症発症のリスク評価」, 平成17年3月, 106-116.
- 3) Kunisue, T., Someya, M., Kayama, F., Jin, Y. and Tanabe, S.: Persistent organochlorines in human breast milk collected from primiparae in Dalian and Shenyang, 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書「有害化学物質への胎児期複合暴露によるクレチニン症発症のリスク評価」, 平成17年3月, 117-128.
- 4) 田辺信介・岩田久人・國頭 恭・中田晴彦・渡邊 泉：野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価, 平成12～16年度科学研究費補助金〔特定領域研究(1)〕研究成果報告書「内分泌攪乱物質の環境リスク」, 平成17年3月, 44-45.
- 5) 田辺信介：内分泌攪乱物質等有害化学物質の環境動態と生態影響の解明, 愛媛大学COEプログラム「沿岸環境科学研究拠点」中間成果報告書, 平成17年3月, 28-31.
- 6) Kunisue, T., Watanabe, M., Iwata, H., Subramanian, An., Monirith, I., Minh, T. B., Baburajendran, R., Tana, T. S., Viet, P. H., Prudente, M. and Tanabe, S.: Dioxins and related compounds in human breast milk collected around open dumping sites in Asian developing countries: bovine milk as a potential source. 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書「有害化学物質への胎児期複合暴露による

- クレチニン症発症のリスク評価」、平成17年3月、129-141。
- 7) Kunisue, T., Someya, M., Monirith, I., Watanabe, M., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Occurrence of PCBs, organochlorine insecticides, tris (4-chlorophenyl) methane, and tris (4-chlorophenyl) methanol in human breast milk collected from Cambodia. 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書「有害化学物質への胎児期複合暴露によるクレチニン症発症のリスク評価」、平成17年3月、142-149.
 - 8) 宮崎信之・新井崇臣・大地まどか・田辺信介・大石和恵：海洋生物における有害化学物質の蓄積特性と、平成12年度～平成16年度科学研究費補助金（学術創生研究費）研究成果報告書「海洋生命系のダイナミクス、東京大学海洋研究所、423-428.
 - 9) 田辺信介・梶原夏子・上野大介：自然システム循環における有機臭素化合物の動態研究—ポリ臭素化ジフェニールエーテル (PBDEs) による海棲哺乳類の汚染、平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」、平成17年3月、5-19.
 - 10) 高橋 真・平井康宏・酒井伸一：自動車 (ASR) の分析手法と溶融リサイクル過程のフィールド調査、平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「残留性化学物質の物質循環モデルの構築とリサイクル・廃棄物政策評価への応用」、平成17年3月、43-64.
 - 11) 高橋 真・滝上英孝・能勢和聰：有機臭素化合物の代謝物合成と化学分析手法の開発、平成16年度廃棄物処理等科学研究費補助金研究成果報告書「循環資源・廃棄物中の有機臭素化合物およびその代謝物管理のためのバイオアッセイ／モニタリング手法の開発」、平成17年3月、19-32.
 - 12) Tanabe, S., Kajiwara, N., Iwata, H. and Chung, K. H.: Geographical distribution and temporal trends of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in marine mammals from Asian waters. Japan-Korea Co-operative Joint Research on Endocrine Disrupting Chemicals, Dioxins, Furans and Polychlorinated Biphenyls, Annual Report 2004, March 2005, 37-41.
 - 13) 田辺信介・自然環境中におけるダイオキシン類縁化合物の調査研究、1-1 ダイオキシン類縁化合物等 POPs によるアジア途上国の母乳汚染—曝露ルートの解明一、廃棄物研究財團平成16年度報告書「廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究、1/1-1/16.
 - 14) 田辺信介・自然環境中におけるダイオキシン類縁化合物の調査研究、1-1 ヒトおよび野生高等動物におけるダイオキシン類縁化合物の蓄積特性、廃棄物研究財團平成16年度報告書「廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究、1/17-1/26.
 - 15) 田辺信介・第3分科会（汚染・生態系等の監視、観測、および予測、評価技術）の討議結果、科学技術の未来を展望する戦略ワークショップ—アジア地域の経済発展と環境保全の両立のための研究開発—報告書、科学技術振興機構研究開発戦略センター、23-26、参考資料 16-26.

生態毒性解析分野

- 1) 岩田久人：Ah レセプター介在型ダイオキシン毒性の種特異的リスク評価法の開発、平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(B)(2)〕研究成果報告書、平成17年3月、177pp.
- 2) 金恩英：ダイオキシン類等環境ホルモンに関する分解技術開発及び生態影響などに関する研究、愛媛県立衛生環境研究所任期付研究員研究成果報告書、平成17年3月、227 pp.
- 3) 田辺信介・岩田久人・國頭 恭・中田晴彦・渡邊 泉：野生生物における内分泌攪乱物質の汚染とそのリスク評価、平成12～16年度科学研究費補助金〔特定領域研究(1)〕研究成果報告書「内分泌攪乱物質の環境リスク」、平成17年3月、44-45.
- 4) 岩田久人：環境汚染による野生生物の毒性影響の解明：反応・感受性の種差と新規バイオマーカーの検索、愛媛大学 COE プログラム「沿岸環境科学研究拠点」中間成果報告書、平成17年3月、36-47.
- 5) Kunisue, T., Watanabe, M., Iwata, H., Subramanian, An., Monirith, I., Minh, T. B., Baburajendran, R., Tana, T. S., Viet, P. H., Prudente, M. and Tanabe, S. (2004): Dioxins and related compounds in human breast milk collected around open dumping sites in Asian developing countries : bovine milk as a potential source. 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金〔基盤研究(A)(1)〕研究成果報告書「有害化学物質への胎児期複合暴露によるクレチニン症発症のリスク評価」、平成17年3月、129-141.
- 6) 岩田久人・能勢眞人・Minh, T. B. : 水資源の汚染実態と高次生物ならびにヒトに対する毒性影響に関する研究、平成16年度報告書 新世紀重点研究創生プラン 人・自然・地球共生プロジェクト水循環予測ミッション「インドシナ半島における水環境の化学汚染実態の解明と汚染除去技術の開発」、平成17年3月、26-34.

4. 研究成果

- 7) Tanabe, S., Kajiwara, N., Iwata, H. and Chung, K. H.: Geographical distribution and temporal trends of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in marine mammals from Asian waters. Japan-Korea Co-operative Joint Research on Endocrine Disrupting Chemicals, Dioxins, Furans and Polychlorinated Biphenyls, Annual Report 2004, March 2005, 37-41.

生態系解析分野

- 1) Suzuki, S., Kobayashi, T., Suehiro, F., Tuyen, B. C. and Tana, T. S. : Tetracycline resistance genes in Mekong river sediments. In Proceedings of the 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed. (Dec 7, 2005) pp. 26-30.
- 2) 鈴木 聰・山本雅之・野中里佐・大林由美子・間谷聖子・神野俊一郎：逆浸透膜を用いた海水淡水化工程におけるバイオフィルム形成に関する研究：海水中および膜付着菌数の変化. 愛媛大学地域共同研究センター研究成果報告書, 第9号, 206-212.
- 3) 金本自由生：海域生物調査2) 付着板生物調査, 東予工場硫酸設備増強計画環境影響評価事後調査報告書, 住友金属鉱山株式会社, 3-31～3-50.
- 4) 野中里佐：養殖環境・海洋環境の抗生物質耐性遺伝子による汚染評価とヒトへの伝達, 三菱財団事業報告書, 平成17年度.
- 5) 野中里佐：海からの遺伝子汚染－海洋における薬剤耐性遺伝子の分布とヒトへの伝播, 愛媛大学研究開発支援経費研究成果報告書, 平成17年度.

環境影響評価予測分野

- 1) 星加 章・三島康史・井内美郎・高杉由夫・橋本英資・長尾正之・村上和男・田辺弘道・湯浅一郎・高橋暁：瀬戸内海の海砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究, 平成16年度環境省報告書, 31-1-31-43.

4. 6 学会発表等

環境動態解析分野

- 1) 武岡英隆：沿岸海域に存在するリン・窒素の起源に対する基本的な考え方, 沿岸海洋シンポジウム「沿岸海域に存在する外洋起源のリン・窒素」, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 347 (招待講演).
- 2) 武岡英隆：瀬戸内海の海洋環境の長期変動, 2005年度水産海洋学会シンポジウム, 2005年12月4日, 広島大学 (招待講演).
- 3) 武岡英隆:瀬戸内海の環境とその長期変動, 第23回日本環境会議・松山大会「地域から環境を変える」, 125-130 (招待講演).
- 4) Guo, X., Miyazawa Y., Yamagata T. : Intrusion of Kuroshio water onto the continental shelf in the East China Sea, Dynamic Planet 2005, Program and Abstract Book, IAPSO-P6, 164, p105.
- 5) K. Fukumori, N. Okuda, Y. Yanagisawa and K. Yamaoka : Remarkably high homing ability in females of migratory cardinalfish. The 29th International Ethological Conference, Aug, 21-28, Hungary.
- 6) 速水祐一・兼田淳史・小浜剛・中野伸一・武岡英隆：豊後水道における外洋起源栄養塩の供給機構とその生態系への影響, 沿岸海洋シンポジウム「沿岸海域に存在する外洋起源のリン・窒素」, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 352 (招待講演).
- 7) 杉本隆成：基調講演 東シナ海の海洋環境と生態系のレジーム・シフト, シンポジウム「東シナ海の黒潮・対馬暖流と生物資源」日本海洋学会西南支部, 海洋気象学会水産海洋学会合同シンポジウム.
- 8) 郭 新宇：愛媛大学内海環境予測システム, 2005年度日本海洋学会春季大会「シンポジウム, 海洋観測とモデルの統合化：現状と今後の戦略的推進」
- 9) 黒田 寛・磯田 豊・武岡英隆・本田聰：初夏の日高湾に分布する陸棚斜面水, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 1.
- 10) 武岡英隆・郭新宇：外洋境界域の栄養塩濃度変動に対する内海の栄養塩濃度の応答, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 111.
- 11) 柳哲雄・辻裕・星加章・郭新宇：瀬戸内海における底泥輸送, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 112.

- 12) Wang Qiang, Gao Huiwang, Guo Xinyu, Takeoka Hidetaka : A Numerical Study of Phytoplankton Biomass oh the Bohai Sea in 1999, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 244.
- 13) 宮澤泰正・鍵本崇・郭新宇・川尻秀之・角田智彦・本場正信・平井光行・佐久間弘文：海洋変動予測システムから見た2004年黒潮大蛇行の形成過程, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 282.
- 14) 川尻秀之・宮澤泰正・章若潮・鍵本崇・郭新宇・佐久間弘文：関東近海の潮汐シミュレーション (2), 2005 年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 87.
- 15) 斎藤雪美・久万健志・磯田 豊・黒田 寛・松浦宏美・中塚 武：津軽海峡東西口における鉄の挙動, 2005 年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 171.
- 16) 王強・郭新宇・武岡英隆 : Seasonal Variation of Circulation in the Bohai Sea Simulated by a 1/18°, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 147.
- 17) 郭新宇・武岡英隆：瀬戸内海における残差流の季節変動-診断モデルの結果, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 149.
- 18) 原本元気・郭新宇・兼田淳史・二村彰・清田耕司・武岡英隆：夏季の伊予灘におけるエスチャリー循環, 2005 年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 150.
- 19) 張弼勲・郭新宇・武岡英隆 : A Numerical Study on the Water circulation in the Seto Inland Sea, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 151.
- 20) 宮澤泰正・鍵本崇・郭新宇・川尻秀之・佐久間弘文：海洋変動予測システムから見た2004年黒潮大蛇行の形成過程-続報-, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 226
- 21) Kaneda, A. : Coastal impacts of the Kuroshio variations in the Bungo Channel, Japan, MABPOM 2005, New York, 17-18 September 2005.
- 22) Chang, P. -H., Isobe A., Matsuno T. and Shimiz, M. : Modeling of the behavior of the Changjiang diluted water in the East China Sea in summer 2003. 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 109.
- 23) 兼田淳史・小濱剛・速水祐一・福森香代子・手島亮一・片野俊也・武岡英隆：底入り潮による豊後水道南部の陸棚域から瀬戸内海への栄養塩輸送, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 113.
- 24) 川村有二・速水祐一・兼田淳史・武岡英隆：北灘湾における半日周期内部潮汐, 2005年度日本海洋学会春季大会講演要旨集, 124.
- 25) 原本元気・郭新宇・兼田淳史・二村彰・清田耕司・武岡英隆：夏季の伊予灘におけるエスチャリー循環, 2005 年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 150.
- 26) Chang, P. -H., Guo, X. and Takeoka, H. : A numerical study on the water circulation in the Seto Inland Sea. 日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 151.
- 27) 加三千宣・山下亜純・速水祐一・兼田淳史・井内美郎・武岡英隆：海底堆積物記録に基づく20世紀のレジムシフトに対する豊後水道の珪藻生産量変動, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 156.
- 28) 高橋大介・西田芳則・木戸和男・檜垣直幸・三宅秀男：夏季噴火湾における風による時計回りの環流の形成機構, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 228.
- 29) 加藤健・三宅秀男・高橋大介：冬季噴火湾における風に応答する渦対の観測, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 229.
- 30) 山口一岩・堤 裕昭・山田俊郎・佃 政則・柴沼成一郎・門谷 茂:公開シンポジウム「懸濁物食性二枚貝の食物資源を巡る問題—特にアサリを中心にして」, 2005年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会シンポジウム, 厚岸, 9月, 講演要旨集, p 11.
- 31) 加三千宣・速水祐一・兼田淳史・山下亜純・井内美郎・武岡英隆・川幡穂高：底生有孔虫の Mg/Ca 比を用いた豊後水道における過去100年間の底層水温変動記録—数十年スケールの黒潮変動の復元に向けてー, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会予稿集, (CD-ROM : L039-002).
- 32) 加三千宣・速水祐一・兼田淳史・山下亜純・武岡英隆・井内美郎・川幡穂高:底生有孔虫の Mg/Ca 比を用いた豊後水道における過去100年間の底層水温変動記録—数十年スケールの黒潮変動の復元に向けてー, 日本第四紀学会2005年大会講演要旨集, 35, 72-73.
- 33) 加三千宣・山下亜純・速水祐一・兼田淳史・井内美郎・武岡英隆：海底堆積物記録に基づく20世紀のレジムシフトに対する豊後水道の珪藻生産量変動, 2005年度日本海洋学会秋季大会講演要旨集, 156.
- 34) 武岡英隆・井内美郎・大森浩二・郭 新宇・梶原夏子・加三千宣・宮坂 仁・渡邊政広・三宅 洋・速水祐一・堤 純・野崎賢也・井上幹生・奥田 昇：陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた

4. 研究成果

- 影響に関する研究、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、5-8.
- 35) 小濱 剛・兼田淳史・福森香代子・速水祐一・武岡英隆：速吸瀬戸周辺海域における栄養塩環境と植物プランクトンの応答、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、35-36.
 - 36) 馬込伸哉・中濱賢一・小濱 剛・兼田淳史・速水祐一・郭 新宇・武岡英隆：法花津湾におけるクラゲ大量出現の長期連続モニタリング、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、37-38.
 - 37) 金 熙容・兼田淳史・武岡英隆・稻井大典：豊後水道におけるマアジの加入過程と漁獲変動特性、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、39-40.
 - 38) 黒田 寛・武岡英隆・磯田 豊・久万健志・小林直人・本田 聰：初夏の日高湾に分布する陸棚斜面水、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、57-58.
 - 39) Chang, P. H. • Isobe, A. : Interannual Variation of Freshwater in the Yellow and East China Seas Roles of the Changjiang Discharge and Wind Forcing, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、59-60.
 - 40) 川村有二・速水祐一・小濱 剛・兼田淳史・武岡英隆：北灘湾における半日周期内部潮汐、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、61-62.
 - 41) 加三千宣・井内美郎・速水祐一・兼田淳史・山下亜純・大森浩二・奥田 昇・宮坂 仁・中野伸一・片野俊也・杉本隆成・武岡英隆：沿岸域海底コアを用いた過去100年間の黒潮十年規模変動の復元と沿岸環境に与えた影響、平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会講演要旨集、63-64.
 - 42) 加(槻木)玲美:古陸水的手法を用いた琵琶湖の過去100年にわたる動植物プランクトン動態の解析、第178回京都化学者クラブ。
 - 43) 福森香代子・大井美沙・奥田昇・速水祐一・小泉喜嗣：基礎生産構造を推定する生物データロガーとして有効なアコヤガイ、2006年度日本生態学会講演要旨集、269.

生態環境計測分野

- 1) Tanabe, S.: Contamination and risk assessment of endocrine disrupters in wildlife and humans. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, S-6.
- 2) Iwata, H., Nakayama, K., Kim, E. Y., Tashiro, K., Yamagata, A., Oofusa, K. and Tanabe, S.: Ecotoxicogenomics of common cormorants (*Pharacrocorax carbo*) contaminated with endocrine disrupting chemicals. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, S-9.
- 3) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibrodo, T. A. and Tanabe, S.: Specific accumulation of PBDEs in human breast milk from Indonesia. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-2.
- 4) Asante, K. A., Agusa, T., Kubota, R., Subramanian, An., Ansa-Asare, O. D. Biney, C. A. and Tanabe, S.: Contamination by arsenic and other trace elements in water and human urine samples from a mining town in Ghana. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-3.
- 5) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Iwata, H., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C.: Elevated contamination of persistent organic pollutants (POPs) in open dumping sites of Asian developing countries. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-5.
- 6) Ramu, K., Kajiwara, N., Sudaryanto, A., Subramanian, An., Lam, P. K., Zheng, G. J., Prudente, M. and

- Tanabe, S. : Monitoring of polybrominated ethers (PBDEs) and organochlorines in coastal waters of Asian countries using mussels as bioindicator : preliminary results. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-6.
- 7) Subramanian, An., Otake, M., Noda, S., Ramu, K., Watanabe, M., Sudaryanto, A., Kunisue, T., Kajiwara, N., Iwata, H. and Tanabe, S.: Contamination by persistent toxic substances (PTS) in India - a case study. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-8.
- 8) Tsydenova, O., Sudaryanto, A., Kunisue, T., Kajiwara, N., Batoev, V. and Tanabe, S.: Persistent organochlorines in human breast milk from Republic Buryatia, Russia. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-9.
- 9) Takeuchi, I., Aono, A., Tsunehiro, N., Takei, M., Murai, R., Ninimiya, M., Ikemoto, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Tributyltin concentration detected from the Seto Inland Sea during 2001 drives the reduction of the number of offsprings for Caprella danilevskii (Amphipoda: Caprellidea). International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-22.
- 10) 田辺信介：POPs（残留性有機汚染物質）による地球規模の環境汚染，第28回瀬戸内海水質汚濁研究公害研会議，松山市，1月，資料9。（招待講演）
- 11) Tanabe, S., Kajiwara, N., Iwata, H. and Chung, K. H.: Standardization of wildlife monitoring methods - geographical distribution and temporal trends of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in marine mammals from Asian waters. 4th Japan-Korea Co-operative Joint Symposium on Endocrine Disrupting Chemicals (EDCs), Fukuoka, Japan, Jan., Abstracts, 32-37.
- 12) Chung, K. H., Oh, S. M., Tanabe, S., Iwata, H. and Kim, E. Y.: Standardization of wildlife monitoring methods, 4th Japan-Korea Co-operative Joint Symposium on Endocrine Disrupting Chemicals (EDCs), Fukuoka, Japan, Jan., Abstracts, 38-45.
- 13) Marvin, C., Ueno, D., Tomy, G., Law, K., MacInnis, G., Crozier, P., Furdui, V., Reiner, E., Tanabe, S. and Alaee, M. : Hexabromocyclododecane : methods and environmental trends. 40th Central Canadian Symposium on Water Quality Research, Burlington, Ontario, Canada, Feb., Book of Abstract, 101.
- 14) Tanabe, S. : Chemical pollution in open dumping sites in Asia. International Symposium on Environmental Assessment and Management in Asia, Matsuyama, Japan, March, Abstracts, 11-12.
- 15) 岩田久人・金 恩英・田辺信介： 野生動物の環境汚染物質に対する毒性発現機構の多様性とバイオマーカーの探索，第139回日本獣医学会学術集会，3月，和光市，講演要旨集，160。
- 16) 梶原夏子・Ramu, K.・上川智子・上野大介・馬場徳寿・天野雅男・早野あづさ・宮崎信之・Subramanian, An.・Lam, P. K. S.・Jefferson, T. A.・Prudente, M.・Chung, K. H.・山田 格・田辺信介： 生物環境試料バンクを活用した新規有害物質の汚染実態と推移の解明，平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，1-2。
- 17) 岩田久人・金 恩英・仲山 慶・阿南弥寿美・久保田彰・新美聰子・山内正信・渡辺倫夫・南 銅是・酒井 大樹・安井知子・能勢眞人・小森浩章・宮脇恭史・田辺信介：水圏生物における化学汚染のバイオマーカーの検索とそれを利用したリスク評価システムの開発，平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，3-4。
- 18) 武岡英隆・井内美郎・大森浩二・郭 新宇・梶原夏子・加三千宣・宮坂 仁・渡邊政広・三宅 洋・速水祐一・堤 純・野崎賢也・井上幹生・奥田 昇：陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた影響に関する研究，平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，5-8。
- 19) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B.・Chamnan, C.・Trang, P. T. K.・Tana, T. S.・Viet, P. H.・岩田久人・田辺信介：メコン河下流域における地下水のヒ素汚染，平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集，11-12。
- 20) Minh, N. H.・Minh, T. B.・Kajiwara, N.・Kunisue, T.・Iwata, H.・Tanabe, S.・Tu, N. P. C.・Viet, P. H.・Tuyen, B. C.: Persistent Organic Pollutants (POPs) in Catfish and Sediment from Mekong River: Sources, Occurrences and Risk Assessment，平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学

4. 研究成果

- 研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 13-14.
- 21) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K.・Trang, P. T. K.・Minh, T. B.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・Tana, T. S.・田辺信介: アジア途上国の鉛汚染とヒトへの毒性影響評価, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 15-16.
- 22) 仲山 慶・岩田久人・金 恩英・田代康介・大房 健・田辺信介: マイクロアレイを用いたカワウにおける潜在的毒性影響の評価—肝臓中の遺伝子発現プロファイルと化学物質蓄積レベルとの関係, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 25-26.
- 23) 久保田彰・岩田久人・米田久美子・田辺信介: カワウ CYP1A4・1A5cDNAs の同定および各 mRNA 発現量とダイオキシン類蓄積量の関係, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 27-28.
- 24) 安井知子・金 恩英・岩田久人・田辺信介: ダイオキシン類に対する鳥類 AhR アイソフォームの機能解析, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 29-30.
- 25) 新美聰子・渡辺倫夫・国末達也・金 恩英・岩田久人・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介: ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと有機塩素化合物蓄積, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 31-32.
- 26) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介: ウミガメ類におけるメタロチオネイン異性体の発現と微量元素蓄積の関係, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 41-42.
- 27) Nam, D. H.・Kim, E. Y.・Iwata, H.・Tanabe, S.: Tissue Distribution and Expression of Two Metallothionein Isoforms in Cormorant (*Phalacrocorax carbo*), 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 43-44.
- 28) 国末達也・田辺信介・岩田久人・Subramanian, An.・Tana, T. S.: アジア途上国の大都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類汚染—ヒトへの曝露と内分泌系への影響—, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 51-52.
- 29) Sudaryanto, A.・Kajiwara, N.・Iwata, H.・Tanabe, S.・Hayami, Y.・Omori, K.・Santoso, A. D.・Adibroto, T. A.: Contamination of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in the Environment of Indonesia: Occurrence, Exposure Sources and Pathways, and Health Risk Implication, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 53-54.
- 30) Ramu, K.・Kajiwara, N.・Sudaryanto, A.・Subramanian, An.・Lam, P. K. S.・Prudente, M.・Tana, T. S.・Viet, P. H.・Tanabe, S.: Asian Mussel Watch Program: Monitoring Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) and Other Persistent Toxic Substances (PTS) Contamination in Coastal Waters of Developing and Developed Countries, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 55-56.
- 31) Tanabe, S.: Status of pollution by persistent toxic substances (PTS) in the Asia-Pacific region. Workshop on Status of Pollution of Heavy Metals and Persistent Toxic Substances in India, Chidambaram, Tamil Nadu, India, April, Abstracts, 1-3.
- 32) Subramanian, An. and Tanabe, S: Contamination by persistent toxic substances (PTS) in India. Workshop on Status of Pollution of Heavy Metals and Persistent Toxic Substances in India, Chidambaram, Tamil Nadu, India, April, Abstracts, 4-6.
- 33) 吉川暁子・阿南弥寿美・池本徳孝・大池辰也・吉岡 基・田辺信介: 伊勢湾・三河湾に漂着したスナメリの微量元素蓄積, 平成17年度日本水産学会大会, 4月, 東京, 講演要旨集, 241.
- 34) 池田翔太郎・阿南弥寿美・池本徳孝・田辺信介: マダコ (*Octopus vulgaris*) における微量元素蓄積と金属結合タンパク質の特徴, 平成17年度日本水産学会大会, 4月, 東京, 講演要旨集, 262.
- 35) Tanabe, S.: Contamination of persistent toxic substances (PTS) in Asia-Pacific region. The 2nd China International Symposium on Persistent Toxic Substances, Beijing, China, May, Abstracts, 2-3. (招待講演)

- 36) Subramanian, An., Kajiwara, N., Kunisue, T. and Tanabe, S.: India - a possible source of persistent toxic substances (PTS). The 2nd China International Symposium on Persistent Toxic Substances (PTS), Beijing, China, May, Abstracts, 10-11.
- 37) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: ベトナム・ハノイ市郊外における地下水のヒ素汚染, 第16回日本微量元素学会, 京都市, 6月, プログラム・抄録集, 112.
- 38) Subramanian, An. and Tanabe, S.: Asian solid waste dumpsites as sources of persistent toxic substances (PTS), The 8th Applied Biology Symposium 2005, Kuala Lumpur, Malaysia, June, Programme & Abstract, 30.
- 39) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, Y. and Tanabe, S.: Tissue-specific and developmental expression of two aryl hydrocarbon receptor isoforms (AhR1 and AhR2) from red seabream (*Pagrus major*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 41-42.
- 40) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Tissue distribution and expression of two metallothionein isoforms in great cormorant (*Phalacrocorax carbo*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 53.
- 41) Kubota, A., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Yoneda, K.: Identification of CYP1A4/1A5 cDNA, and their mRNA expressions related to TEQ levels of dioxin-like compounds in wild common cormorants (*Phalacrocorax carbo*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 61.
- 42) Iwata, H., Nakayama, K., Kim, E. Y., Tashiro, K., Yamagata, A., Oofusa, K. and Tanabe, S.: Ecotoxicogenomics of cormorants (*Phalacrocorax carbo*) contaminated with persistent toxic substances. Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 76.
- 43) Iwata, H., Hirai, Y., Baba, S., Kim, E. Y. and Tanabe, S.: Identification of chicken xenobiotic receptor (CXR) homologue splice variants and regulatory mechanism of their expression in the liver of common cormorant. Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 103.
- 44) Kim, E. Y., Sakamoto, T., Iwata, H., Tanabe, S. Miyazaki, N. and Petrov, E. A.: Identification of CYP2B and CYP2C genes and their expression levels related to organochlorine compounds in Baikal seals (*Pusa sibirica*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 103-104.
- 45) Kubota, A., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Yoneda, K.: Molecular cloning of novel CYP2 family using a cDNA library from the liver of wild common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 104.
- 46) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Franks, D. G., Karchner, S. ., Hahn, M. E. and Tanabe, S.: TCDD-binding affinities and expression levels of aryl hydrocarbon receptors AhR1 and AhR2 in aquatic birds. Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 167-168.
- 47) 村岡正義・国末達也・田辺信介・能勢眞人・小森浩章・有田典正・植田規史: ヒトにおけるダイオキシン類の蓄積特性—比較生物学的解析—, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 46-47.
- 48) 戸根木智幸・梶原夏子・国末達也・田辺信介・天野雅男・Kuiken, T.・Osterhaus, A. D. M. E.: 北海で大量死したゼニガタアザラシのダイオキシン類汚染とその蓄積特性, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 50-51.
- 49) 高柳 望・国末達也・梶原夏子・田辺信介・能勢眞人・小森浩章・有田典正・植田規史・山田健人: 有機ハロゲン化合物による人体汚染とその体内分布, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 52-53.
- 50) 大嶽昌子・染谷雅之・国末達也・Subramanian, An., 田辺信介: インド在住者の有機塩素化合物暴露—汚染レベルの地域特性—, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 62-63.
- 51) Subramanian, An., Iwata, H., Kajiwara, N., Kunisue, T., Watanabe, M. X., Ramu, K., Sudaryanto, A., Ohtake, M., Noda, S. and Tanabe, S.: Persistent toxic substances in Indian Environment and biota. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 64-65.
- 52) Tsydenova, O., Sudaryanto, A., Kunisue, T., Kajiwara, N., Batoev, V. and Tanabe, S.: Organochlorine Residues in Human Breast Milk from Russian Siberia in 2003-2004. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 66-67.
- 53) 望月裕子・Ramu, K., 宮坂 仁・笠井梨恵・村岡正義・高橋 真・窪寺恒巳・田辺信介: 東シナ海深海生物の有機スズ化合物および有機塩素化合物汚染, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 76-77.

4. 研究成果

- 54) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Iwata, H., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Persistent Organic Pollutants (POPs) in Catfish and Sediment from Mekong River: Sources, Occurrences and Risk Assessment. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 90-91.
- 55) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Chamnan, C., Tana, S. T., 岩田久人・田辺信介: メコン河下流域における地下水のヒ素汚染, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 140-141.
- 56) 上川智子・梶原夏子・天野雅男・早野あづき・山田 格・宮崎信之・田辺信介: 日本沿岸に漂着したカズハゴンドウ (*Peponocephala electra*) の有機ハロゲン化合物蓄積: 生物学的パラメータによる解析, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 184-185.
- 57) Ramu, K., Kajiwara, N., Sudaryanto, A., Subramanian, A., Lam, P. K. S., Zheng, G. J., Prudente, M. and Tanabe, S.: Asian Mussel Watch Program: Monitoring PBDEs and Other Persistent Toxic Substances (PTS) Contamination in Coastal Waters of Developing and Developed Countries. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 186-187.
- 58) 梶原夏子・檜垣由美・国末達也・田辺信介: 日本および外洋域で採取した鳥類における有機ハロゲン化合物の汚染実態とその生物濃縮特性, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 188-189.
- 59) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Omori, K., Hayami, Y., Adibroto, T. A., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S.: Contamination of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in Fish from Indonesia. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 190-191.
- 60) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S.: Geographical Distribution of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in Human Breast Milk from Indonesia. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 192-193.
- 61) 能勢和聰・橋本俊次・高橋 真・安原昭夫・酒井伸一: 水熱反応によるハロゲン化合物 (PCBs 及び PBDEs) の分解特性, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 196-197.
- 62) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K., 井上 英・Trang, P. T. K., Minh, T. B., 岩田久人・Subramanian, An., Viet, P. H., 田辺信介: アジア途上国における鉛汚染の現状, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 250-251.
- 63) Asante, K. A., Agusa, T., Kubota, R., Subramanian, An., Ansa-Asare, O. D., Biney, C. A. and Tanabe, S.: Monitoring Arsenic and Other Trace Elements Pollution in Water and Human Urine Samples from Tarkwa, a Mining Town in Ghana, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 252-253.
- 64) 高木 梢・久保田領志・阿草哲郎・阿南弥寿美・田辺信介: タイマイおよびアオウミガメにおけるヒ素化合物の蓄積特性, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 256-257.
- 65) 古川暁子・阿南弥寿美・吉岡 基・田辺信介: 日本および香港沿岸に漂着したスナメリの微量元素蓄積特性, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 258-259.
- 66) 滝上英孝・高橋 真・上田浩三・高菅卓三・富田康弘・酒井伸一: ごみ破碎・圧縮過程におけるダイオキシン類緑化合物の挙動評価と制御, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 300-301.
- 67) 高橋 真・能勢和聰・酒井伸一・梶原夏子・田辺信介・高橋知史・渡辺 功・阿久津和彦・藤峰慶徳・平井 哲也・汐崎 憲・波戸義雄・高菅卓三・嶽盛公昭・太田壯一・青笹 治・長谷川俊樹・濱元弘実・宮崎 徹・今村 崇・濱田典明・松田壮一: 有機臭素化合物 (臭素系難燃剤および臭素化ダイオキシン類) の測定に係る相互検定研究—第二報: 廃 TV ケーシングと動物脂肪—, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 302-303.
- 68) 滝上英孝・鈴木 剛・能勢和聰・高橋 真・酒井伸一: ハウスダスト中のダイオキシン類緑化合物のバイオアッセイ評価, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 434-435.
- 69) 能勢和聰・滝上英孝・高橋 真・酒井伸一: ハウスダスト中の臭素系難燃剤及びダイオキシン類緑化合物の分析, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 540-541.
- 70) 野田創太郎・Minh, N. H.・梶原夏子・田辺信介: ポリ臭素化ジフェニルエーテル (PBDEs) によるアジア途上都市ゴミ集積場の土壤汚染, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 558-559.
- 71) 高橋 真・滝上英孝・酒井伸一・上田浩三・富田康弘: 粗大ゴミの破碎・圧縮に伴う有機スズ化合物の発生とその処理技術に関する評価, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 768-769.
- 72) Asante, K. A., Mochizuki, H., Agusa, T., Inoue, S., Miyasaka, H., Subramanian, An., Kubodera, T. and

- Tanabe, S.: Accumulation of Trace Elements in Deep-Sea Organisms from the East China Sea. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 798-799.
- 73) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恒・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: ベトナム・ハノイ市郊外における地下水のヒ素汚染, 第16回日本微量元素学会, 京都市, 6月, Biomedical Research on Trace Elements, 16 (2), 112.
- 74) Subramanian, An. and Tanabe, S.: Multiple sources of persistent toxic substances to humans in Asian coastal cities. The 2nd Seminar of JSPS - Multilateral Core University Program on "Coastal Oceanography", Tokyo, Aug., Programme and Abstracts, 94.
- 75) Tanabe, S.: Plenary Lecture (Dioxin 2005): Dioxins and Organohalogen Contaminants in the Far East. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 1-3. (招待講演)
- 76) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Santoso, A. D., Hartono, P., Pi, M. S., Omori, K. and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers and organochlorine compounds in fish from Indonesia. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 598-601.
- 77) Ramu, K., Kajiwara, N., Sudaryanto, A., Subramanian, An., Lam, P. K., Zheng, G., Prudente, M., Tana, T., Viet, P. and Tanabe, S.: Asian mussel watch program : sources and distribution of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) and organochlorines contamination in coastal waters of Asian countries. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 1054-1057.
- 78) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Tsydenova, O., Iwata, H., Adibroto, T. A., Yu, H., Chung, K., Subramanian, An., Prudente, M., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Global contamination of PBDEs in human milk from Asia. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 1315-1318.
- 79) Ueno, D., Alaee, M., Marvin, C., Muir, D. C., Macinnis, G., Reiner, E., Furdui, V. I., Lam, P. K., Zheng, G. J., Muchtar, M., Razak, H., Prudente, M., Chung, K. and Tanabe, S.: Global monitoring of hexabromocyclododecane (HBCD) and other organochlorines using skipjack tuna. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 1327-1329.
- 80) Ueda, K., Hamano, S., Yamamoto, T., Uemura, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Influence of seawater in the process of heat treating sediments contaminated with PCDDs/DFs. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2232-2234.
- 81) Nagayama, J., Kohno, H., Kunisue, T., Shimomura, H. and Tanabe, S.: Higher level of multiple contaminations in breast milk of mothers who gave birth to neonates with congenital hypothyroidism. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2413-2416.
- 82) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tanabe, S.: Specific legand profile of constitutive androstane receptor (CAR) in Baikal seal (*Pusa sibirica*): toward the risk assessment of non-dioxin-like chemicals. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2431-2434.
- 83) Niimi, S., Watanabe, M., Kunisue, T., Kim, E., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Expression profiles of CYP1-4 isozymes and accumulation of dioxin-like and non-dioxin-like organochlorine compounds in the liver of common minke whales (*Balaenoptera acutorostrata*). 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2448-2451.
- 84) Takahashi, S., Sakai, S. and Watanabe, I.: An intercalibration study on organobromine compounds: brominated flame retardants and related dioxin-like compounds in waste TV cabinet and animal fat. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of

4. 研究成果

- Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 430-433.
- 85) Nose, M., Hashimoto, S., Takahashi, S., Yasuhara, A., Noma, Y. and Sakai, S.: Specific degradation of organohalogen compounds (DECB and DEBDE) by hydrothermal reaction. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 494-497.
- 86) Fukata, H., Omori-Inoue, M., Osada, H., Takada, E., Omori, N., Kawashiro, Y., Takahashi, S., Takigami, H., Sakai, S. and Mori, C.: Current status of material and fetal exposure to brominated flame retardants, PCBs and dioxins in Japan. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 1617-1619.
- 87) Takigami, H., Takahashi, S., Ueda, K., Takasuga, T., Tomita, Y. and Sakai, S.: Behavior analysis and control of dioxin-like compounds during comminution and compression process of wastes. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2148-2151.
- 88) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Metal accumulation and characterization of metallothioneins in aquatic birds. 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 4-5.
- 89) 久保田彰・岩田久人・金 恩英・田辺信介・米田久美子: カワウにおける新規チトクローム P450 2分子種の同定・定量と残留性有機汚染物質蓄積の関係, 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 6-7.
- 90) 岩田久人・仲山 慶・金 恩英・田辺信介: エコトキシコゲノミクス: 野生生物を対象とした有害化学物質のリスク評価をめざして, 日本分析化学会・日本分析機器工業会東京コンファレンス2005, 東京, 9月, 講演要旨集, 63.
- 91) 田辺信介: 愛媛大学21世紀COEプログラム「沿岸環境科学研究拠点」—全体概要と進捗状況—, 環境科学会2005年会シンポジウム「ポスト環境COEを考える」, 名古屋市, 9月, 講演要旨集, 244-245. (招待講演)
- 92) 田辺信介: 愛媛大学21世紀COEプログラム「沿岸環境科学研究拠点」—有害物質の環境動態と生態影響の解明—, 環境科学会2005年会シンポジウム「ポスト環境COEを考える」, 名古屋市, 9月, 講演要旨集, 246-247. (招待講演)
- 93) 山内正信・金 恩英・岩田久人・島 康洋・田辺信介: ダイオキシン暴露したマダイ胚のAHR異性体およびCYP1Aの発現と形態学的異常の関係, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 63.
- 94) Nagayama, J., Kohno, H., Kunisue, T., Kataoka, K., Shimomura, H. and Tanabe, S.: Higher level of multiple contaminations in breast milk of mothers who gave birth to neonates with congenital hypothyroidism. 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 88.
- 95) 深澤 均・渡邊雅之・白石不二雄・磯部友彦・小塩正朗・鑑迫典久: 田園地区を流れる小川の強エストロゲン因子の調査について, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 95.
- 96) 高橋 真・鈴木 茂・田辺 薫・末岡峯数・大岩俊雄・酒井伸一: LC/MS/MS を用いた循環資源・廃棄物中の臭素系難燃剤ヘキサブロモシクロドデカン (HBCD) の異性体分析法開発, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 131.
- 97) 磯部友彦・白石不二雄・丸尾直子・白石寛明: 夾雜物の多い水試料中のエストロゲン測定における前処理の効果, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 134.
- 98) 芹澤滋子・磯部友彦・金東 明・堀口敏広・白石寛明・森田昌敏: 東京湾および流入河川におけるノニルフェノール性内分泌攪乱化学物質のモニタリング, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 135.
- 99) 山口園子・伊藤亜記・岩田久人・阿草哲郎・田辺信介・福井靖子・渡邊 泉・原 彰彦・三浦智恵美・Tuyen, B. C.・三浦 猛: メコン川下流域に生息する魚類の生殖腺異常と微量元素の蓄積, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 174.
- 100) 池本徳孝・Tu, N. P. C.・奥田 昇・大森浩二・田辺信介・Hien, P. P.・Tuyen, B. C.・竹内一郎: ベトナム・カントー市近郊メコン川生態系における食物連鎖を介した微量元素蓄積, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 180.
- 101) 渡辺倫夫・国末達也・岩田久人・Subramanian, An.・田辺信介: インド都市ゴミ集積場で捕獲したブタのダイオキシン類汚染と肝P450への影響, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 182.
- 102) 石橋弘志・金 恩英・岩田久人・宮崎信之・Batoev, V.・Petrov, E. A.・田辺信介: バイカルアザラシにおける

- PPAR α cDNA のクローニングおよび mRNA 発現量の解析, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 185.
- 103) 井元麻衣・岩田久人・仲山 慶・金 恩英・渡辺倫夫・国末達也・新美聰子・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介: オリゴアレイを用いたミンククジラ肝臓中遺伝子発現プロファイルの解析—環境汚染物質による潜在的リスクの評価—, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 233.
- 104) 深田秀樹・井上万里子・長田久夫・大森直子・川城由紀子・戸高恵美子・高橋 真・滝上英孝・酒井伸一・森千里: 日本における母体および胎児の臭素化難燃剤, 塩素化ダイオキシン, PCB の暴露状況, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 289.
- 105) 田辺信介: 環境ホルモンによるヒトおよび野生生物の汚染, 第52回日本家政学会中国・四国支部総会ならびに研究発表会, 10月, 松山市, プログラム, 10. (招待講演)
- 106) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, H. and Tanabe, S.: Toxic effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on early life stages of red seabream (*Pagrus major*): an association of morphological deformities with AHR and CYP1A expression. The 4th International Symposium on Reproductive, genetic and Disease Management in Aquaculture and Ocean Ranching (Joint International symposia of 21st COE Programs of Hokkaido University, kinki university, ehime University and University of the Ryukyus), Oct., Hakodate, Abstracts, 93.
- 107) 田辺信介: 地球規模でみたダイオキシン類縁化合物の検出, 廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究セミナー, 10月, 川崎市, テキスト, 15-24.
- 108) 高橋 真: 自動車破碎残渣(ASR)のダイオキシン類縁化合物と制御, 廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究セミナー, 10月, 川崎市, テキスト, 29-38.
- 109) 梶原夏子・田辺信介: 愛媛大学21世紀 COE プログラム「沿岸環境科学研究拠点」～生物環境試料バンクを活用した新規有害物質の汚染実態と推移の解明～, 近畿大学21世紀 COE プログラム「クロマグロ等の魚類養殖産業支援型研究拠点」4th シンポジウム, 10月, 東大阪市, プログラム集, 2.
- 110) 田辺信介: 残留性有機汚染物質によるヒトおよび野生生物の汚染と影響, フォーラム2005:衛生薬学・環境トキシコロジー, 10月, 徳島市, 講演要旨集, S-63. (招待講演)
- 111) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: ベトナムのRed River Deltaにおけるヒ素汚染の実態, 第12回ヒ素シンポジウム, 11月, 岩手, 講演要旨集, 48-49.
- 112) Tanabe, S.: Contamination of persistent toxic substances (PTS) in the Asia-Pacific Region. Special Lecture for Conferring the 2005 SETAC Founders Award in 26th SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA. (招待講演)
- 113) Agusa, T., Kunito, T., Ramu, K., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Lead contamination and its human health effect in South India. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 219-220.
- 114) Muraoka, M., Takahashi, S., Tanabe, S., Yamada, T., Sakayama, K., Mori, C. and Zheng, J. S.: Monitoring organotin contamination using blood samples and its assessment for immunotoxicity and maternal transfer. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 220.
- 115) Kannan, K., Ramu, K., Kajiwara, N., Sinha, R. K. and Tanabe, S.: Organochlorine pesticides, polychlorinated biphenyls, and polybrominated biphenyl ethers in Irrawaddy dolphins from India. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 223.
- 116) Kunisue, T., Tanabe, S., Tsubota, T.: Persistent organic pollutants in raccoon dogs from Japan: levels, patterns, and hepatic sequestration. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 240-241.
- 117) Muraoka, M., Kunisue, T., Iwata, H., Minh, N. H., Minh, T. B., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Contamination of dioxins and related compounds in humans living near the dumping site in Vietnam. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 241.
- 118) Takeuchi, I., Murai, R., Sugimoto, A. and Tanabe, S.: Difference of bioconcentration profile between TBT and TPT elucidated by stable nitrogen isotope ratio. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 257.

4. 研究成果

- 119) Agusa, T., Perrotta, E., Thomas, N. and Tanabe, S.: Accumulation of metals in southern sea otters. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 309.
- 120) Inoue, S., Agusa, T., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, S. S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Contamination of arsenic in groundwater from lower Mekong basin. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 331.
- 121) Tanabe, S.: Environmental specimen bank (es-BANK) in Ehime University, Japan for global monitoring. International Environmental Specimen Bank Symposium, Nov., Chaleston, SC, USA, Abstracts, 5.
- 122) Kunisue, T. and Tanabe, S.: Persistent organic pollutants (POPs) in human breast milk in Asia. International Environmental Specimen Bank Symposium, Nov., Chaleston, SC, USA, Abstracts, 12.
- 123) Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular biomarkers in aquatic mammals and birds. International Environmental Specimen Bank Symposium, Nov., Chaleston, SC, USA, Abstracts, 13.
- 124) Kajiwara, N. and Tanabe, S.: Distribution and temporal trends of PBDEs in Asia-Pacific. International Environmental Specimen Bank Symposium, Nov., Chaleston, SC, USA, Abstracts, 14.
- 125) Tanabe, S.: Dioxins and organohalogen contaminants in the Asia-Pacific region. International Symposium on Dynamic Behavior of Environmental Micro-Pollutants and Restoration from its Polluted Sites, Dec., Kumamoto, Japan, Abstracts, 65-96. (招待講演)
- 126) Minh, T. B., Iwata, H., Agusa, T., Minh, N. H., Inoue, S., Kubota, R., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Contamination by arsenic and persistent organic pollutants in Mekong River: geographical distribution, patterns of accumulation and implications for environmental quality and human health. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Dec., Bangkok, Thailand, Abstracts, 15.
- 127) Yamaguchi, S., Ito, A., Iwata, H., Agusa, T., Tanabe, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S., Miura, C. and Miura, T.: Influences of arsenic on fresh water fish reproduction in Indochina. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Dec., Bangkok, Thailand, Abstracts, 31.
- 128) Ikemoto, T., Tu, N. P. C., Watanabe, M. X., Okuda, N., Omori, K., Tanabe, S., Hien, P. P., Tuyen, B. C. and Takeuchi, I.: Trophic transfer of environmental contaminants in biota of Mekong delta watershed in south Vietnam. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Dec., Bangkok, Thailand, Abstracts, 38.
- 129) Yang, J., Miyazaki, N., Kunito, T. and Tanabe, S.: Trace elements and butyltins in a Dall's porpoise (*Phocoenoides dalli*) from the Sanriku coast of Japan. 16th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Dec., San Diego, CA, USA, Abstracts, 309-310.

生態毒性解析分野

- 1) Iwata, H., Nakayama, K., Kim, E. Y., Tashiro, K., Yamagata, A., Oofusa, K. and Tanabe, S.: Ecotoxicogenomics of common cormorants (*Pharacrocorax carbo*) contaminated with endocrine disrupting chemicals. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, S-9.
- 2) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibrodo, T. A. and Tanabe, S.: Specific accumulation of PBDEs in human breast milk from Indonesia. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-2.
- 3) Asante, K. A., Agusa, T., Kubota, R., Subramanian, An., Ansa-Asare, O. D. Biney, C. A. and Tanabe, S.: Contamination by arsenic and other trace elements in water and human urine samples from a mining town in Ghana. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-3.
- 4) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Iwata, H., Tanabe, S., Viet, P. H. and Tuyen, B. C.: Elevated contamination of persistent organic pollutants (POPs) in open dumping sites of Asian developing countries. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research

- and Future Perspectives, Kyoto, Japan., Abstracts, P-5.
- 5) Subramanian, An., Ohtake, M., Noda, S., Ramu, K., Watanabe, M., Sudaryanto, A., Kunisue, T., Kajiwara, N., Iwata, H. and Tanabe, S.: Contamination by persistent toxic substances (PTS) in India - a case study. International Symposium on the Environmental Risk of Endocrine Disrupter - Fruits of Research and Future Perspectives, Kyoto, Japan, Jan., Abstracts, P-8.
 - 6) Tanabe, S., Kajiwara, N., Iwata, H. and Chung, K. H.: Standardization of wildlife monitoring methods - geographical distribution and temporal trends of polybrominated diphenyl ethers (PBDEs) in marine mammals from Asian waters. 4th Japan-Korea Co-operative Joint Symposium on Endocrine Disrupting Chemicals (EDCs), Fukuoka, Japan, Jan., Abstracts, 32-37.
 - 7) Chung, K. H., Oh, S. M., Tanabe, S., Iwata, H. and Kim, E. Y.: Standardization of wildlife monitoring methods, 4th Japan-Korea Co-operative Joint Symposium on Endocrine Disrupting Chemicals (EDCs), Fukuoka, Japan, Jan., Abstracts, 38-45.
 - 8) 岩田久人・金 恩英・田辺信介：野生動物の環境汚染物質に対する毒性発現機構の多様性とバイオマーカーの探索, 第139回日本獣医学会学術集会, 3月, 和光市, 講演要旨集, 160. (招待講演)
 - 9) 岩田久人・金 恩英・仲山 慶・阿南弥寿美・久保田彰・新美聰子・山内正信・渡辺倫夫・南 銅是・酒井 大樹・安井知子・能勢眞人・小森浩章・宮脇恭史・田辺信介：水圏生物における化学汚染のバイオマーカーの検索とそれを利用したリスク評価システムの開発, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 3-4.
 - 10) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B. · Chamnan, C. · Trang, P. T. K. · Tana, T. S. · Viet, P. H. · 岩田久人・田辺信介：メコン河下流域における地下水のヒ素汚染, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 11-12.
 - 11) Minh, N. H. · Minh, T. B. · Kajiwara, N. · Kunisue, T. · Iwata, H. · Tanabe, S. · Tu, N. P. C. · Viet, P. H. · Tuyen, B. C. : Persistent Organic Pollutants (POPs) in Catfish and Sediment from Mekong River : Sources, Occurrences and Risk Assessment, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 13-14.
 - 12) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K. · Trang, P. T. K. · Minh, T. B. · Subramanian, An. · 岩田久人・Viet, P. H. · Tana, T. S. · 田辺信介：アジア途上国の鉛汚染とヒトへの毒性影響評価, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 15-16.
 - 13) 仲山 慶・岩田久人・金 恩英・田代康介・大房 健・田辺信介：マイクロアレイを用いたカワウにおける潜在的毒性影響の評価—肝臓中の遺伝子発現プロファイルと化学物質蓄積レベルとの関係, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 25-26.
 - 14) 久保田彰・岩田久人・米田久美子・田辺信介：カワウ CYP1A4 · 1A5cDNAs の同定および各 mRNA 発現量とダイオキシン類蓄積量の関係, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 27-28.
 - 15) 安井知子・金 恩英・岩田久人・田辺信介：ダイオキシン類に対する鳥類 AhR アイソフォームの機能解析, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 29-30.
 - 16) 新美聰子・渡辺倫夫・国末達也・金 恩英・岩田久人・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介：ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと有機塩素化合物蓄積, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 31-32.
 - 17) 阿南弥寿美・金 恩英・國頭 恭・岩田久人・田辺信介：ウミガメ類におけるメタロチオネイン異性体の発現と微量元素蓄積の関係, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 41-42.
 - 18) Nam, D. H. · Kim, E. Y. · Iwata, H. · Tanabe, S.: Tissue Distribution and Expression of Two Metallothionein Isoforms in Cormorant (*Phalacrocorax carbo*), 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE

4. 研究成果

- 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 43-44.
- 19) 国末達也・田辺信介・岩田久人・Subramanian, An.・Tana, T. S. : アジア途上国の都市ゴミ集積場におけるダイオキシン類汚染—ヒトへの曝露と内分泌系への影響—, 平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 51-52.
- 20) Sudaryanto, A.・Kajiwara, N.・Iwata, H.・Tanabe, S.・Hayami, Y.・Omori, K.・Santoso, A. D.・Adibroto, T. A. : Contamination of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in the Environment of Indonesia: Occurrence, Exposure Sources and Pathways, and Health Risk Implication, 平成16年度沿岸環境科学研究センタ一年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集, 53-54.
- 21) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: ベトナム・ハノイ市郊外における地下水のヒ素汚染, 第16回日本微量元素学会, 京都市, 6月, プログラム・抄録集, 112.
- 22) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, Y. and Tanabe, S. : Tissue-specific and developmental expression of two aryl hydrocarbon receptor isoforms (AhR1 and AhR2) from red seabream (*Pagrus major*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 41-42.
- 23) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Tissue distribution and expression of two metallothionein isoforms in great cormorant (*Phalacrocorax carbo*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 53.
- 24) Kubota, A., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Yoneda, K. : Identification of CYP1A4/1A5 cDNA, and their mRNA expressions related to TEQ levels of dioxin-like compounds in wild common cormorants (*Phalacrocorax carbo*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 61.
- 25) Iwata, H., Nakayama, K., Kim, E. Y., Tashiro, K., Yamagata, A., Oofusa, K. and Tanabe, S.: Ecotoxicogenomics of cormorants (*Phalacrocorax carbo*) contaminated with persistent toxic substances. Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 76.
- 26) Iwata, H., Hirai, Y., Baba, S., Kim, E. Y. and Tanabe, S. : Identification of chicken xenobiotic receptor (CXR) homologue splice variants and regulatory mechanism of their expression in the liver of common cormorant. Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 103.
- 27) Kim, E. Y., Sakamoto, T., Iwata, H., Tanabe, S. Miyazaki, N. and Petrov, E. A. : Identification of CYP2B and CYP2C genes and their expression levels related to organochlorine compounds in Baikal seals (*Pusa sibirica*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 103-104.
- 28) Kubota, A., Iwata, H., Kim, E. Y., Tanabe, S. and Yoneda, K. : Molecular cloning of novel CYP2 family using a cDNA library from the liver of wild common cormorant (*Phalacrocorax carbo*). Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 104.
- 29) Yasui, T., Kim, E. Y., Iwata, H., Franks, D. G., Karchner, S. I., Hahn, M. E. and Tanabe, S. : TCDD-binding affinities and expression levels of aryl hydrocarbon receptors AhR1 and AhR2 in aquatic birds. Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13, Alessandria, Italy, June, Abstract Book, 167-168.
- 30) Subramanian, An., Iwata, H., Kajiwara, N., Kunisue, T., Watanabe, M. X., Ramu, K., Sudaryanto, A., Ohtake, M., Noda, S. and Tanabe, S. : Persistent toxic substances in Indian Environment and biota. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 64-65.
- 31) Minh, N. H., Minh, T. B., Kajiwara, N., Kunisue, T., Iwata, H., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Persistent Organic Pollutants (POPs) in Catfish and Sediment from Mekong River: Sources, Occurrences and Risk Assessment. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 90-91.
- 32) 井上 英・阿草哲郎・久保田領志・國頭 恭・Minh, T. B., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Chamnan, C., Tana, S. T., 岩田久人・田辺信介: メコン河下流域における地下水のヒ素汚染, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 140-141.
- 33) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Omori, K., Hayami, Y., Adibroto, T. A., Santoso, A. D., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S. : Contamination of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in Fish from Indonesia. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 190-191.
- 34) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Adibroto, T. A., Hartono, P., Muawanah and Tanabe, S. : Geographical Distribution of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) in Human Breast Milk from Indonesia. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 192-193.

- 論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 192-193.
- 35) 阿草哲郎・國頭 恭・Ramu, K., 井上 英・Trang, P. T. K., Minh, T. B., 岩田久人・Subramanian, An., Viet, P. H., 田辺信介: アジア途上国における鉛汚染の現状, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 250-251.
- 36) Asante, K. A., Agusa, T., Kubota, R., Subramanian, An., Ansa-Asare, O. D., Biney, C. A. and Tanabe, S.: Monitoring Arsenic and Other Trace Elements Pollution in Water and Human Urine Samples from Tarkwa, a Mining Town in Ghana, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 252-253.
- 37) 高木 梢・久保田領志・阿草哲郎・阿南弥寿美・田辺信介: タイマイおよびアオウミガメにおけるヒ素化合物の蓄積特性, 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 256-257.
- 38) Asante, K. A., Mochizuki, H., Agusa, T., Inoue, S., Miyasaka, H., Subramanian, An., Kubodera, T. and Tanabe, S.: Accumulation of Trace Elements in Deep-Sea Organisms from the East China Sea. 第14回環境化学討論会, 大阪市, 6月, 講演要旨集, 798-799.
- 39) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・Subramanian, An.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: ベトナム・ハノイ市郊外における地下水のヒ素汚染, 第16回日本微量元素学会, 京都市, 6月, Biomedical Research on Trace Elements, 16 (2), 112.
- 40) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Iwata, H., Santoso, A. D., Hartono, P., Pi, M. S., Omori, K. and Tanabe, S.: Geographical distribution of polybrominated diphenyl ethers and organochlorine compounds in fish from Indonesia. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 598-601.
- 41) Sudaryanto, A., Kajiwara, N., Tsydenova, O., Iwata, H., Adibroto, T. A., Yu, H., Chung, K., Subramanian, An., Prudente, M., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Global contamination of PBDEs in human milk from Asia. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 1315-1318.
- 42) Ueda, K., Hamano, S., Yamamoto, T., Uemura, S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Influence of seawater in the process of heat treating sediments contaminated with PCDDs/DFs. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2232-2234.
- 43) Sakai, H., Iwata, H., Kim, E., Miyazaki, N., Petrov, E. A. and Tanabe, S.: Specific ligand profile of constitutive androstane receptor (CAR) in Baikal seal (*Pusa sibirica*): toward the risk assessment of non-dioxin-like chemicals. 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2431-2434.
- 44) Niimi, S., Watanabe, M., Kunisue, T., Kim, E., Iwata, H., Yasunaga, G., Fujise, Y. and Tanabe, S.: Expression profiles of CYP1-4 isozymes and accumulation of dioxin-like and non-dioxin-like organochlorine compounds in the liver of common minke whales (*Balaenoptera acutorostrata*). 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005), Toronto, Canada, Aug., Proceedings of Dioxin 2005 and ISPAC-20 "Organohalogen Compounds", 67, 2448-2451.
- 45) Nam, D. H., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S.: Metal accumulation and characterization of metallothioneins in aquatic birds. 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 4-5.
- 46) 久保田彰・岩田久人・金 恩英・田辺信介・米田久美子: カワウにおける新規チトクローム P450 2 分子種の同定・定量と残留性有機汚染物質蓄積の関係, 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 6-7.
- 47) 平野将司・加藤千尋・渡辺奈保子・宮崎紘一・有薗幸司・石橋弘志・鑑迫典久: 海産甲殻類アミ *Americamysis bahia* に対する fenoxycarb の生体影響評価, 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 東京, 9月, 講演要旨集, 12-13.
- 48) 岩田久人・仲山 慶・金 恩英・田辺信介: エコトキシコロジクス: 野生生物を対象とした有害化学物質のリスク評価をめざして, 日本分析化学会・日本分析機器工業会東京コンファレンス2005, 東京, 9月, 講演要旨集, 63. (招待講演)
- 49) 山内正信・金 恩英・岩田久人・島 康洋・田辺信介: ダイオキシン暴露したマダイ胚の AHR 異性体およ

4. 研究成果

- び CYP1A の発現と形態学的異常の関係, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 63.
- 50) 山口園子・伊藤亜記・岩田久人・阿草哲郎・田辺信介・福井靖子・渡邊 泉・原 彰彦・三浦智恵美・Tuyen, B. C.・三浦 猛: メコン川下流域に生息する魚類の生殖腺異常と微量元素の蓄積, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 174.
- 51) 渡辺倫夫・国末達也・岩田久人・Subramanian, An.・田辺信介: インド都市ゴミ集積場で捕獲したブタのダイオキシン類汚染と肝 P450への影響, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 182.
- 52) 石橋弘志・金 恩英・岩田久人・宮崎信之・Batoev, V.・Petrov, E. A.・田辺信介: バイカルアザラシにおけるPPAR α cDNA のクローニングおよびmRNA 発現量の解析, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 185.
- 53) 松岡宗和・石橋弘志・高尾雄二・高良真也・有菌幸司: ビスフェノール関連化合物の生態毒性影響およびエストロゲン活性評価—MPBを中心として—, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 188.
- 54) 川添禎浩・杉山裕美・山田美絵・那賀和奈・川角祐介・石橋弘志・有菌幸司・北條康司: ヒトの摂取量レベルのイソフラボン類を含む大豆抽出物とDESの卵巣摘出マウスニオケルエストロゲン様相互作用, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 194.
- 55) 井元麻衣・岩田久人・仲山 慶・金 恩英・渡辺倫夫・国末達也・新美聰子・安永玄太・藤瀬良弘・田辺信介: オリゴアレイを用いたミンククジラ肝臓中遺伝子発現プロファイルの解析—環境汚染物質による潜在的リスクの評価—, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 233.
- 56) 渡辺奈保子・石橋弘志・宮崎紘一・平野将司・加藤千尋・高尾雄二・西村哲治・有菌幸司: エストラジオール, オクチルフェノール及びビスフェノールA のヒメダカ *Oryzias latipes* に及ぼす複合影響, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 254.
- 57) 平野将司・石橋弘志・渡辺奈保子・加藤千尋・宮崎紘一・鑑迫典久・有菌幸司: Fenoxy carb 暴露による甲殻類アミ *Americamysis bahia* の成長影響, 環境ホルモン学会第8回研究発表会, 東京, 9月, 要旨集, 255.
- 58) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, H. and Tanabe, S.: Toxic effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on early life stages of red seabream (*Pagrus major*): an association of morphological deformities with AHR and CYP1A expression. The 4th International Symposium on Reproductive, Genetic and Disease Management in Aquaculture and Ocean Ranching (Joint International Symposia of 21st COE Programs of Hokkaido University, Kinki University, Ehime University and University of the Ryukyus), Oct., Hakodate, Abstracts, 93.
- 59) 阿草哲郎・井上 英・國頭 恭・Minh, T. B.・Trang, P. T. K.・岩田久人・Viet, P. H.・田辺信介: ベトナムのRed River Deltaにおけるヒ素汚染の実態, 第12回ヒ素シンポジウム, 11月, 岩手, 講演要旨集, 48-49.
- 60) Agusa, T., Kunito, T., Ramu, K., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Lead contamination and its human health effect in South India. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 219-220.
- 61) Muraoka, M., Kunisue, T., Iwata, H., Minh, N. H., Minh, T. B., Tuyen, B. C. and Tanabe, S.: Contamination of dioxins and related compounds in humans living near the dumping site in Vietnam. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 241.
- 62) Agusa, T., Perrotta, E., Thomas, N. and Tanabe, S.: Accumulation of metals in southern sea otters. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 309.
- 63) Inoue, S., Agusa, T., Minh, T. B., Tu, N. P. C., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, S. S., Iwata, H. and Tanabe, S.: Contamination of arsenic in groundwater from lower Mekong basin. SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America, Nov., Baltimore, MD, USA, Abstracts, 331.
- 64) Iwata, H. and Tanabe, S.: Molecular biomarkers in aquatic mammals and birds. International Environmental Specimen Bank Symposium, Nov., Chaleston, SC, USA, Abstracts, 13.
- 65) Minh, T. B., Iwata, H., Agusa, T., Minh, N. H., Inoue, S., Kubota, R., Tu, N. P. C., Kajiwara, N., Kunisue, T., Subramanian, An., Viet, P. H., Tuyen, B. C., Chamnan, C., Tana, T. S. and Tanabe, S.: Contamination by arsenic and persistent organic pollutants in Mekong River: geographical distribution, patterns of accumulation and implications for environmental quality and human health. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Dec., Bangkok, Thailand, Abstracts, 15.
- 66) Yamaguchi, S., Ito, A., Iwata, H., Agusa, T., Tanabe, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Tana, T. S., Miura, C.

- and Miura, T. : Influences of arsenic on fresh water fish reproduction in Indochina. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Dec., Bangkok, Thailand, Abstracts, 31.
- 67) Ikemoto, T., Tu, N. P. C., Watanabe, M. X., Okuda, N., Omori, K., Tanabe, S., Hien, P. P., Tuyen, B. C. and Takeuchi, I. : Trophic transfer of environmental contaminants in biota of Mekong delta watershed in south Vietnam. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed, Dec., Bangkok, Thailand, Abstracts, 38.

生態系解析分野

- 1) 鈴木 聰: ビルナウイルスの宿主・環境中での動態と魚病防御への示唆. 第8回マリンバイオテクノロジー学会大会シンポジウム, 熊本市, 要旨集32-33.
- 2) 渡嘉敷努・野中里佐・井上宏之・山岡到保・鈴木 聰: *Azotobacter vinelandii* の產生するシデロフォアによる有機スズ化合物 (TBT) の分解. 第8回マリンバイオテクノロジー学会大会, 熊本市, 要旨集84.
- 3) 鈴木 聰・白石有子・渡辺恵子・安田尚登: 海洋コア低温保存中における細菌叢の変化. 2005年度に本海洋学会秋季大会, 仙台市, 要旨集175.
- 4) 田中龍也・鈴木 聰・安田尚登: 海洋コア試料集積培養中における細菌群集構造の経時的変化. 2005年度に本海洋学会秋季大会, 仙台市, 要旨集176.
- 5) 小林剛・末広富士代・B. C. Tuyen・T. S. Tana・鈴木 聰: メコン川の微生物生態 (3) 堆積物中のテトラサイクリン耐性遺伝子の分布. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集56.
- 6) 末広富士代・小林剛・野中里佐・鈴木 聰: メコン川の微生物生態 (4) 河川堆積物中の細菌叢に与える有機スズ化合物 (TBT) の影響. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集57.
- 7) H. M. Rahman・野中里佐・鈴木 聰: 東京湾・相模湾堆積物から分離されたテトラサイクリン耐性菌の保有する耐性遺伝子 *tet* (M) の多様性. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集58.
- 8) 稲葉愛美・鈴木 聰・北村真一・熊澤教真・児玉洋: 沖縄産魚介類におけるマリンビルナウイルスの分布と遺伝子の変異. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集59.
- 9) 渡嘉敷努・S. K. Dubey・鈴木 聰: トリプチルスズ (TBT) 耐性 *Pseudomonas aeruginosa* USS25W の TBT 存在下におけるトランスクリプトーム解析. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集67.
- 10) 山本雅之・野中里佐・大林由美子・間谷聖子・神野俊一郎・鈴木 聰: 海水淡水化用逆浸透膜上における細菌数・細菌叢の経時的変化. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集110.
- 11) 野中里佐・池野絹世・鈴木 聰: 養殖環境底泥におけるテトラサイクリン耐性遺伝子 *tet* (M) 保有菌の多様性. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集197.
- 12) 泉絢子・市ノ瀬剛・杉立年弘・鈴木 聰・千浦 博: 広域宿主域遺伝子伝達粒子による薬剤耐性遺伝子の水平伝播について. 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 要旨集264.
- 13) Suzuki, S., Inaba, M., Kitamura, S. I., Kumazawa, N. H. and Kodama, H: Marine birnavirus (MABV): Strategies of wide distribution in various hosts and environments. The 4th International Symposium, Reproductive, genetic and disease management in aquaculture and ocean ranching. Hokkaido University 21st COE, Hakodate, Hokkaido, Abstract p. 57.
- 14) Kobayashi, T., Suehiro, F., Tuyen, B. C., Tana, T. S. and Suzuki, S.: Distribution of tetracycline resistant bacteria and resistance genes in Mekong River sediments. The 4th International Symposium, Reproductive, genetic and disease management in aquaculture and ocean ranching. Hokkaido University 21st COE, Hakodate, Hokkaido, Abstract p. 112.
- 15) Suzuki, S., Yamamoto, M., Nonaka, L., Obayashi, Y., Kantani, S. and Jinno, S.: Microflora succession in liquid and solid phases in the process of desalination of seawater by reverse osmosis. International Marine Biotechnology Conference, St. John's, Newfoundland, Canada, June 7-12, Abstract p. 142.
- 16) Obayashi, Y. and Suzuki, S.: Significant activity of dissolved endopeptidases in coastal seawater. ASLO Summer Meeting, Santiago de Compostela, Spain, June 19-24, Abstract p. 113.
- 17) Kobayashi, T., Suehiro, F., Tuyen, B. C. and Suzuki, S.: Diversity of bacterial and archaeal species in Mekong River sediments in Vietnam. joint Meeting of the 3 Divisions of International Union of Microbiological Societies, San Francisco, California, USA, July 23-28, Abstract p. 42-43.
- 18) Suzuki, S., Kobayashi, T., Suehiro, F., Tuyen, B. C. and Tana, T. S.: Tetracycline resistance genes in Mekong

4. 研究成果

- river sediments. 2nd International Symposium on the Development of Water Resource Management System in Mekong Watershed. Bangkok, Thailand, December 7, Proceedings p. 26-30.
- 19) 伊部春香・井上靖之・上田拓史・大塚攻：日本産沿岸性カイアシ類 *Paracalanus parvus* s. l. の分類形質の再検討. 2005年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 厚岸町, 要旨集, 97.
 - 20) 宮本博幸・丸山拓也・上田拓史・木下泉：カサゴ類仔魚のカイアシ類 *Calanus sinicus* のノープリウスと卵に対する摂餌選択性. 2005年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 厚岸町, 要旨集, 98.
 - 21) 山口信雄・坂木佳菜子・上田拓史・逸見泰久・安井金也：ヒガシナメクジウオは何を食べているか, 日本動物学会第76回大会, つくば.
 - 22) 小林 剛・末廣富士代・Tuyen, B. C.・鈴木 聰：メコン川堆積物中における微生物種と抗生物質耐性遺伝子の多様性解析, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集.
 - 23) 大林由美子・鈴木 聰：海洋における高分子溶存有機物と微生物の相互作用に関する研究—細菌の細胞外加水分解酵素の作用を中心として—, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集.
 - 24) 尾崎浩司・上田拓史：高濁度エスチャリーの表層物質循環に関する研究—浮遊性カイアシ類の栄養源—, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集.
 - 25) Rahman, M. H.・Nonaka, L.・Suzuki, S. : Distribution of Antibiotic Resistant tet (M) (RPP) Gene in Marine Environments, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集.
 - 26) 伊谷 行・上田拓史・奈良正和・川口美佳・伊知地稔・内野 敬・Chapman, J.・Dumbauld, B.・Markham, J. C. : 共生性甲殻類を用いた海洋環境における宿主利用の特異性と種の多様化機構の解明, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集.
 - 27) Islam, M. S., Suzuki, K., Ueda, H. and Tanaka, M.: Spatial distribution and trophic ecology of dominant copepods associated with turbidity maximum along the salinity gradient in a highly embayed estuarine system in Ariake Sea, Japan. 日本水産学会, 東京海洋大学.
 - 28) Islam, M. S., Ueda, H. and Tanaka, M. : Spatial variation in distribution and trophic ecology of dominant copepods : the role of turbidity maximum and implications for two contrasting food webs in a large estuarine system in Ariake Sea, Japan. 1st international symposium on "Development and Metamorphosis" organized by the 21st century COE Program ; Kyoto University.
 - 29) Chang, K. H., Doi, H., Ando, T., Mizuta, S., Imai, H., Kajimoto, A., Izumi, W. and Nakano, S. Longitudinal distribution of zooplankton in reservoir-outlet stream. The Second Japan-Korea Joint Symposium on Limnology, Osaka, Japan.
 - 30) Sakamoto, M., Chang, K. H. and Hanazato, T. Impact of an anthropogenic chemical on prey-predator interaction : individual-level experiments using a small cladoceran Bosmina. 7th International Symposium on Cladocera, Herzberg, Switzerland.
 - 31) Nagata, T., Chang, K. H. and Hanazato, T. Impact of increased temperature on a zooplankton community : an experimental analysis using mesocosms. 7th International Symposium on Cladocera, Herzberg, Switzerland.

環境影響評価予測分野

- 1) Koji Omori. Surface ecosystem model. In : Training Course in Quantitative Marine Ecology in Thailand May, 2005.
- 2) Koji Omori, Yuichi Hayami, Hidejiro Ohnishi, Noboru Okuda and Hidetaka Takeoka : Mathematical model analysis on coastal ecosystems : Sustainable usage of a coastal ecosystem, In : International Workshop on Coastal Water Environments and Fish Culture- Case study in Lampung Bay - in Jakarta, Indonesia. June, 2005
- 3) Koji Omori. Mathematical model analysis on coastal ecosystems In : Workshop in Jakarta, Indonesia. Sept., 2005
- 4) Koji Omori, A. Doura, T. Fukumoto, J. Matsumoto, H. Ohnishi, and N. Okuda. Tropical forests as a carbon sink. International Workshop on Mangrove Forests as carbon stock in Tsukuba, Oct. 2005.
- 5) Genkai-Kato M. "Game between zooplankton and fish competing for macrophyte refuge and its consequence on water

- "clarity in lakes" アメリカ陸水海洋学会 (ASLO), サンチャゴ・デ・コンポステラ (スペイン), 2005年6月 (招待講演).
- 6) Genkai-Kato M. "Game between zooplankton and fish competing for macrophyte refuge and its consequences for water clarity in lakes" アメリカ生態学会 (ESA), モントリオール (カナダ・ケベック州), 2005年8月 (一般口頭発表).
 - 7) Miyasaka, H. & Genkai-Kato M. "The meat and salad days of stream invertebrate predators : shift between carnivory and omnivory of stoneflies" 第2回日本韓国合同陸水シンポジウム (2st Koria - Japan Joint Limnology Symposium), 大阪 (日本), 2005年10月 (一般口頭発表).
 - 8) Miyasaka, H. & Genkai-Kato M. "Physiological activity and omnivory of stonefly nymphs in Japanese streams" アメリカ生態学会 (ESA), モントリオール (カナダ・ケベック州), 2005年8月 (一般口頭発表).
 - 9) 岩本直哉・井内美郎：琵琶湖堆積物の全炭素・全窒素含有率からみた過去約40万年間の環境変遷, 日本堆積学会2005年例会, 福岡, 4月, 講演要旨集, 62-63.
 - 10) 渡部遼・岩本直哉・天野敦子・斎藤笑子・納谷友規・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物における物理量と過去約100年間の気象観測結果との対応, 福岡, 4月, 講演要旨集, 64-65.
 - 11) 井内美郎・公文富士夫・近藤洋一・鈴木一久・井上卓彦・岩本直哉：野尻湖ユニバーム音波探査記録に示される湖水面変動史, 日本堆積学会2005年例会, 福岡, 4月, 講演要旨集, 66.
 - 12) 芦田貴史・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：ユニバーム音波探査記録からみた琵琶湖の湖水面変動史, 日本堆積学会2005年例会, 福岡, 4月, 講演要旨集, 67-68.
 - 13) 井上卓彦・米田明徳・原口強・五十嵐厚夫・奈良正和・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：鳥取県西部境港地域の過去約3000年間の砂州拡大過程, 日本堆積学会2005年例会, 福岡, 4月, 講演要旨集, 70-71.
 - 14) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎：愛媛県南部御荘湾の過去約200年間の海底環境変遷, 日本堆積学会2005年例会, 福岡, 4月, 講演要旨集, 72.
 - 15) 芦田貴史・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：ユニバーム音波探査記録のシーケンス層序学的解析からみた琵琶湖の湖水位変動, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, G016P-007.
 - 16) 渡部遼・斎藤笑子・岩本直哉・井上卓彦・納谷友規・天野敦子・加三千宣・井内美郎：琵琶湖の湖底表層柱状コアにみられる物性変動と, 気象観測記録との対応, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, L039P-003.
 - 17) 斎藤笑子・井内美郎：Environmental changes based on grain size record from lacustrine sediments of Lake Biwa, Japan, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, L039-010.
 - 18) 井内美郎：海成“沖積層” のシーケンス層序学的検討－大阪湾を例として－, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, Q061P-001.
 - 19) 井上卓彦・原口強・五十嵐厚夫・奈良正和・岩本直哉・天野敦子・井内美郎：堆積物分布からみた鳥取県西部境港地域の砂州拡大過程, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, Q061P-002.
 - 20) 吉原裕紀・深井照平・市原季彦・松木宏彰・徳岡隆夫・吹田歩・井上卓彦・井内美郎：宍道湖湖底堆積物の粒度分布からみる斐伊川河口域の環境変遷史, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, Q061P-003.
 - 21) 岩本直哉・井内美郎：Environmental changes during the last 400,000 years based on TC, TN contents of Lake Biwa sediments, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, Q042P-009.
 - 22) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎：愛媛県南部御荘湾の過去約200年間の海底環境変遷, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, W102P-002.
 - 23) 中原知明・徳岡隆夫・吹田歩・井上卓彦・井内美郎：高知県四万十川における塩水溯上, 地球惑星科学関連学会2005年合同大会, 幕張, 5月, 講演要旨集 CD-ROM, H020P-007.
 - 24) 井内美郎・井上卓彦・徳岡隆夫・吹田歩・中原知明：音波探査記録からみた四万十川河川感潮域における淡塩境界の動態, 四万十・流域圏学会 第5回学術研究発表会, 高知, 5月, 概要集, 47-48.
 - 25) 井上卓彦・中原知明・徳岡隆夫・吹田歩・井内美郎：四万十川の塩水溯上と超音波を用いた観測法, 四万十・流域圏学会 第5回学術研究発表会, 高知, 5月, 概要集, 59-60.
 - 26) 井上卓彦・井内美郎：碎屑物フラックスをもとにした鳥取県西部皆生海岸から美保湾への土砂移動量, 日本地質学会第112年学術大会, 京都, 9月, 講演要旨集, 191.
 - 27) 天野敦子・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎：愛媛県南部御荘湾における過去約200年間の海底底室環境変遷史, 日本地質学会第112年学術大会, 京都, 9月, 講演要旨集, 201.

4. 研究成果

- 28) 岩本直哉・天野敦子・井内美郎：中国内モンゴル自治区岱海の湖底堆積物から見た最終氷期以降のモンスター変遷，日本地質学会第112年学術大会，京都，9月，講演要旨集，203.
- 29) 関口智寛・布川裕也・大平亮・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎：多島海における堆積地形と流れ場，日本地質学会第112年学術大会，京都，9月，講演要旨集，230.
- 30) 芦田貴史・塙屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：琵琶湖ユニバーム音波探査記録からみた湖水位変動史，日本地質学会第112年学術大会，京都，9月，講演要旨集，243.
- 31) 中原知明・井上卓彦・徳岡隆夫・吹田歩・井内美郎：高知県西部四万十川河口域における塩水楔とその動態，日本地質学会第112年学術大会，京都，9月，講演要旨集，322.
- 32) 井内美郎・公文富士夫・近藤洋一・鈴木一久・井上卓彦・岩本直哉：野尻湖湖底堆積物に記録された千年規模の高分解能湖水面変動史，日本地質学会第112年学術大会，京都，9月，講演要旨集，330.
- 33) 渡部遼・岩本直哉・天野敦子・斎藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物の物性と過去約100年間の気象観測データとの対応，日本地質学会第112年学術大会，京都，9月，講演要旨集，332.
- 34) 吉原裕紀・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・芦田貴史・中原知明・深井照平・井内美郎：愛媛県松山市沖の砂堆“大洲”的砂浪移動様式，第5回日本地質学会四国支部総会・講演会，高松，12月，講演要旨集，0-10.
- 35) 中原知明・井上卓彦・吹田歩・井内美郎：四万十川河口域における塩水溯上による海水・河口水混合，第5回日本地質学会四国支部総会・講演会，高松，12月，講演要旨集，0-11.
- 36) 渡部遼・岩本直哉・天野敦子・斎藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：最近約100年間の気象観測記録と琵琶湖堆積物諸物性との対応，第5回日本地質学会四国支部総会・講演会，高松，12月，講演要旨集，0-12.
- 37) 井内美郎・公文富士夫・近藤洋一・鈴木一久・井上卓彦・岩本直哉：野尻湖湖底堆積物の過去約4万年間の高分解能湖水面変動史，第5回日本地質学会四国支部総会・講演会，高松，12月，講演要旨集，P-4.
- 38) 深井照平・吉原裕紀・市原季彦・松木宏彰・原口強・井上卓彦・井内美郎：宍道湖西岸斐伊川河口域の堆積環境変遷史，第5回日本地質学会四国支部総会・講演会，高松，12月，講演要旨集，P-6.
- 39) 芦田貴史・塙屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：琵琶湖ユニバーム音波探査記録からみた湖水位変動史，第5回日本地質学会四国支部総会・講演会，高松，12月，講演要旨集，P-8.
- 40) 中原知明・井上卓彦・吹田歩・井内美郎：四万十川河口域の塩水楔とその時経列形状変化，第15回環境地質学シンポジウム論文集，横浜12月，135-140.
- 41) 吉原裕紀・岩本直哉・井上卓彦・布川裕也・芦田貴史・中原知明・深井照平・井内美郎：愛媛県松山市沖の砂堆“大洲”的砂浪移動様式，第15回環境地質学シンポジウム論文集，横浜，12月，147-152.
- 42) 芦田貴史・塙屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：音波探査記録からみた琵琶湖の湖水面変動，第15回環境地質学シンポジウム論文集，横浜，12月，179-184.
- 43) 渡部遼・岩本直哉・天野敦子・斎藤笑子・納谷友規・熊谷道夫・井内美郎：琵琶湖湖底表層堆積物の物性と気象観測結果との対応，第15回環境地質学シンポジウム論文集，横浜，12月，185-190.
- 44) 深井照平・吉原裕紀・市原季彦・松木宏彰・原口強・井上卓彦・井内美郎：宍道湖西岸斐伊川河口域の堆積環境変遷史，第15回環境地質学シンポジウム論文集，横浜，12月，197-202.
- 45) 井内美郎・塙屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・芦田貴史：松山市沖の上部更新統～完新統のシーケンス層序学的検討（予察），第15回環境地質学シンポジウム論文集，横浜，12月，203-208.
- 46) 井内美郎・公文富士夫・近藤洋一・鈴木一久・松岡弘和・井上卓彦・岩本直哉・天野敦子・塙屋藤彦・芦田貴史・村上文敏：湖水面高度変動史の復元を指向した野尻湖表層堆積物の推積モデル，日本堆積学会 2006年例会プログラム・講演要旨集，大阪，3月，44.
- 47) 芦田貴史・塙屋藤彦・井上卓彦・岩本直哉・井内美郎：琵琶湖音波探査記録からみた過去約3万5千年間の湖水面変動史，日本堆積学会 2006年例会プログラム・講演要旨集，大阪，3月，98-99.
- 48) 吉野健児・川村有二・大森浩二・中野伸一・武岡英隆：沿岸域における砂堆と一次生産の関係—北条沿岸域をモデルシステムとして—，平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集
- 49) 伊藤 明・篤永知子・小池秀和・奥田 昇・井上幹生・大森浩二：移入魚トウヨシノボリの定着阻害要因—河川環境と底生魚類の生息場所利用に関する長期モニタリング—，平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会，松山，3月，講演要旨集
- 50) 奥田 昇・濱岡秀樹・福元 亨・宮坂 仁・大森浩二・福森香代子・速水祐一・山下亜純・伊藤 明・高木基裕・山野上祐介・兼田淳史・加三千宣・武岡英隆：宇和海沿岸生態系の食物網構造および動態解析：3年間

の総括と今後の展望, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集

- 51) 宮坂 仁・Dzyuba, Y. V.・Shubenkov, S. G.・Hanaev, I. V.・Melnik, N. G.・Timoshkin, O. A.・加藤元海・和田英太郎: Diet Comparison between Two Pelagic Sculpn, *Comephorus baicalensis* and *C. dybowskii* in three basins of Lake Baikal, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集
- 52) 関口智寛・布川裕也・岩本直哉・井上卓彦・井内美郎: 多島海における砂堆の堆積環境: 愛媛県松山市沖海域を例に, 平成16年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会・21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会, 松山, 3月, 講演要旨集
- 53) 大森浩二: 沿岸生態系の健全性解析, 日本ベントス学会全国大会, 北海道
- 54) 大森浩二: 河川生態系におけるレジームシフト, 日本生態学会全国大会, 新潟
- 55) 加藤元海: 湖沼形態・水温・沿岸帶植物を考慮した不連続的な富栄養化の予測, 日本数理生物学会, 横浜国立大学, 2005年9月 (招待講演)
- 56) 加藤元海: 動物プランクトンと魚の捕食回避の隠れ家としての沿岸植物帯をめぐるゲーム, 日本生態学会, 新潟コンベンションセンター, 2006年3月
- 57) 加藤元海: レジーム・シフト: 生態系における不連続的な系状態の変化の実践的な予測, 日本生態学会, 新潟コンベンションセンター, 2006年3月 (宮地賞受賞講演)
- 58) 清家弘治・奈良正和: 現世波浪卓越型砂浜におけるスナガニ属の巣穴形態, 日本プランクトン学会・ベントス学会合同大会講演要旨集, 59.
- 59) 清家弘治・奈良正和: 現世波浪卓越型砂浜海岸に見られるスナガニ属の巣穴形態とその意義, 日本古生物学会2005年年会予稿集, 150.
- 60) 秋山紘胤・伊谷 行・奈良正和: クシケマスオガイ *Cryptomya truncata* の生態観察 -アナジャコ類との共生関係, 日本古生物学会2005年年会予稿集, 151.
- 61) 奈良正和: 中部更新統下総層群藪層に見られる生痕化石群集とその古生態学的・古環境学的意義, 日本古生物学会2005年年会予稿集, 87.

5. 学会及び社会における活動



5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 中央環境審議会臨時委員, 環境省
- 2) 愛媛海区漁業調整委員会委員, 愛媛県
- 3) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 4) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 5) 伊方原子力発電所環境安全管理委員会委員, 愛媛県
- 6) 養殖魚安全対策検討委員会委員, 愛媛県漁連
- 7) 重信川の自然を育む会アドバイザー, 国土交通省四国地方整備局松山河川国道事務所
- 8) 水産評価専門部会委員, 愛媛県
- 9) 愛媛県環境影響評価審査会委員, 愛媛県

郭 新宇

- 1) 研究員, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター
- 2) 共同研究員, 総合地球環境学研究所

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 客員教授, 独立行政法人東京大学海洋研究所
- 2) 客員教授, 中国・南京大学環境学院
- 3) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所
- 4) 客員研究員, 財団法人山階鳥類研究所
- 5) 地球環境科学技術委員会委員, 文部科学省
- 6) 科学技術・学術審議会専門委員(学術分科会), 文部科学省
- 7) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会調査委員, 文部科学省
- 8) 科学研究費委員会専門委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 9) 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ委員会専門委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 10) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員, 環境省
- 11) 地球環境研究企画委員会第2研究分科会委員, 環境省
- 12) 化学物質の内分泌搅乱作用等に関する日韓共同研究に係わる実務者会議委員, 環境省
- 13) 新規 POPs 等検討会委員, 環境省
- 14) ExTEND2005に基づく野生生物の生物学的知見研究班研究班員, 環境省
- 15) 臭素化ダイオキシンの人への健康影響調査に関する検討会委員, 環境省
- 16) 臭素系ダイオキシン類排出実態等調査業務に関する検討会委員, 環境省
- 17) 海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省
- 18) 野生生物のダイオキシン類蓄積状況及び影響調査検討会検討委員, 環境省
- 19) 海洋環境モニタリングにおけるバイオアッセイの活用に関する研究会委員, 環境省
- 20) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 21) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 22) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省

- 23) 廃棄物処理過程におけるダイオキシン類縁化合物の挙動と制御に関する研究委員会委員, 環境省
- 24) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会
- 25) 岡山大学資源生物科学研究所外部評価委員, 岡山大学
- 26) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 27) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 28) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員, 愛媛県
- 29) 養殖魚安全対策検討委員会委員, 愛媛県漁業協同組合連合会
- 30) 環境問題助成研究懇談会委員, 日本生命財団
- 31) External Assessor for Appointments to the Post of Associate Professor/Professor in the Faculty of Applied Science and Technology, Universiti Putra Malaysia
- 32) External Assessor for Promotion to Professorship, City University of Hong Kong
- 33) External Reviewer for Ocean Park Projects in Hong Kong
- 34) External Referee for University Grants Committee in Hong Kong

高橋　眞

- 1) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所

生態毒性解析分野

岩田　久人

- 1) 環境試料タイムカプセル事業検討会委員, 国立環境研究所

生態系解析分野

鈴木　聰

- 1) 大学評価・学位授与機構学位審査会臨時専門委員
- 2) 地球科学技術総合推進機構 IODP 国内科学計画委員会地下圈微生物専門部会委員

環境影響評価予測分野

井内　美郎

- 1) 松山市道後温泉審議会委員, 松山市
- 2) 松山市環境審議委員, 松山市
- 3) 松山市環境審議会土壤汚染調査・対策検討専門部会員
- 4) 島根大学汽水域研究センター客員研究員, 島根大学
- 5) 海洋研究所協議会委員, 東京大学
- 6) 海砂利採取跡地等の埋め戻しに関する検討会委員

大森　浩二

- 1) 河川・溪流アドバイザー, 胴川・野村ダム, 国土交通省
- 2) 流況変動研究委員会委員, ダム水源地環境整備センター
- 3) 水源地生態研究会議委員, ダム水源地環境整備センター
- 4) 愛媛県溪流環境整備計画検討委員会, 愛媛県
- 5) 河川・溪流アドバイザー, 重信川, 国土交通省
- 6) 四国ダムフォローアップ委員会, 国土交通省
- 7) 胴川清流保全委員会, 国土交通省, 大洲市ほか
- 8) 胴川水系流域委員会, 国土交通省
- 9) 早明浦ダム濁水検討委員会, 国土交通省
- 10) 山鳥坂ダム環境検討委員会, 国土交通省

5. 2 学協会委員等

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 副部会長, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会
- 3) 理事,瀬戸内海研究会議
- 4) 幹事, 水産海洋学会

郭 新宇

- 1) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「海の研究」

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 会長, 日本環境毒性学会
- 2) 理事, 内分泌搅乱化学物質学会
- 3) 評議員, 日本環境化学会
- 4) 副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 5) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 6) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 7) Editorial Board Member, Australasian Journal of Ecotoxicology (Australasian Society for Ecotoxicology)
- 8) Editorial Board Member, Environmental Geochemistry and Health (Kluwer Academic Publishers)
- 9) Editorial Board Member, Environmental Sciences (MY Research)
- 10) Editorial Board Member, Archives of Environmental Contamination and Toxicology (Springer)
- 11) International Journal of Applied Environmental Sciences (Research India Publications)

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, The Scientific World (The Scientific World)

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 評議員, マリンバイオテクノロジー学会

上田 拓史

- 1) 編集委員, Plankton Biology and Ecology (英文誌), 日本プランクトン学会

野中 里佐

- 1) 評議員, 日本微生物生態学会

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 評議員, 日本第四紀学会

大森 浩二

- 1) 日本生態学会大会企画委員

5. 3 学会、講演会などの開催（センター主催または共催）

- 1) 国際ワークショップ「Workshop on Status of Pollution of Heavy Metals and Persistent Toxic Substances in India」
(Centre of Advanced Study in Marine Biology, Annamalai University, India と共催)

期日：2005年4月6日

会場：Annamalai University, Chidambaram, Tamilnadu, India

Opening Remarks

Plenary Lectures

Status of Pollution by Persistent Toxic substances (PTS) in the Asia-Pacific Region

21 COE Project Leader, Professor, Center for Marine Environmental Studies (CMES), Ehime University, Japan, Dr. Shinsuke Tanabe

Contamination by Persistent Toxic Substances (PTS) in India

Toyota Project Leader, Guest Professor, Center for Marine Environmental Studies (CMES), Ehime University, Japan, Dr. Annamalai Subramanian

Status of Marine Pollution in Coastal Waters of India with Specific Reference to Heavy Metals

Project Director, Department of Ocean Development, Government of India, Chennai, India Dr. B. Subramanian

Invited Lectures

Status of Anthropogenic Heavy Metals and Persistent Organic Substances in the Coastal Area of India Professor, National Institute of Oceanography, Mumbai, India Dr. M. D. Zingde

Seasonal Variations in Trace Metals and Nutrients on the West Coast of India between Ratnagiri to Mangalore Professor, National Institute of Oceanography, Dona Pula, Goa, India Dr. S. Kaisary

Heavy Metal Interactions in Water Bodies around Greater Cochin

Professor, Department of Chemical Oceanography, Cochin University of Science and Technology, Cochin, India Dr. J. Chacko

Studies on Heavy Metal Toxicity on Microbial Enzymes with Special Reference to B-glucosidase along Titanium Plant and Veli Lake Coastal Region of Trivandrum

Professor, Department of Aquatic Biology & Fisheries, University of Kerala, Trivandrum, Kerala, India Dr. K. Dhevendran

Lingering Heavy Metal (Cadmium) Imparted Estrogenic Effect on Oreochromis mossambicus (Peters, 1852)

Professor, Department of animal Science, Bharathidasan University, Tiruchirappalli, Tamilnadu, India Dr. C. Amutha

Endocrine Disrupting Compounds in Indian Coastal Environment

Associate Professor, Department of Eco-Biotechnology, School of Environmental Sciences, Bharathidasan University, Tiruchirappalli, Tamilnadu, India Dr. R. B. Rajendran

Estuarine Sediments as Bio-Markers for Metal Pollution on Tamilnadu Coast (Bio-Geochemical Study)

Professor, Department of Earth Sciences and CAS in Marine Biology, Annamalai University, Porto Novo, Tamilnadu, India Dr. T. Ramkumar

Metals in the Marine Environment off Andhra Pradesh Coast - A Synthesis

Marine Chemistry Laboratory, Andhra University, Visakhapatnam, India Dr. N. S. Sarma

Status of Heavy Metals in Coastal Sediments and Water of Orissa and west Bengal Director,

Regional Research Laboratory, Bhubaneswar Dr. B. C. Acharya

Closing Remarks

- 2) 第21回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)

期日：2005年4月26日(火) 15:00～16:30

会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室

バイカル湖沖帯の食物網構造の特徴

京都大学名誉教授・総合地球環境学研究所名誉教授 中西正己

3) 国際トレーニングコース 「Training Course in Quantitative Marine Ecology in Thailand」

(Department of Marine Science, Kasetsart University, Thailand と共催)

期日：2005年5月16～27日

会場：Department of Marine Science, Kasetsart University, Bangkok, Thailand

Course outline

1. Revisionary material
2. Analysis of Variance for comparisons of locations of more than 2 populations
3. Nested Analysis of Variance
4. Factorial Analyses of Variance
5. General Models : Experimental Design
6. Correlations and Regressions

Prof. A. J. Underwood and Dr. M. G. Chapman, University of Sydney

Koji Omori, Ehime University

4) 国際ワークショップ 「International Work shop on Coastal shop Water Environments and Fish Cultur Culture - Case study in Lampung Bay -」

(National Agency for Assessment and Application of Technology (BPPT), Jakarta, Indonesia および Balai Budiday a Laut (BBL), Lampung, Indonesia と共催)

期日：2005年6月7日

会場：Venue nue BPPT II 3rd floor floor, Commission 2, Jakarta

Contents

Opening Remarks

Hidetaka Takeoka, Ehime Univ.

Martin Djamin, BPPT

1st topic : Environment Environmental Characteristics of Lampung Bay

Chair Person: Koji Omori

1. Hypoxic water mass in Lampung Bay, Indonesia.

Yuichi Hayami, Saga Univ.

2. Spatial distribution of phytoplankton at the Hurun Bay

Rahmania A. Darmawan, BPPT

3. Observation of current and tide in Hurun Bay, South Lampung.

Agung Riyadi, BPPT

4. Long-term variation in water quality and phytoplankton of Hurun Bay (1998-2004)

Muananah, Nira and Hendri, BBL

2nd topic : Environment Environmental problems related to coastal mariculture

Chair Person: Sabaruddin W. Tj.

5. Marine fisheries technology assessment and development in national seafarming development center Lampung-Indonesia

Philipus Hartono, BBL

6. Surveillance of aquatic viruses in diseased and healthy fish and oyster in Indonesia.

Shinichi Kitamura, Yosu National Univ.

7. Respiration of groupers in fish culture in Hurun Bay.

Arif Dwi Santoso, BPPT

8. Mathematical model analysis on coastal ecosystem : Sustainable usage of a coastal ecosystem.

Koji Omori, Ehime Univ.

9. Sustainable marine fish caging aquaculture in Indonesia.

Adi Hanafi, GRIM

3rd topic : Case Studies in other area and new techniques

Chair Person: Yuichi Hayami

10. Persistent toxic substances in the coastal waters of Indonesia : Levels, distributions, ecological and human health risk assessment.
Agus Sudaryanto, Ehime Univ.
11. Influence of organic waste from a yellowtail (Seriola quinqueradiata) cage farm on the bottom sediment and water quality in a coastal environment (Shido Bay, the Seto Inland Sea, Japan)
Sarawut Srithongouthai, Kumamoto Pref. Univ. and Shigeru Montani, Hokkaido Univ.
12. Environmental impact of fish culture in Cirata Reservoir
Yudhi udhi S. Garno, BPPT
- Total Discussion
Chair Person: Koji Omori
- Closing Remarks
Tusy A. Adibroto, BPPT
- 5) 第22回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日 : 2005年10月7日(金) 14:00~16:15
会場 : 城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室
Mangroves and Global Environment : Flourishing or Perishing?
Annamalai University, India Prof. Kandasamy KATHIRESAN
Studies on the Global Cycling of Persistent Organic Pollutants
Lancaster University, United Kingdom Prof. Kevin JONES
Regional Cycling and Potential Long-range Atmospheric Transport of Organochlorine Pesticides in the Pearl River Delta, South China
The Chinese Academy of Sciences, P. R. China Prof. Gan ZHANG
- 6) 第23回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日 : 2005年10月12日(水) 13:30~
会場 : 城北キャンパス 総合研究棟1, 沿岸環境科学研究センター長室
Effects of detritus feeding on dominance and coexistence of zooplankton
京都大学生態学研究センター・教授 山村 則男
河川生態系の解析
愛媛大学沿岸環境科学研究センター・助教授 大森 浩二
Game between zooplankton and fish competing for macrophyte refuge and the consequences for water clarity in lakes
愛媛大学沿岸環境科学研究センター・COE 研究員 加藤 元海
- 7) 第24回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日 : 2005年11月25日(金) 15:00~
会場 : 城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室
海洋深層における "乱流ホットスポット" のグローバルなマッピング
東京大学大学院・教授 日比谷紀之
- 8) 化学汚染研究の最前線—愛媛大学沿岸環境科学研究センター 田辺信介教授「2005年環境毒性化学学会(SETAC)国際賞」受賞記念講演会—
期日 : 2005年12月5日(月) 15:00~17:00
会場 : 総合情報メディアセンター1階 メディアホール
(次 第)
開会式 小松正幸学長挨拶ほか
講演1 : 環境汚染研究の歩みと es-BANK —瀬戸内に学び、世界を知り、未来を考える
愛媛大学沿岸環境科学研究センター・教授 田辺 信介
講演2 : 捨てる主義、捨てない主義、—環境モニタリングと試料長期保存の役割—
(独) 国立環境研究所・化学環境研究領域長 柴田 康行

5. 学会及び社会における活動

- 9) 第25回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日：2006年1月12日(木) 13:30～14:30
会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室
バイオアッセイの環境・廃棄物モニタリングへの新たな展開
(独) 国立環境研究所 循環型社会形成推進・廃棄物研究センター 主任研究員 滝上 英孝
- 10) 第26回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日：2006年1月17日(火) 10:30～12:00
会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室
Geochemistry of submarine groundwater discharge and its impact on the costal marine environment (沿岸海底湧水の地球化学とその海洋学的意義)
富山大学理学部・助教授 張 勁
- 11) 第27回21世紀 COE 特別セミナー (21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点と共に)
期日：2006年1月27日(金) 15:30～17:00
会場：城北キャンパス 総合研究棟1, 6階会議室
高分解能大気海洋結合モデルを用いた地球温暖化のシミュレーション
東京大学気候システム研究センター・教授 住 明正
- 12) 地球温暖化防止フォーラム (愛媛県地球温暖化防止活動推進センター主催, 愛媛大学21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点・地域共同研究センター研究協力会環境保全部会・環境学ネットワーク・愛媛県環境保全協会共催)
期日：平成18年1月28日(土) 13:00～15:45
会場：松山市立子規記念博物館 4階講堂
プログラム
講演題目：地球温暖化をめぐる最近の話題
東京大学気候システム研究センター・教授 住 明正
討論会
テーマ：地球温暖化にどう対処するか
東京大学気候システム研究センター教授 住 明正
愛媛大学沿岸環境科学研究センター長・教授 武岡 英隆
愛媛大学農学部教授 末田 達彦
愛媛県環境創造センター所長(司会) 立川 涼
- 13) 平成17年度沿岸環境科学研究センター年次研究成果報告会
21世紀 COE 沿岸環境科学研究拠点若手研究成果報告会
期日：3月20日(月) 9:00～16:50, 3月21日(火・祝) 9:00～16:50
会場：愛媛大学総合情報メディアセンター
プログラム
(COE プロジェクト研究)
陸域における人間活動の変遷が沿岸海洋環境に及ぼしてきた影響に関する研究
○武岡 英隆 (CMES 教授)・井内 美郎 (CMES 教授)・大森 浩二 (CMES 助教授)・
郭 新宇 (CMES 助教授)・梶原夏子 (CMES 助手)・加三千宣 (CMES COE 研究員)・
宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・加藤元海 (CMES COE 研究員)・
渡邊政広 (工学部教授)・三宅 洋 (工学部講師)・堤 純 (法文学部助教授)・
野崎賢也 (法文学部講師)・井上幹生 (理学部助教授)・
奥田 昇 (京都大学生態学研究センター助教授)
安定同位体分析を用いた生態系解析の環境科学への応用に関する研究
○大森 浩二 (CMES 助教授)・高橋 真 (CMES 助教授)・梶原 夏子 (CMES 助手)・
宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・加 三千宣 (CMES COE 研究員)・

加藤 元海 (CMES COE 研究員)・阿草 哲郎 (CMES COE 研究員)・
井上 英 (CMES 研究期間研究員)・福森香代子 (CMES 研究支援推進員)・
Karri Ramu (連合農学研究科博士課程2年)・中野 伸一 (農学部助教授)・
池本 徳孝 (農学部科学技術振興研究補助員)・土居秀幸 (農学部学振特別研究員)・
奥田 昇 (京都大学生態学研究センター助教授)・小濱 剛 (千葉科学大学 講師)

生物環境試料バンクを活用した有害物質の環境モニタリング

○梶原 夏子 (CMES 助手)・高橋 真 (CMES 助教授)・
国末 達也 (CMES COE 研究員)・磯部 友彦 (CMES COE 研究員)・
Nguyen Hung Minh (CMES 研究機関研究員)・宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・
Agus Sudaryanto (連合農学研究科博士課程3年)・
Karri Ramu (連合農学研究科博士課程2年)・Annamalai Subramanian (CMES 客員教授)・
田辺 信介 (CMES 教授)

水圈生物における化学汚染のバイオマーカーの探索とリスク評価システムの開発

○岩田 久人 (CMES 教授)・金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・
石橋 弘志 (CMES COE 研究員)・阿南弥寿美 (CMES 研究機関研究員)・
久保田 彰 (連合農学研究科博士課程3年)・新美 聰子 (連合農学研究科博士課程3年)・
山内 正信 (連合農学研究科博士課程3年 愛媛県立衛生環境研究所)・
渡辺 倫夫 (連合農学研究科博士課程3年)・南 銅是 (連合農学研究科博士課程3年)・
酒井 大樹 (連合農学研究科博士課程2年)・安井 知子 (理工学研究科学士過程2年)・
能勢 真人 (医学部教授)・小森 浩章 (医学部助手)・宮脇 恭史 (医学部 COE 研究員)

東シナ海における残留性有機汚染物質 (POPs) の輸送過程に関する研究

○郭 新宇 (CMES 助教授)・高橋 真 (CMES 助教授)・
高橋 大介 (CMES COE 研究員)・武岡 英隆 (CMES 教授)

〈COE/CMES 若手研究成果〉

海棲哺乳類の脳に残留する水酸化 PCBs と分析法の開発

○国末 達也 (CMES COE 研究員)・山田 格 (国立科学博物館)・
田辺 信介 (CMES 教授)

Asian Mussel Watch Program : Sources and Distribution of Polybrominated Diphenyl Ethers (PBDEs) and Organochlorines Contamination in Coastal Waters of Asian Countries

○K. Ramu (連合農学研究科博士課程2年)・N. Kajiwara (CMES 助手)・
A. Sudaryanto (連合農学研究科博士課程3年)・T. Isobe (CMES COE 研究員)・
S. Takahashi (CMES 助教授)・A. Subramanian (CMES 客員教授)・
P. K. S. Lam (City University of Hong Kong, Professor)・
M. Prudente (De La Salle University, Philippines, Professor)・
T. S. Tana (Cabinet of the Council of Minister, Cambodia)・
P. H. Viet (Hanoi National University, Professor)・S. Tanabe (CMES 教授)

Human Exposure to PBDEs : A Case Study in Indonesia and Other Asian Countries

○Agus Sudaryanto (連合農学研究科博士課程3年)・Natsuko Kajiwara (CMES 助手)・
Tatsuya Kunisue (CMES COE 研究員)・Shinsuke Tanabe (CMES 教授)・
Tusy A. Adibroto (BPPT-Indonesia, Director)

Stream food-web structure and trophic interactions revealed by stable isotope analysis

○宮坂 仁 (CMES COE 研究員)・加藤元海 (CMES COE 研究員)

Game between zooplankton and fish competing for macrophyte refuge and the consequences for water clarity in lakes

○加藤元海 (CMES COE 研究員)

Tetracycline resistance gene tet (M) distributes in the coastal and off-shore marine sediments

○M. H. Rahman (CMES COE 研究員)・L. Nonaka (CMES 助手)・S. Suzuki (CMES 教授)

海洋微生物による海水中でのタンパク質の分解・利用に関する研究

○大林由美子 (CMES COE 研究員)・上岡 なほみ (理学部 生物地球圏科学科 4 年)・

鈴木 聰 (CMES 教授)

メコン川堆積物中のテトラサイクリン耐性菌および耐性遺伝子の分布

○小林 剛 (CMES COE 研究員)・末廣富士代 (農学研究科修士課程2年)・

野中 里佐 (CMES 助手)・Bui Cach Tuyen (ベトナム・ノンラム大学 教授)・

Touch Seang Tana (カンボジア内閣府)・鈴木 聰 (CMES 教授)

TCDD 暴露したマダイ (*Pagrus major*) 初期発生における各 AHR 異性体の発現と毒性影響の関係

○山内 正信 (連合農学研究科博士課程3年, 愛媛県立衛生環境研究所)・

金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・岩田 久人 (CMES 教授)・

島 康洋 (独立行政法人 水産総合研究センター 能登島栽培漁業センター)・

田辺 信介 (CMES 教授)

バイカルアザラシにおける Constitutive Androstane Receptor (CAR) 転写活性化能の解析 – *in vitro* レポーター遺伝子アッセイを用いた非ダイオキシン様環境汚染物質のリスク評価 –

○酒井 大樹 (連合農学研究科博士課程2年)・岩田 久人 (CMES 教授)・

金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・宮崎 信之 (東京大学海洋研究所)・

Petrov E. A. (The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center)・

田辺 信介 (CMES 教授)

バイカルアザラシ (*Pusa sibirica*) PPAR-CYPs シグナル伝達経路を介した有機フッ素化合物による毒性影響メカニズムの解明

○石橋 弘志 (CMES COE 研究員)・金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・

岩田 久人 (CMES 教授)・田辺 信介 (CMES 教授)

ミンククジラの肝チトクローム P450 1-4各分子種の mRNA 発現プロファイルと酵母を用いた *in vitro* タンパク発現

○新美 聰子 (連合農学研究科博士課程3年)・渡辺 倫夫 (連合農学研究科博士課程3年)・

国末 達也 (CMES COE 研究員)・金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・

岩田 久人 (CMES 教授)・安永 玄太 (日本鯨類研究所)・

藤瀬 良弘 (日本鯨類研究所)・田辺 信介 (CMES 教授)

カワウにおけるチトクローム P450 1A – 分子的特徴とダイオキシン類の蓄積に関連した毒性学的解析 –

○久保田 彰 (連合農学研究科博士課程3年)・岩田 久人 (CMES 教授)・

Goldstone, H. M. H. (ウツズホール海洋生物学研究所)・

金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・Stegeman, J. J. (ウツズホール海洋研究所)・

田辺 信介 (CMES 教授)

ウミガメ類の微量元素蓄積機構および比較生物学的解析

○阿南弥寿美 (CMES 研究機関研究員)・金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・

國頭 恒 (信州大学理学部助教授)・池本 徳孝 (農学部 科学技術振興研究補助員)・

池田翔太郎 (農学研究科修士課程2年)・岩田 久人 (CMES 教授)・田辺信介 (CMES 教授)

アジア途上国における鉛汚染 – ヒトへの曝露と毒性影響、汚染源の推定 –

○阿草哲郎 (CMES COE 研究員)・國頭 恒 (信州大学理学部助教授)・

Karri Ramu (連合農学研究科博士課程2年)・Chhoun Chamnan (カンボジア水産局副所長)・

Pham Thi Kim Trang (ベトナム・ハノイ国立大学講師)・Tu Binh Minh (農学部助教授)・

Annamalai Subramanian (CMES 客員教授)・岩田久人 (CMES 教授)・

Pham Hung Viet (ベトナム・ハノイ国立大学教授)・

Touch Seang Tana (カンボジア内閣官房)・田辺信介 (CMES 教授)

Molecular characterization of two metallothionein isoforms in avian species: evolutionary history, tissue distribution profile, and expression associated with metal accumulation

○Dong-Ha Nam (連合農学研究科博士課程3年)・金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・

岩田 久人 (CMES 助教授)・田辺 信介 (CMES 教授)

胚発生を指標とした海洋汚染モニタリングシステムの開発

○宮脇 恒史 (CMES COE 研究員)・土居原拓也 (医学系研究科博士課程1年)・

味口 裕仁 (医学系研究科博士課程1年)・小森 浩章 (医学部助手)・

- 能勢 真人 (環境比較病理学分野教授)
宇和海沿岸域における動物プランクトン群集変動の解析
 ○Chang, Kwang-Hyeon (CMES 研究機関研究員)・土居 秀幸 (農学部学振特別研究員)・
 大林由美子 (CMES COE 研究員)・片野 俊也 (韓国漢陽大学生命科学科研究員)・
 松澤裕美子 (農学部修士課程2年)・注連 麻里 (農学部修士課程1年)・
 山本 貴子 (農学部修士課程1年)・吉原 瑞穂 (農学部修士課程1年)・
 木原 明子 (農学部生物資源学科4年)・河野 将己 (農学部生物資源学科4年)・
 光盛つかさ (農学部生物資源学科4年)・中野 伸一 (農学部助教授)
- 黒潮流沿岸域における浮遊性カイアシ類の群集構造と生産に関する研究 1. 豊後水道
 ○西部裕一郎 (CMES COE 研究員)・小泉 喜嗣 (愛媛県水産試験場)・
 上田 拓史 (高知大海洋生物教育研究センター)
- 法華津湾におけるミズクラゲパッチの消長
 ○藤井 直紀 (CMES COE 研究員)・南條 悠太 (工学部環境建設工学科4年)・
 福島 明子 (理学部生物地球圏科学科4年)・武岡 英隆 (CMES 教授)
- 水棲鳥類 AhR アイソフォームの機能的解析
 ○安井 知子 (理工学研究科博士後期課程2年)・金 恩英 (CMES COE 客員助教授)・
 岩田 久人 (CMES 教授)・Diana G. Franks (Woods Hole Oceanographic Institution (WHOI))・
 Sibel I. Karchner (WHOI)・Mark E. Hahn (WHOI)・田辺 信介 (CMES 教授)
- ヘキサブロモシクロドデカン (HBCDs) による生態系汚染実態の解明
 ○磯部 友彦 (CMES COE 研究員)・Nguyen Hung Minh (CMES 研究機関研究員)・
 Karri Ramu (連合農学研究科博士課程2年)・高柳 望 (農学研究科修士課程1年)・
 越智 陽子 (農学部4回生)・国末 達也 (CMES COE 研究員)・
 上野 大介 (佐賀大学講師)・梶原 夏子 (CMES 助手)・高橋 真 (CMES 助教授)・
 田辺 信介 (CMES 教授)
- 沿岸域海底コアを用いた過去500年間の黒潮変動及び日本沿岸カタクチイワシ資源量変動の復元に関する研究
 ○加 三千宣 (CMES COE 研究員)・杉本 隆成 (東海大教授)・井内 美郎 (CMES 教授)・
 速水 祐一 (佐賀大助教授)・山下 亜純 (愛媛県水産試験所)・
 山口 一岩 (CMES COE 研究員)・大森 浩二 (CMES 助教授)・
 郭 新宇 (CMES 助教授)・武岡 英隆 (CMES 教授)
- 人間活動に伴って大阪湾の植物プランクトン群集に起きた変化:堆積物中の親生物元素 (C, N, Si) の鉛直分布からの推察
 ○山口 一岩 (CMES COE 研究員)・三好 慶典 (工学部4年)・
 加 三千宣 (CMES COE 研究員)・加 玲美 (佐賀大有明プロジェクト研究機関研究員)・
 天野 敦子 (博士課程理工学研究科3年)・井内 美郎 (CMES 教授)・
 武岡 英隆 (CMES 教授)
- Spatial Distribution and Temporal Trend of Polybrominated Diethyl Ethers (PBDEs) and Hexabromocyclododecane (HBCD) in Sediments Collected from Tokyo Bay, Japan
 ○Nguyen Hung Minh (CMES, Postdoctoral)・Isobe Tomohiko (CMES COE 研究員)・
 Natsuko Kajiwara (CMES 助手)・Tatsuya Kunisue (CMES COE 研究員)・
 Shin Takahashi (CMES 助教授)・Hisato Iwata (CMES 教授)・
 Shinsuke Tanabe (CMES 教授)
- メコン河下流域のラオス, タイおよびベトナムメコンデルタ東部における地下水のヒ素汚染
 ○井上 英 (CMES 研究機関研究員)・阿草 哲郎 (CMES COE 研究員)・
 國頭 恭 (信州大学助教授)・Tu Binh Minh (農学部助教授)・
 Nguyen Phuc Cam Tu (ベトナム・Nong Lam University)・
 Bui Cach Tuyen (ベトナム・Nong Lam University)・Chhoun Chamnan (カンボジア水産局)・
 Touch Seang Tana (カンボジア内閣官房)・Alissara Reungsang (タイ・Khon Kaen University)・
 Kriengsak Srisuk (タイ・Khon Kaen University)・

5. 学会及び社会における活動

- 中村 哲 (国立国際医療センター研究所)・滝沢 智 (東京大学教授)・
岩田 久人 (CMES 教授)・田辺 信介 (CMES 教授)
水域生態系における食物網の構造と人為改変
○土居 秀幸 (農学部 学振特別研究員)・張 光弦 (CMES 研究機関研究員)・
中野 伸一 (農学部助教授)
残留性有機汚染物質 (POPs) の鉛直輸送過程に関する研究
○高橋 大介 (CMES COE 研究員)・郭 新宇 (CMES 助教授)・
高橋 真 (CMES 助教授)・武岡 英隆 (CMES 教授)
A Numerical Study on the water circulation in Seto Inland Sea
○P.-H. Chang (CMES COE 研究員)・X. Guo (CMES 助教授)・H. Takeoka (CMES 教授)
半日周期内部潮汐の底層でのエネルギー強化に伴う海水交換への影響
○川村 有二 (CMES COE 研究員)・武岡英隆 (CMES 教授)
日高湾東部陸棚上における沿岸流の季節変化とその力学
○黒田 寛 (理工学研究科博士課程3年)・武岡英隆 (CMES 教授)・
磯田 豊 (北海道大学大学院水産科学研究院)・本田 聰 (北海道区水産研究所)
閉会のあいさつ 田辺 信介 (COE 抱点リーダー)

5.4 学会、後援会などの開催（個人）

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会, 平成17年9月1日～2日, 淑徳短期大学, 東京, 大会委員長
- 2) International Workshop on Status of Pollution of Heavy Metals and Persistent Toxic Substances in India, Annamalai University, Chidambaram, Tamilnadu, India, 6 April, 2005, Organizer
- 3) POPs に関するストックホルム条約第1回締約国会議記念シンポジウム「日本における残留性有機汚染物質(POPs) 対策と汚染実態」, 平成17年6月8日, 横浜国立大学, 横浜, 共催
- 4) Joint International Symposium on Marine-Manipulation Frontier for Food Production, Hokkaido University, Hakodate, Japan, 8-11 Oct., 2005, Co-organizer
- 5) 近畿大学21世紀 COE プログラム「クロマグロ等の魚類養殖産業支援型研究拠点」第4回シンポジウム, 平成17年10月15日, 近畿大学東大阪キャンパス, 東大阪市, 共催

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成17年12月, RR 国際水資源管理シンポジウム (東北大と共同主催), バンコク, タイ

5.5 学会賞等

生態環境計測分野

- 1) 田辺信介 : The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award 国際賞, 平成17年11月

生態毒性解析分野

- 1) Yamauchi, M., Kim, E. Y., Iwata, H., Shima, Y. and Tanabe, S. : Tissue-specific and developmental expression of two aryl hydrocarbon receptor isoforms (AhR1 and AhR2) from red seabream (Pagrus major). International Symposium PRIMO (Pollutant Responses in Marine Organisms) 13 : Best Presentation Award 受賞
- 2) 久保田彰・岩田久人・金 恩英・田辺信介・米田久美子 : カワウにおける新規チトクローム P450 2分子種の

同定・定量と残留性有機汚染物質蓄積の関係、 第11回日本環境毒性学会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会：奨励賞受賞

環境影響評価予測分野

- 1) 芦田貴史：日本地質学会四国支部大会， 優秀講演賞
- 2) 吉原裕紀：日本地質学会四国支部大会， 優秀講演賞
- 3) 清家弘治：日本古生物学会2005年年会， ポスター賞

6. 國際的活動



6. 1 國際研究プロジェクト

環境動態解析分野

武岡 英隆, 郭 新宇, 兼田 淳史

- 1) 平成14年～平成17年, 東南アジアの養殖漁場における漁場管理と環境保全 (科研費基盤研究 (A) (1)), インドネシア技術評価応用庁と共同研究

郭 新宇

- 1) 平成17年～平成20年, 東シナ海における生態系変動に関する研究, 中国・華東師範大学
- 2) 平成17年～平成18年, 風による Chesapeake Bay における河口循環流の挙動に関する研究, University of Florida

生態環境計測分野

田辺 信介・高橋 真

- 1) 平成15年～平成18年, 有害物質によるメコン川流域の汚染と影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, ベトナム・ハノイ大学等
- 2) 平成16年～平成18年, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成16年～平成20年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科), ベトナム・ハノイ大学等
- 4) 平成13年～平成17年, 内分泌攪乱化学物質問題に関する日韓共同研究 (環境省) 一環日本海におけるダイオキシンの魚介類等への蓄積状況について, 韓国・成均館大学薬学部および慶南大学
- 5) 平成13年～平成17年, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (海洋科学分野) (東京大学海洋研究所), インドネシア・タイ・マレーシア・フィリピン・ベトナム
- 6) 平成14年～平成18年, 21世紀 COE 国際共同研究—オランダ沿岸におけるアザラシの大量死と有害物質の汚染および影響に関する環境毒性学的研究, オランダ・エラスムス大学
- 7) 平成15年～平成18年, 内分泌攪乱物質による野生生物およびヒトの汚染と毒性影響に関する研究, 中国・香港城市大学
- 8) 平成15年～平成17年, 内分泌攪乱物質によるバイカルアザラシの汚染とその蓄積特性および影響評価に関する研究, ロシア・バイカル自然保護研究所
- 9) 平成15年～平成17年, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 10) 平成16年～平成20年, POPs, PBDEs 等による母乳汚染の実態解明, 中国・南京大学
- 11) 平成16年～平成17年, 有機スズ化合物による米国西岸の二枚貝汚染, 米国・オレゴン州立大学ハットフィールド海洋センター
- 12) 平成17年～平成20年, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 13) 平成17年～平成20年, POPs および POPs 候補物質によるアジアの広域大気汚染とその動態に関する研究, 中国・広州地球化学研究所および英国・ランカスター大学

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) 平成17年～, 野生鳥類のシトクローム P450の進化と機能に関する研究, 米国 ウッズホール海洋研究所
- 2) 平成17年～, 化学物質が野生鳥類の遺伝子発現プロファイルに及ぼす影響, カナダ Environment Canada,

National Wildlife Research Centre

- 3) 平成16年～、野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究、米国 ニューヨーク州立大学
- 4) 平成17年～、バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究、ロシア The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center

金 恩英

- 1) 平成15年～、野生鳥類のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究、米国 ウッズホール海洋研究所

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成13年4月～平成22年度、日本学術振興会拠点大学交流事業（北海道大学大学院水産科学研究院）、韓国、釜慶大学、麗水大学等
- 2) 平成13年4月～平成22年度、日本学術振興会拠点大学交流事業（東京大学海洋研究所）、フィリピン等5カ国、東南アジア水産開発研究センター、ハノイ大学、ノンラム大学等
- 3) 平成14年4月～、有機スズ分解細菌に関する研究、インドゴア大学およびポルトガルアベイロ大学
- 4) 平成15年4月～、ビルナウイルスの比較研究、ハワイ州立大学海洋生物学研究所およびオレゴン州立大学ハットフィールド海洋センター

金本自由生

- 1) 平成6年度～17年度、日本産ウミヒルモ類の研究、ウェスタンオーストラリア大学・電顕センター

6. 2 在外研究等**環境動態解析分野**

- 1) 兼田淳史：愛媛大学外国派遣研究員 平成17年10月～平成18年7月、Skidaway Institute of Oceanography、米国
- 2) 加（榎木）玲美：平成17年8月～平成17年8月末、カナダ

生態毒性解析分野

- 1) 上野 大介：学術振興会特別研究員、平成16年4月～平成17年9月、Environment Canada、カナダ
- 2) 渡辺 倫夫：21COE 研究者交流事業、平成18年2月～平成18年3月、Environment Canada、National Wildlife Research Centre、カナダ

6. 3 海外調査・国際学会等**環境動態解析分野**

郭 新宇

- 1) 平成17年5月8日～18日、渤海の海洋調査、中国東営市
- 2) 平成17年8月8日～21日、華東師範大学（上海市）と中国海洋大学（青島市）を訪問、東シナ海と渤海における生態系変動に関する研究打ち合わせ
- 3) 平成17年8月22日～26日、Dynamic Planet 2005で口頭発表、Cairns, Australia
- 4) 平成18年2月5日～8日、中国海洋大学（青島市）を訪問、渤海における生態系変動に関する研究打ち合わせ
- 5) 平成18年3月5日～8日、華東師範大学（上海市）を訪問、東シナ海における生態系変動に関する研究打ち合わせ

兼田 淳史

- 1) 平成17年11月22日、Skidaway Institute of Oceanography、seminar series での講演、Savannah, USA.

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成17年4月3日～平成17年4月9日, 学術交流協定の締結および International Workshop on Status of Pollution of Heavy Metals and Persistent Toxic Substances in India の開催および基調講演, Annamalai University, India.
- 2) 平成17年5月15日～平成17年5月19日, The 2nd China International Symposium on Persistent Toxic Substances で基調講演, Research Center for Eco-Environmental Sciences, Beijing, China.
- 3) 平成17年8月21日～平成17年8月26日, 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005) で基調講演, Toronto, Canada.
- 4) 平成17年8月21日～平成17年8月26日, Mr. James C. W. Lam の博士論文審査, City University of Hong Kong, Hong Kong.
- 5) 平成17年11月13日～平成17年11月14日, 26th SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Annual Meeting in North America で国際賞受賞記念講演, Baltimore, MD, USA.
- 6) 平成17年11月14日～平成17年11月17日, International Environmental Specimen Bank Symposium で講演, Charleston, SC, USA.
- 7) 平成17年12月11日～平成17年12月17日, チェンナイおよびカルカッタの環境汚染調査, Annamalai University, Chennai, India.
- 8) 平成18年1月18日～平成18年1月20日, 化学物質の内分泌搅乱作用等に関する日韓共同研究会議参加, Pusan, Korea.
- 9) 平成18年3月3日～平成18年3月8日, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科) による地下水のヒ素汚染調査, Hanoi National University, Hanoi, Vietnam.

Annamalai Subramanian

- 1) 平成17年4月3日～平成17年4月18日, 学術交流協定の締結および International Workshop on Status of Pollution of Heavy Metals and Persistent Toxic Substances in India の開催および基調講演, Annamalai University, India.
- 2) 平成17年5月15日～平成17年5月19日, The 2nd China International Symposium on Persistent Toxic Substances で講演, Research Center for Eco-Environmental Sciences, Beijing, China.
- 3) 平成17年6月21日～平成17年6月25日, The 8th Applied Biology Symposium 2005 で講演, Kuala Lumpur, Malaysia.
- 4) 平成17年12月11日～平成18年1月16日, チェンナイおよびカルカッタの環境汚染調査, Annamalai University, Chennai, India.

高橋 真

- 1) 平成17年8月21日～平成17年8月26日, 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005) で講演, Toronto, Canada
- 2) 平成17年12月11日～平成17年12月17日, チェンナイおよびカルカッタの環境汚染調査, Annamalai University, Chennai, India.

Tu Binh Minh

- 1) 平成18年3月3日～平成18年3月8日, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科) による地下水のヒ素汚染調査, Hanoi National University, Hanoi, Vietnam.

井上 英

- 1) 平成17年11月13日～平成17年11月13日, 26th SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Annual Meeting in North America で講演, Baltimore, MD, USA.

国末 達也

- 1) 平成17年11月14日～平成17年11月17日, International Environmental Specimen Bank Symposium で講演, Charleston, SC, USA.
- 2) 平成17年11月13日～平成17年11月17日, 26th SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Annual Meeting in North America で講演, Baltimore, MD, USA.

生態毒性解析分野

岩田 久人

- 1) 平成17年5月20日～平成17年6月7日, バイカルアザラシの化学汚染調査, The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center, ロシア.
- 2) 平成17年6月18日～平成17年6月24日, 13th PRIMO (International Symposium on Pollutants Responses in Marine Organisms) で講演, Alessandria, Italy.
- 3) 平成17年8月21日～平成17年8月26日, 25th International Symposium on Halogenated Environmental Organic Pollutants and POPs (Dioxin 2005) でセッションチェア, Toronto, Canada.
- 4) 平成17年11月14日～平成17年11月17日, International Environmental Specimen Bank Symposium で講演, Chaleston, SC, USA.
- 5) 平成17年12月12日～平成17年12月23日, 文部科学省人・自然・地球共生プロジェクト (RR2002) によるラオス, タイの環境汚染調査.

金 恩英

- 1) 平成17年6月18日～平成17年6月24日, 13th PRIMO (International Symposium on Pollutants Responses in Marine Organisms) で講演, Alessandria, Italy.

梶原 夏子

- 1) 平成17年11月14日～平成17年11月17日, International Environmental Specimen Bank Symposium で講演, Chaleston, SC, USA.

阿草 哲郎

- 1) 平成17年11月13日～平成17年11月17日, 26th SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Annual Meeting in North America で講演, Baltimore, MD, USA.
- 2) 平成17年12月12日～平成17年12月23日, 文部科学省人・自然・地球共生プロジェクト (RR2002) によるラオス, タイの環境汚染調査.
- 3) 平成18年3月3日～平成18年3月9日, 日本学術振興会拠点大学交流事業 (Environmental Science and Technology) (大阪大学大学院工学研究科) による地下水のヒ素汚染調査, Hanoi National University, Hanoi, Vietnam.

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成17年6月, 国際マリンバイオテクノロジー会議参加発表, セントジョンズ, カナダ.
- 2) 平成17年7月, RR プロジェクト, ホーチミン沿岸調査, ホーチミン, ヴィアンタオ他, ベトナム.
- 3) 平成17年12月, RR プロジェクト, ラオスおよびタイ北東部調査, ビエンチャン, コンケン他, ラオス, タイ.
- 4) 平成17年12月, RR 國際水資源管理シンポジウム, バンコク, タイ.
- 5) 平成17年3月, 共同研究交流, 麗水大学, 韓国.

上田 拓史

- 1) 平成17年12月, JSPS 二国間交流事業, プランクトン調査, 麗水大学, 韓国.

6. 4 外国人客員研究員等

生態環境計測分野

- 1) Ms. Ana Catarina Almeida Sousa, Aveiro University, Portugal, 平成17年9月27日～平成17年12月17日, 有害物質によるポルトガルの沿岸海洋汚染に関する共同研究

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) Santosh K. Dubey, 平成16年11月17日～平成17年9月16日, 有機スズ分解菌に関する研究

上田 拓史

- 1) Mohsen M. El-Sherbiny, 平成17年11月7日～平成18年2月2日, 紅海産カイアシ類の分類に関する研究

6. 5 海外からの訪問者

生態環境計測分野

- 1) Dr. Patterson Edward, Suganthi Devadason Marine Research Institute, 平成17年11月23日～平成17年11月25日, CMES 観察および情報収集
- 2) Dr. Jae Ryoung Oh, Korea Ocean Research & Development Institute/South Sea Institute, Korea, 平成18年1月8日～平成18年1月11日, CMES 観察および共同研究の打合せ
- 3) Dr. Kim Gi-Beum, Mr. Moon Hong Suk, Mr. Sung Chan-Gyoong, Ms. Park Bu-Kyong, Marine Environmental Engineering, Gyeongsang National University, Korea, 平成18年1月11日～平成18年1月13日, CMES 観察および共同研究の打合せ
- 4) Dr. kurunthachalam Kannan, New York State University at Albany, U. S. A., 平成18年2月22日～平成18年2月24日, 共同研究の打合せ

6. 6 指導研究員

生態環境計測分野

- 1) Mr. Sung-Ug We, The Commission for Clean Resources Business, Kyungnam University, Korea, 平成17年8月3日～平成17年8月12日, 有機臭素系難燃剤による韓国の沿岸海洋汚染に関する共同研究の打合せ
- 2) Ms. Nguyen Ngoc Ha, Nong Lam University, Hochiminh City, Vietnam, 平成17年10月2日～平成17年10月20日, 土壌中のヒ素測定技術に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科)
- 3) Ms. Nguyen Thi Hoang Ha, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成17年10月3日～平成17年10月14日, 海底堆積物の物性に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科)
- 4) Prof. Kandasamy Kathiresan, Centre for Advanced Study in Marine Biology, Annamalai University, India, 平成17年10月5日～平成17年10月9日, 第22回21世紀 COE 特別セミナー講演および共同研究の打合せ
- 5) Prof. Kevin C. Jones, Centre for Sustainable Chemical Management, Lancaster University, UK, 平成17年10月5日～平成17年10月9日, 第22回21世紀 COE 特別セミナー講演および共同研究の打合せ
- 6) Prof. Gan Zhang, State Key Laboratory of Organic Geochemistry, Guangzhou Institute of Geochemistry, China, 平成17年10月5日～平成17年10月9日, 第22回21世紀 COE 特別セミナー講演および共同研究の打合せ
- 7) Mr. Yu-Jin Cho, The Commission for Clean Resources Business, Kyungnam University, Korea, 平成17年11月23日～平成17年11月25日, 有機臭素系難燃剤による韓国の沿岸海洋汚染に関する共同研究の打合せ
- 8) Ms. Pham Thi Kim Trang, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年3月12日～平成18年3月26日, ヒト尿中のヒ素汚染に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科)
- 9) Ms. Vi Thi Mai Lan, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年3月12日～平成18年3月26日, ヒト尿中のヒ素汚染に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科)
- 10) Prof. Nguyen Van Mau, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年3月14日～平成18年3月17日, 有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究, 日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流(大阪大学大学院工学研究科)
- 11) Prof. Pham Hung Viet, Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam, 平成18年3月

14日～平成18年3月17日，有害物質によるベトナムの環境汚染に関する研究，日本学術振興会拠点大学方式による研究者交流（大阪大学大学院工学研究科）

6. 7 留学生

環境動態解析分野

- 1) 王強，大学院理工学研究科博士後期過程，私費，渤海における流動構造と生態系変動に関する研究，中国

生態環境計測分野

- 1) Agus Sudaryanto, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination by Persistent Organic Pollutants in Indonesian Environment (残留性有機汚染物質によるインドネシアの環境汚染), インドネシア (平成18年3月まで)
- 2) Nam Dong-Ha, 大学院連合農学研究科博士課程, 私費, Ecotoxicological Studies on the Metallothionein in Wild Birds (野生鳥類のメタロチオネインに関する環境毒性学的研究), 韓国 (平成18年3月まで)
- 3) Karri Ramu, 大学院連合農学研究科博士課程, 国費, Contamination of Persistent Organic Pollutants in Stranded Small Cetaceans from Hong Kong Coastal Waters (有機臭素系難燃剤によるアジア途上国の海洋汚染), インド
- 4) Lee Jin-Seon, 大学院農学研究科修士課程, 国費, Quantitative Analysis of Cormorant Arnt mRNA Expression and sequential Analysis of CYP1A4/5 Promoter Region (カワウのArnt mRNAの発現レベルの定量およびCYP1A4/5プロモーター部位の解析, 韓国 (平成17年9月まで)
- 5) Kwadwo Ansong Asante, 大学院農学研究科修士課程, 國際協力事業団, Accumulation Features and Geographical distribution of Trace Elements in Deep-Sea Organisms (深海生物の微量元素蓄積特性およびその蓄積特性), ガーナ (平成17年9月まで)
- 6) Oyuna Tsydenova, 大学院農学研究科修士課程, 世界銀行, Contamination Status and Accumulation Features of Organohalogen Compounds in the Human Breast Milk from Russia (ロシアのヒト母乳中における有機ハロゲン化合物の汚染とその蓄積特性), ロシア (平成18年3月まで)
- 7) Govindan Malarvannan, 研究留学生, 国費, POPs in Human Breast Milk from Philippines (残留性有機汚染物質および臭素系難燃剤によるフィリピンの母乳汚染), インド

生態毒性解析分野

- 1) Nam Dong-Ha, 大学院連合農学研究科博士課程, 私費, Ecotoxicological Studies on the Metallothionein in Wild Birds (野生鳥類のメタロチオネインに関する環境毒性学的研究), 韓国 (平成18年3月まで)
- 2) Lee Jin-Seon, 大学院農学研究科修士課程, 国費, Quantitative Analysis of Cormorant Arnt mRNA Expression and sequential Analysis of CYP1A4/5 Promoter Region (カワウのArnt mRNAの発現レベルの定量およびCYP1A4/5プロモーター部位の解析, 韓国 (平成17年9月まで)

生態系解析分野

- 1) Neela, Ashrafi, 理工学研究科博士課程, 私費, 沿岸環境由来細菌から他細菌への薬剤耐性遺伝子の水平伝播, バングラデシュ

7. 教育活動



7.1 所属学生および研究テーマ

環境動態解析分野

工学部 4回生

- 1) 石田 慎悟：瀬戸内海における外洋起源栄養塩供給量変動に伴う生態系の長期変動（その2）
- 2) 太田 宏：伊予灘に形成される底層冷水渦と動物プランクトン分布の関連性に関する研究
- 3) 大山 淳一：法華津湾におけるミズクラゲの鉛直分布に関する研究
- 4) 小池 将洋：瀬戸内海における外洋起源栄養塩供給量変動に伴う生態系の長期変動（その1）
- 5) 児玉 芙美：伊予灘における水塊形成に伴う栄養塩環境に関する研究
- 6) 菅原 康之：瀬戸内海における水位の短期変動に関する研究
- 4) 本田 耕平：バイオテレメトリー法を用いたミズクラゲの遊泳特性に関する研究

理工学研究科 博士前期課程 1回生

- 1) 大井 美沙：宇和海沿岸生態系における一次生産者の安定同位体比および基礎生産に関する研究
- 2) 棚内 康浩：伊予灘における低次生態系に関する研究
- 3) 南條 悠太：宇和海沿岸域におけるミズクラゲの集群形成メカニズムに関する研究
- 4) 三好 慶典：大阪湾における過去100年間の植物プランクトン群集の変遷に関する研究

理工学研究科 博士後期課程

- 1) 王 強：渤海における流動構造と生態系変動に関する研究
- 2) 菊池 隆展：離散的 ADCP データの解析手法の開発とその瀬戸内海への適用

生態環境計測分野

農学部 4回生

- 1) 田村 裕貴：有機ハロゲン化合物による深海生態系の汚染と安定同位体比を用いたその蓄積挙動の解析
- 2) 藤田 健吾：ダイオキシン類によるロシアバイカル湖周辺住者の母乳汚染

理学部 4回生

- 1) 門田 真典：in vitro PXR-レポーター遺伝子アッセイを用いた哺乳類の化学物質リスク評価
- 2) 村田 仁子：ラッコにおける有機スズ化合物の蓄積特性
- 3) 安木 達也：北海で大量死したゼニガタアザラシの微量元素蓄積特性

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) 明石 百恵：サメ類における微量元素および有機金属化合物の蓄積特性
- 2) 越智 陽子：鰓脚類における有機ハロゲン化合物の蓄積特性
- 3) Govindan Malarvannan：POPs および臭素系難燃剤によるフィリピンの母乳汚染
- 4) 松平 知帆：スナメリにおける有機スズ化合物および有機ハロゲン化合物の蓄積特性
- 5) 矢野 真一：ハウスマストを対象とした有機スズ化合物のモニタリング研究

2回生

- 1) 高柳 望：日本在住者の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性
- 2) 野田創太郎：アジア途上国における PBDEs 汚染

理工学研究科 博士後期課程

1回生

- 1) 宇高 真行：低レベル放射能測定技術の開発とバイカルアザラシにおける放射性核種の蓄積に関する研究
- 2) 今枝 大輔：バイカルアザラシにおけるダイオキシン類の蓄積特性と汚染の経年変化

2回生

- 1) 米田久美子：日本の野生動物における化学物質蓄積動態に関する研究

3回生

- 1) 上田 浩三：残留性有機汚染物質(POPs)および類縁化合物を含有する廃棄物・土壌等の処理に関する研究
- 2) 安井 知子：鳥類AhR1・AhR2発現の分子機構の解明およびダイオキシン類との相互作用の解析

連合農学研究科 博士課程

2回生

- 1) 二宮 久：大気エアロゾル中の無機化学成分および多環芳香族炭化水素類(PAHs)の分布と変動特性に関する研究

3回生

- 1) Karri Ramu：魚介類等の指標生物を用いたアジア－太平洋地域におけるPOPsおよび臭素系難燃剤の広域分布と挙動に関する研究
- 2) 酒井 大樹：in vitro CAR－レポーター遺伝子アッセイを用いた哺乳類の化学物質リスク評価

生態毒性解析分野

農学部 4回生

- 1) 井上奈緒美：カラスAHR1・AHR2とダイオキシン類の相互作用の解析
- 2) 松本 亨昌：マダイAhR1・AhR2とダイオキシン類との相互作用の解析 / マダイ胚におけるTCDD暴露の遺伝子発現プロファイルへの影響

農学研究科 修士課程

1回生

- 1) 岸崎 理紗：in vitro レポーター遺伝子アッセイを用いたカワウCXRスプライスバリエントの機能解析

2回生

- 1) 須田 智子：in vitro レポーター遺伝子アッセイを用いたバイカルアザラシAhRの機能解析
- 2) 竹下 陽子：バイカルアザラシ肝臓のエストロゲン代謝能の解析

連合農学研究科 博士課程

1回生

- 1) Lee Jin-Seon：in vitro レポーター遺伝子アッセイ系を用いた鳥類のCYP1Aプロモーターの機能解析 / in vitro AhR1/2レポーター遺伝子アッセイを用いたカワウAhRアイソフォームの機能解析
- 2) 平川 周作：バイカルアザラシのCYP1A1/2プロモーターの塩基配列解析 / バイカルアザラシのオリゴアレイを用いた化学物質暴露に反応する遺伝子の探索

生態系解析分野

理学部4回生

- 1) 長浜 惟真：インドシナ半島の淡水養殖場で分離された薬剤耐性菌から異種細菌への耐性能の伝達
- 2) 浜内 美幸：有機スズ耐性菌*Pseudomonas aeruginosa* 25Wから得られた耐性遺伝子の解析
- 3) 王 婉琳：瀬戸内海におけるナメクジウオの生態学的研究
- 4) 大西 寛二：水深及び生息場所別によるカサゴ類の個体変異
- 5) 桑名七奈子：魚類の鱗紋に関する研究
- 6) 中村 文彦：瀬戸内海産ベラ類の比較生態学的研究
- 7) 前田 洋：メバル3タイプの生態学的研究
- 8) 丸山 恵理：伊予灘産仔稚魚の層別分布

7. 教育活動

理工学研究科博士前期課程

2回生

- 1) 戸田安衣子：愛媛県沿岸の仔魚数種のカイアシ類ノープリウス種に対する摂餌選択性

1回生

- 1) 上岡なほみ：細菌由来タンパク質の海水中での溶存態への変遷過程

理工学研究科博士後期課程

3回生

- 1) 稲葉 愛美：海洋環境および宿主中におけるマリンビルナウイルスの動態

2回生

- 1) Farzana A. Neela：沿岸海洋環境由来細菌における薬剤耐性遺伝子の保有状況およびその伝播

農学研究科修士課程

2回生

- 1) 山本 雅之：逆浸透膜上に形成されるバイオフィルム中の微生物生態学

- 2) 伊知 地稔：ナメクジウオ棲息環境での窒素代謝

- 3) 浜岡 一弘：沿岸海水中の溶存態タンパク質の網羅的解析

1回生

- 1) 大嶺 杏奈：インドシナの養殖場における薬剤耐性菌の種多様性

環境影響評価予測分野

理学部 4回生

- 1) 芦田 貴史：音波探査記録からみた琵琶湖の湖水面変動

- 2) 中原 知明：四万十川河口域の塩水楔とその時系列形状変化

- 3) 深井 照平：宍道湖西岸斐伊川河口域の堆積環境変遷史

- 4) 吉原 裕紀：愛媛県松山市沖の砂堆“大州”の砂浪移動様式

- 5) 渡部 遼：琵琶湖湖底表層堆積物の物性と気象観測結果との対応

- 6) 新川 和幸：水中ビデオカメラを用いた浅海砂堆群の表層堆積相観察

理工学研究科 博士前期課程

- 1) 碇 雄太：古第三紀海溝域に生息する底生群集の古生態学的研究

- 2) 清家 弘治：現世波浪卓越型砂浜海岸における堆積相の研究

- 3) 秋山 紘胤：現世潮汐卓越型海浜の生痕ファブリック解析

理工学研究科 博士後期課程

3回生

- 1) 天野 敦子：宇和海御荘湾における堆積物分布と環境変遷史

- 2) 井上 卓彦：日野川－皆生海岸－美保湾における碎屑物の移動と堆積

4回生

- 1) 岩本 直哉：琵琶湖湖底堆積物の物性変化に基づく地球規模環境変遷史

- 2) 塩屋 藤彦：音波探査記録による重信川河口部の地史

7. 2 卒業論文・修士論文・博士論文 題目

環境動態解析分野

卒業論文

- 1) 大井 美沙：安定同位体解析による宇和海の基礎生産構造とアコヤガイの餌資源に関する研究

- 2) 岡本 裕：東シナ海における栄養塩の長期変動に関する研究

- 3) 高橋 翔：別府湾海底堆積物記録に基づく魚類資源変動の復元に関する研究
- 4) 棚内 康浩：伊予灘における生物環境の季節変動に関する研究
- 5) 重本 祐一：瀬戸内海における水位変動の特徴に関する研究
- 6) 南條 悠太：法華津湾におけるミズクラゲの集群形成と環境変動との関係に関する研究
- 7) 三好 慶典：大阪湾における過去100年間の植物プランクトン群集の変遷に関する研究
- 8) 山口 弥生：豊後水道における過去100年間の珪藻生産量の長期変動に関する研究

修士論文

- 1) 長野 慎也：宇和海におけるミズクラゲの食性と生態的地位に関する研究

博士論文

- 1) 黒田 寛：Variation of Hydrographic Structure from Winter to Early Summer in the Confluence Zone of the Oyashio and Tsugaru Warm Currents (日本語論文名：親潮と津軽暖流の会合域における冬季～初夏の海洋構造の変動)

生態環境計測分野**卒業論文**

- 1) 明石 百恵：愛媛県沿岸で採取したサメ類の微量元素蓄積特性
- 2) 越智 陽子：北海で大量死したゼニガタアザラシにおける鰓脚類におけるポリ臭素化ジフェニールエーテル(PBDEs) の汚染実態とその蓄積特性
- 3) 矢野 真一：有機スズ化合物の一斉分析法の開発とハウスダストを対象としたモニタリング研究

修士論文

- 1) 池田翔太朗：頭足類における微量元素蓄積と金属結合タンパク質の特徴
- 2) 大嶽 昌子：インド在住者における残留性有機汚染物質(POPs) の暴露とその蓄積特性
- 3) 上川 智子：日本近海に生息する鯨類の有機ハロゲン化合物汚染とその蓄積特性
- 4) 高木 梢：ウミガメ類におけるヒ素の蓄積および代謝特性
- 5) 戸根木智幸：北海のゼニガタアザラシにおける残留性有機汚染物質の蓄積特性
- 6) 古川暁子：スナメリにおける微量元素の蓄積特性と生物・生態学的関連要因の解析
- 7) 望月裕子：深海生態系における有機スズ化合物の汚染と安定同位体比を用いた生物濃縮特性の解明
- 8) Oyuna Tsydenova : Contamination by Organohalogen Compounds in Humans and Baikal Seals from Lake Baikal Region, Russia
- 9) Lee Jin-Seon : cDNA Cloning and Tissue Distribution of Aryl Hydrocarbon Receptor Nuclear Translocator 1 (ARNT 1) and 2 (ARNT 2) in Common Cormorant
- 10) Kwado Ansong Asante : Distribution of Trace Elements in the Environment - Case Studies in the east China Sea and Ghana -

博士論文

- 1) 久保田 彰：Cytochrome P4501A in Wild Avian Species: Toxicological Implications Associated with Dioxin and Related Compounds (野生鳥類におけるチトクローム P4501A - ダイオキシン類の蓄積に関連した毒性額的解析 -)
- 2) Dong-Ha Nam : Metal Accumulation and Characterization of Metallothionein in Aquatic Birds (水棲鳥類の重金属蓄積とメタロチオネインの特性)
- 3) 新美 聰子：ミンクキジラ肝チトクローム P450の分子的特徴および発現と有機塩素化合物蓄積に関する環境毒性学的研究
- 4) Agus Sudaryanto : Contamination by Persistent Toxic Substances (PTS) in the Environment of Indonesia (難分解性有害化学物質(PTS)によるインドネシアの環境汚染)
- 5) 山内 正信：Molecular Mechanism of Dioxin Toxicity Mediated by Aryl Hydrocarbon Receptor in Developing Red Seabream (*Pagrus major*) Embryo (マダイ初期発生における Aryl Hydrocarbon Receptor を介したダイオキシン毒性の分子機構に関する研究)

7. 教育活動

- 6) 渡辺 倫夫 : Contamination by Dioxin-like Congeners and their Effects on Hepatic Cytochrome P450 in Wild Terrestrial Animals (野生の陸棲動物におけるダイオキシン類汚染と肝チトクローム P450への影響)

生態毒性解析分野

卒業論文

- 1) 岸崎 理紗 : In vitro レポーター遺伝子アッセイ系を用いたカワウ CXR の機能解析

修士論文

- 1) 井元 麻衣 : オリゴアレイを用いたミンククジラ肝臓中遺伝子発現プロファイルの解析—環境汚染物質による潜在的リスクの評価—
2) 岡本 未央 : 陸棲生物におけるダイオキシン類および有機塩素化合物汚染と肝チトクローム P450への影響
3) 武田 智美 : ハシブトガラス AHR アイソフォームの cDNA クローニングと mRNA 発現量解析
4) 平川 周作 : バイカルアザラシにおける異物代謝酵素 CYP1A1/1A2 の分子特性およびダイオキシン類蓄積による誘導

生態系解析分野

卒業論文

- 1) 上岡なほみ : 海水中での緑膿菌由来タンパク質の残存・分解特性
2) 野田 舞 : 高水温域における沿岸生物からのマリンビルナウイルスの検出の試み
3) 井上亜希子 : インドネシア産キクロプス目カイアシ類 *Apocyclops* の分類学的記載
4) 坂口 穂子 : 四万十川河口汽水域におけるカイアシ類の分布と季節変化
5) 佐藤 彰勇 : 足摺岬周辺の動物プランクトン?とくにカイアシ類の分布と季節変化?
6) 杉浦 義治 : 筑後川感潮域の汽水性カイアシ類の飼育実験?高濁度水中での産卵と生残
7) 日下 慶裕 : 伊予長浜沖 海砂採取海域におけるベントス
8) 松田 悟 : 中島・大串海岸海草藻場におけるコアマモの生態
9) 山本 時也 : マハタ飼育飼料における最適タンパク質および脂肪含量の検討
10) 多胡 良介 : 養殖場底泥中のオキシテトラサイクリン (OTC) 耐性遺伝子 tet (M) および OTC の定量

修士論文

- 1) 末広富士代 : Tributyltin (TBT) degradation and resistance in microbial community inn Mekong River sediment.
2) 渡嘉敷 努 : Cloning of tributyltin (TBT) resistance gene from TBT resistant bacterium *Pseudomonas aeruginosa* USS25W.
3) 伊部 春香 : 日本産沿岸性カイアシ類 *Paracalanus parvus* s. l. の分類形質の再検討
4) 桑谷 恵 : 筑後川の感潮域における汽水性カイアシ類2種の定位機構
5) 坂木佳菜子 : 瀬戸内海産ナメクジウオの生態学的研究—分布、成長、経年変動および生物攪拌について—
6) 宮本 博幸 : カサゴ類仔魚の食性 : とくにカイアシ類 *Calanus sinicus* ノープリウスと卵に対する摂餌選択性
7) 門出 倫子 : 有明海における動物プランクトンの分布に関する研究

環境影響評価予測分野

卒業論文

- 1) 芦田 貴史 : 音波探査記録からみた琵琶湖の湖水面変動
2) 中原 知明 : 四万十川河口域の塩水楔とその時系列形状変化
3) 深井 照平 : 宍道湖西岸斐伊川河口域の堆積環境変遷史
4) 吉原 裕紀 : 愛媛県松山市沖の砂堆“大州”の砂浪移動様式
5) 渡部 遼 : 琵琶湖湖底表層堆積物の物性と気象観測結果との対応
6) 青木 茂 : 石手川における表流水と伏流水の交流による自浄作用の研究
7) 大西 美幸 : 愛媛県北条冲砂堆上における植物プランクトンの光合成特性と一次生産
8) 福島 明子 : 宇和海法華津湾におけるミズクラゲの生活史
9) 高橋 俊丞 : 北条沿岸海域における一次生産者の分布と砂堆の物理環境との関連性
10) 新川 和幸 : 水中ビデオカメラを用いた浅海砂堆群の表層堆積相観察 : 愛媛県松山市沖の事例研究

修士論文

- 1) 岡田 康平：重信川流域の水生昆虫群集の C/N 安定同位体比による解析
- 2) 清家 弘治：現世波浪卓越型砂浜海岸における堆積相の研究：特に生物源堆積構造に注目して

博士論文

- 1) 井上 卓彦：日野川－皆生海岸－美保湾における碎屑物の移動と堆積－総合土砂管理のための地質学からの貢献－

7. 3 講義・集中講義**環境動態解析分野****講 義**

武岡 英隆

- 1) 平成17年度前期, 環境学概論, 愛媛大学工学部
- 2) 平成17年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成17年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 4) 平成17年度前期, 地球科学, 愛媛大学工学部
- 5) 平成17年度前期, 地球を考える, 海と地球環境, 愛媛大学共通教育
- 6) 平成17年度前期, 現代社会の諸問題, 中国四国地方から環境問題を考える, 愛媛大学共通教育 (SCS による中四国大学参加の集中講義)
- 7) 平成17年度後期, 環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成17年度後期, 地球を考える, 先端科学で学ぶ地球と生命, 愛媛大学共通教育
- 9) 平成17年度後期, 海洋環境学, 愛媛大学工学部
- 10) 平成17年度後期, 沿岸海洋学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成17年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成17年度前期, 海洋環境論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成17年度前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成17年度前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成17年度前期, 数理解析学, 愛媛大学工学部
- 4) 平成17年度前期, 海洋物理学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 5) 平成17年度後期, 海洋物理学, 愛媛大学工学部
- 6) 平成17年度前後期, 環境建設工学特別実験, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

兼田 淳史

- 1) 平成17年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学工学部
- 2) 平成17年前期, 環境建設工学特別演習, 愛媛大学工学部
- 3) 平成17年前期, 水理学および同演習, 愛媛大学工学部

集中講義

兼田 淳史

- 1) 平成17年前期, 生物資源科学実習, 愛媛大学農学部

生態環境計測分野**講 義**

田辺 信介

- 1) 平成17年度前期, 地球を考える, 愛媛大学共通教育

7. 教育活動

- 2) 平成17年度前期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 3) 平成17年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成17年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 5) 平成17年度前期, 海洋環境学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成17年度後期, 環境化学, 愛媛大学農学部
- 7) 平成17年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 8) 平成17年度前期, 「社会医学 I」特別講義, 愛媛大学医学部
- 9) 平成17年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 10) 平成17年度前期, Environmental Toxicology and Chemistry, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 11) 平成17年度前期, Advanced Lab Work IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 12) 平成17年度前期, Advanced Practicum IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 13) 平成17年度前期, Advanced Seminar IV, 愛媛大学大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 14) 平成17年度前期, 有害物質動態論, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成17年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成17年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 17) 平成17年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 18) 平成17年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 19) 平成17年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 20) 平成17年度前期, 有害物質汚染論, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

高橋　真

- 1) 平成17年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成17年度後期, 環境学概論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース

集中講義

田辺　信介

- 1) 平成17年度後期, 生物機能学特論 I, 広島大学生物生産学部
- 2) 平成17年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

生態毒性解析分野

講　義

岩田　久人

- 1) 平成17年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成17年度後期, 環境学通論, 愛媛大学理学部
- 3) 平成17年度後期, 環境学通論, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成17年度前後期, 生態化学実験, 愛媛大学農学部
- 5) 平成17年度後期, 化学, 愛媛大学農学部
- 6) 平成17年度後期, 環境化学実験, 愛媛大学農学部
- 7) 平成17年度前期, 環境毒性学, 愛媛大学農学部
- 8) 平成17年度前後期, 環境保全セミナー, 愛媛大学農学部
- 9) 平成17年度前期・後期, 卒業論文, 愛媛大学農学部
- 10) 平成17年度前期, 環境科学セミナー I, 愛媛大学スーパーサイエンス特別コース
- 11) 平成17年度前期, 環境分子毒性学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 12) 平成17年度前期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 13) 平成17年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科

- 14) 平成17年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 15) 平成17年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 16) 平成17年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科

生態系解析分野

講 義

鈴木 聰

- 1) 平成17年度後期, 地球と環境, 愛媛大学共通教育
- 2) 平成17年度前期, 海洋分子生態学, 愛媛大学理学部
- 3) 平成17年度前期, 環境生化学, 愛媛大学農学部
- 4) 平成17年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部
- 5) 平成17年度後期, 環境分子生物学, 愛媛大学大学院農学研究科
- 6) 平成17年度後期, 環境分子微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 7) 平成17年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナール I, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成17年度前後期, 生物地球圏科学ゼミナール II, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成17年度前後期, 生物環境保全学研究, 愛媛大学大学院農学研究科
- 10) 平成17年度前後期, 生物環境保全学演習 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 11) 平成17年度前後期, 生物環境保全学演習 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 12) 平成17年度前後期, 生物環境保全学実験 I, 愛媛大学大学院農学研究科
- 13) 平成17年度前後期, 生物環境保全学実験 II, 愛媛大学大学院農学研究科
- 14) 平成17年度後期, 海洋微生物学, 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程

上田 拓史

- 1) 平成17年前期, 海洋生物学, 愛媛大学理学部
- 2) 平成17年後期, 地球生命科学 I, 愛媛大学理学部
- 3) 平成17年前期, 浮遊生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士前期課程
- 4) 平成17年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 5) 平成17年前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部
- 6) 平成17年後期, 課題研究, 愛媛大学理学部
- 7) 平成17年後期, 水塊指標生物学, 愛媛大学理工学研究科大学院博士後期課程
- 8) 平成17年前・後期, 生物地球圏科学特別演習, 愛媛大学理学部

金本自由生

- 1) 平成17年前期, 海洋生物学実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成17年前期, 公開臨海実習, 愛媛大学理学部

野中 里佐

- 1) 平成17年度前期, 分子生態学実験, 愛媛大学農学部

環境影響評価予測分野

講 義

井内 美郎

- 1) 平成17年前期, 基礎セミナー, 愛媛大学 SSC 特別コース
- 2) 平成17年後期, 環境学通論, 愛媛大学 SSC 特別コース
- 3) 平成17年後期, 環境科学セミナー, 愛媛大学 SSC 特別コース
- 4) 平成17年後期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 5) 平成17年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 6) 平成17年後期, 地球科学 II, 愛媛大学共通教育
- 7) 平成17年後期, 地球環境学, 愛媛大学理学部

7. 教育活動

- 8) 平成17年後期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部
- 9) 平成17年前期, 地域・地球環境論, 愛媛大学理工学研究科
- 10) 平成17年後期, 地域地球環境学, 愛媛大学理工学研究科

大森 浩二

- 1) 平成17年前期, 博物館実習 (事前指導)
- 2) 平成17年後期, 博物館実習 (事後指導)
- 3) 平成17年後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部
- 4) 平成17年前期, 基礎英語, 愛媛大学理学部

奈良 正和

- 1) 平成17年前期, 地球科学野外実習, 愛媛大学理学部
- 2) 平成17年前期, 地質調査法実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成17年前期, 地球環境学機器分析実習, 愛媛大学理学部
- 5) 平成17年前期, 地質野外研究, 愛媛大学理学部
- 6) 平成17年度後期, 地球環境学特論, 愛媛大学理学部
- 7) 平成17年度通期, 地球科学演習, 愛媛大学理学部

集中講義

奈良 正和

- 1) 平成17年前期, 堆積学 C, 高知大学理学部
- 2) 平成17年前期, 生物資源科学実習, 愛媛大学農学部

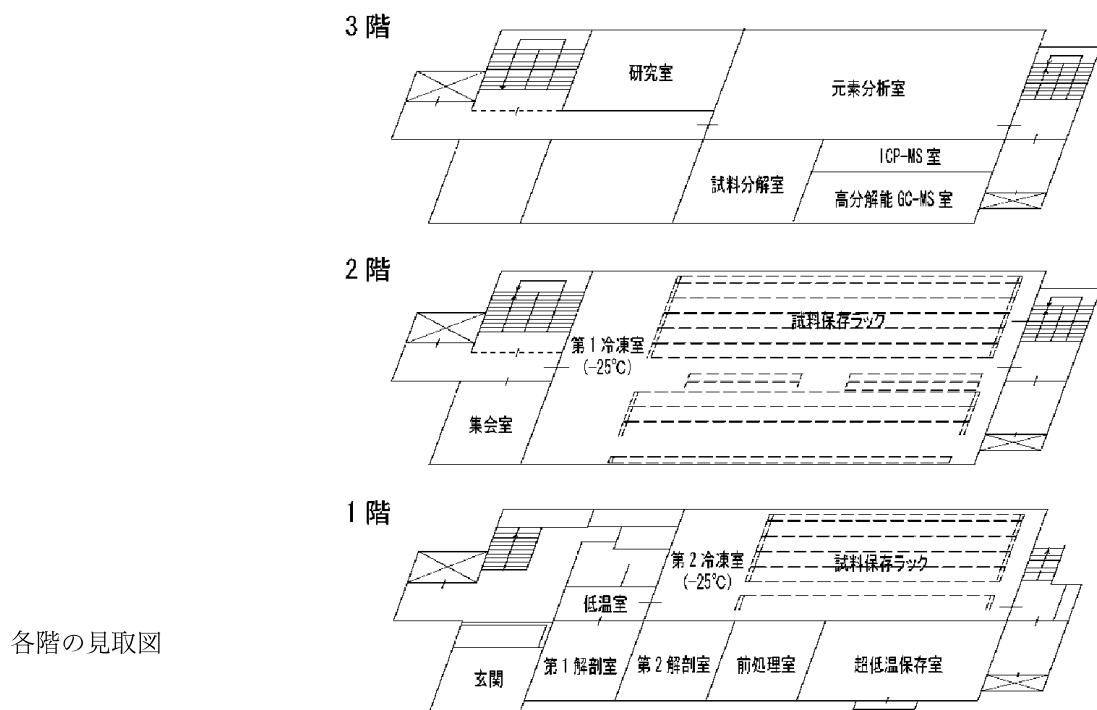
8. 施設



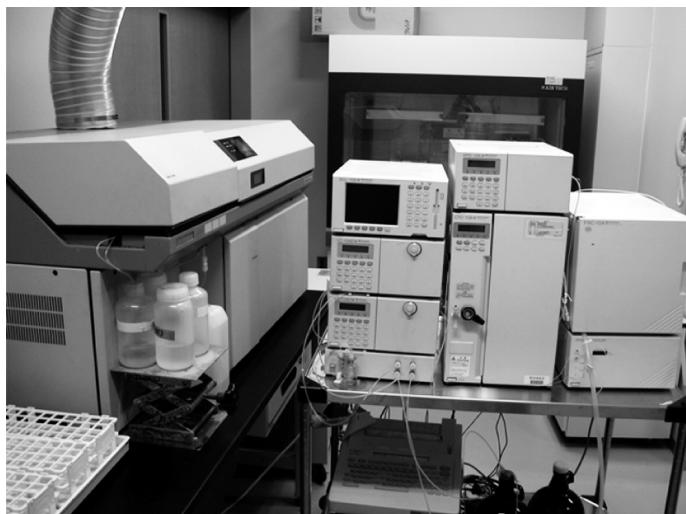
平成17年11月に生物環境試料バンク（es-BANK）棟が竣工した。es-BANKは、CMESの所有する野生生物や土壤などの環境試料を体系的に保存管理するとともに、今後も試料収集を推進してCMESのみならず学内外の研究にも提供するための施設である。es-BANK棟の主要部分は、 -25°C の冷凍室で、2階の第1冷凍室（216m³）と1階の第2冷凍室（98m³）に分かれている。さらに、1階には3基の液体窒素タンクを備えた超低温保存室と2つの解剖室、3階には元素分析室やICP-MS室、高分解GC-MS室等があり、保存試料の分析を効率的に行うことができる。



es-BANK 棟



8. 施設



ICP-MS



解剖室



高分解能 GC-MS



試料保存ラック



液体窒素タンク

9. 設 備

(2005年度に導入された主なもの)

生態環境計測分野



- 1) ハイボリュームエアサンプラー：大気中の粒子態およびガス態の有害物質を捕集するための装置

生態毒性解析分野



- 1) 遊星型ボールミル：生体試料を微細に粉碎する装置

10. 広 報 ●

10. 1 CMESニュース

CMESニュース No. 12

目 次

- 田辺教授が、日本環境科学会学術賞を受賞
- 中国、南京大学が客員教授の称号を田辺教授に授与
- 瀬戸内海研究フォーラムポスター発表優秀賞受賞
- 日本地質学会およびOCEANS'04優秀講演賞受賞
- International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology, Best Poster賞受賞
- 日本環境毒性学会奨励賞受賞
- 生態毒性解析分野 新任教授あいさつ
- es-BANK および連携融合プロジェクト概算要求採択
- ウインターサイエンスキャンプ開催報告
- RR2002プロジェクト、カンボジア調査行
- 「メコン水系の水資源管理システムの開発に関するシンポジウム」報告
- インド調査報告
- 博士後期課程（社会特別選抜）入学者自己紹介
- オレゴン州立大学 HMSC 訪問記
- DIOXIN 2004参加報告
- PICES 参加報告
- レッドデータブック準絶滅危惧種の海草：リュウキュウアマモの種子発見
- 編集後記

21世紀 COE ニュース No. 6

目 次

- COE 中間成果報告書
- インドのアンナマライ大学海洋生物学研究所と学術交流協定を締結 21世紀COEワークショップを現地で開催
- 「若手の会」開催報告
- インドネシアで沿岸環境と養殖に関する国際ワークショップを開催
- 第19回21世紀 COE セミナー報告
- 第20回21世紀 COE セミナー報告
- 第21回21世紀 COE セミナー報告
- COE 研究員自己紹介 (1)
- COE 研究員自己紹介 (2)
- ASLO 2005 Summer Meeting 参加報告
- ロシア・バイカル湖アザラシ調査報告
- 羅臼町シャチ調査報告
- 編集後記

CMES ニュース No. 13

目 次

- 田辺信介教授が SETAC Founders Award を受賞
- 田辺教授の環境毒性化学会（SETAC）国際賞受賞記念式典開催
- 生物環境試料バンク（es-BANK）棟が完成
- 国際環境試料バンクシンポジウム参加報告
- CMES 機関研究員 張光弦氏の論文が、most downloaded article に！
- 先進的科学技術体験合宿！研究者に会える2泊3日－ウインターサイエンスキャンプを当センターにて開催－
- RR2002プロジェクト ラオス・タイ調査報告
- インド西ベンガル州（カルカッタ地域）における調査報告
- 第二回メコン水系の水資源マネージメントシステム開発に関する国際シンポジウム報告－
- 新聞記事より 「耐性菌」海や川にも一同じ遺伝子を持つ細菌確認
- CMES 機関研究員自己紹介
- インターナン研修生自己紹介
- 外国人特別研究員自己紹介
- 編集後記

21世紀 COE ニュース No. 7

目 次

- 環境毒性学会奨励賞受賞
- 第22回21世紀 COE セミナー報告
- 第23回21世紀 COE セミナー報告
- 第24回21世紀 COE セミナー報告
- 第25回21世紀 COE セミナー報告
- 第26回21世紀 COE セミナー報告
- 第27回21世紀 COE セミナー報告
- 地球温暖化防止フォーラム報告
- SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) 26th Annual Meeting in North America 参加報告
- 25th International Symposium on Halogenated Environmental – Organic Pollutants and POPs (DIOXIN 2005) 参加報告－
- COE 研究員自己紹介 (1)
- COE 研究員自己紹介 (2)
- COE 研究員自己紹介 (3)
- COE 研究員自己紹介 (4)
- COE 研究員自己紹介 (5)
- IUMS2005参加報告
- 淡青丸調査航海報告
- COE 若手研究成果報告会および CMES 年次報告会、合同発表会のご案内
- COE 若手の会活動報告
- 編集後記

10. 2 報道関係

環境動態解析分野

武岡 英隆

- 1) 平成17年8月23日、クラゲ大量発生－水産資源減少招く、毎日新聞
- 2) 平成18年1月20日、窒素・リン外洋から？－陸の流入規制、赤潮は減らず、朝日新聞

兼田 淳史

- 1) 平成17年12月25日, Visiting Scientist joins Skidaway Institute, Savannah Morning News.

生態環境計測分野

田辺 信介

- 1) 平成17年4月15日午後7時30分～放映, アジアに広がる地下水汚染～動き出した愛媛大学の国際貢献～, 四国 羅針盤「安全な水はどこに」, NHK
- 2) 平成17年5月28日, 解説 編集委員が読む「北極圏の有害物質 汚染防止に戦略なき日本」, 読売新聞
- 3) 平成17年6月6日, 低濃度 PCB 焼却へ 誠意ある対応を, 朝日新聞
- 4) June 4, 2005, How toxins travel the seas, Scientists identify key vectors of toxicity in marine mammals, The Daily Yomiuri
- 5) 平成17年7月1日, 愛媛大が着工 収集数世界一 生物標本10万点バンク化 環境汚染研究の拠点に, 読売新聞
- 6) 平成17年8月13日, イルカ, クジラの目撃情報を, 八重山毎日新聞
- 7) 平成17年8月21日, 愛媛大などが9カ国調査 難燃剤汚染深刻アジアにも拡大 母乳・貝に高濃度蓄積, 愛媛新聞
- 8) 平成17年10月1日, 世界が注目 ! 海洋汚染による野生生物への影響を研究 愛媛大学理学部生物学科田辺研究室, My Vision 別冊, エリア別大学 MAP 中国・四国版～中国・四国の大学の本～
- 9) 平成17年10月2日, 地球号は今 有害物質, 地球規模で汚染, 日本経済新聞
- 10) 平成17年10月7日, 環境試料バンク開設へ 愛媛大10万点収集, 朝日新聞
- 11) 平成17年10月26日, 愛媛大・田辺教授 SETAC 賞受賞, 毎日新聞
- 12) 平成17年10月27日, 愛媛大・田辺教授 SETAC 賞受賞 アジアで初受賞, 愛媛新聞
- 13) 平成17年12月4日, 環境汚染研究の歩み 愛媛大・田辺教授あす講演, 愛媛新聞
- 14) 平成17年12月6日, 田辺愛媛大教授が会見 國際賞受賞記念し「研究者多く育てたい」, 毎日新聞
- 15) 平成17年12月13日, この人 環境汚染物質の研究で國際賞を受けた愛媛大教授田辺信介さん, 東京新聞
- 16) 平成18年2月24日, 羅臼シャチ座礁から1年 知床の自然に警告 全個体に有害物質, 北海道新聞

生態系解析分野

鈴木 聰

- 1) 平成17年8月17日 「逆浸透で海水を淡水化, 膜の劣化防ぐ研究も」, 朝日新聞 (愛媛版)
- 2) 平成17年10月12日 「薬剤耐性菌非汚染地にも存在」, 愛媛新聞
- 3) 平成17年12月25日 「抗生物質に強く治療が困難, 耐性菌海や川にも」, 朝日新聞 (京阪神・西日本版)
- 4) 平成18年1月23日 「外洋に抗生物質効かない細菌」, 日本経済新聞

上田 拓史

- 1) 平成17年5月, 「海を守る人々 その55. 海水浄化に期待されるナメクジウオ 絶滅危急種が住める環境の回復と保全」, ポート俱楽部, 舶社, 東京, 2005年5月号, 109-113.

金本自由生

- 1) 平成17年5月28日, 泥の中にナメクジウオ, 愛媛新聞
- 2) 平成17年6月5日, ナメクジウオ8匹発見, 朝日新聞

環境影響評価予測分野

井内 美郎

- 1) 平成18年3月27日,瀬戸内海海砂採取に終止符, 中国新聞
- 2) 平成18年3月28日, 終わる採取 瀬戸内海の海砂 海底の変化解明不十分, 中国新聞
- 3) 平成18年3月30日, 再生へ 先進地では藻場回復, 愛媛新聞

大森 浩二

- 1) 平成17年5月15日, 外来魚規制, NHK

奈良 正和

- 1) 平成17年8月13日, 札幌市大型動物化石総合調査-現地発掘調査会, NHK 札幌放送局
- 2) 平成18年2月6日, アナジャコの仲間か, 岡山・奈義で発掘1600万年前の巣穴化石, 山陽新聞

10. 3 講座, 講演会等

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆: 海と地球環境—地球科学への招待, 出張講義, 出雲高校, 9月12日.
- 2) 武岡 英隆: 濑戸内海における環境問題の歴史的変遷, 四国ロースクールリーガル情報ネットワークセミナー「理論と実務の架橋を目指して」, 2月23日.

生態環境計測分野

- 1) 田辺 信介: 環境ホルモンによる地球規模の海洋汚染, 環境ホルモン講演会—市民のための分かり易い講演会—, 那覇市, 2月, 資料集, 77-87.
- 2) 田辺 信介: 地球を巡る環境ホルモン—ヒトおよび野生生物の汚染と影響—, 愛知県保険医協会公害環境問題講演会, 名古屋市, 2月, 資料集23-38.
- 3) 田辺 信介: 内分泌攪乱物質による地球規模の汚染と影響, 医療法人天神会新古賀病院講演会, 久留米市, 6月.
- 4) 田辺 信介: 環境ホルモンについて, 明治学園高校講演会, 北九州市, 7月.
- 5) 田辺 信介: 有害物質による地球規模の生態系汚染, 新居浜工業高等専門学校第6回科学技術特別シンポジウム「世界をリードする日本の科学技術」, 新居浜市, 7月, プログラム要旨集, 9-16.
- 6) 田辺 信介: 環境ホルモンと野生生物, 平成17年度愛媛県教育委員会県立学校10年教職経験者研修講座, 松山市, 8月.
- 7) 田辺 信介: 地球を巡る環境ホルモン—ヒトおよび野生生物の汚染と影響—, 平成17年度岡山県教育センター高等学校理科研修講座(生物), 岡山市, 8月.

生態系解析分野

- 1) 上田 拓史: Ariake Bay, a productive muddy bay. 韓国麗水国立大学海洋システム学部セミナー, 12月.
- 2) 金本自由生: 泡瀬の海草藻場と海草移植の現状, 泡瀬干潟を守るシンポジウム, 沖縄市産業交流センター, 7月20日.
- 3) 野中 里佐: 微生物ってどんな生きもの? どこにいるの? 公開シンポジウム, 地球環境のミクロの世界, 日本微生物生態学会教育研究部会, 福井県立大学, 9月.
- 4) 野中 里佐: 微生物は敵? それとも味方? 青少年のための公開シンポジウム, 第21回日本微生物生態学会, 福岡市, 10月30日.

環境影響評価予測分野

- 1) 大森 浩二: 愛媛県総合博物館平成17年度セミナー
- 2) 大森 浩二: 丹原町図書館カブトガニセミナー
- 3) 奈良 正和: 生痕化石ってどんなものー生痕化石からわかること. 札幌市アイヌ文化交流センター, 札幌市博物館活動センター主催, 平成17年8月13日.
- 4) 奈良 正和: 足跡からわかる大昔の生物の生態や環境, 京都大学総合博物館, 平成17年11月26日.
- 5) 奈良 正和: にぎやかな海底の生き物たち, 札幌市West19, 札幌市博物館活動センター主催, 平成18年3月4日.

11. 中島マリンステーション利用状況

11. 中島マリンステーション利用状況



日付	使用代表者	所属	利用目的	人数※
H17.8.1~4	小南哲也	愛媛大学理学部	臨海実習	120
H17.8.8~13	上田拓史	愛媛大学 CMES	海洋学実習	150
H17.9.3~4	吉田亮三	愛媛大学法文学部	ゼミ合宿	22
H17.9.11~30	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業論文研究	19
H17.9.12~13	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業論文研究	4
H17.10.1~11.20	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業論文研究	51
H17.11.21~12.20	金本自由生	愛媛大学 CMES	卒業論文研究	58

※人数は延べ人数 計424人

実習調査船「とびうお」運行状況

日付	運行海域	目的	船長
H17.4.15	北条市沖	生物調査	大西秀次郎
H17.4.25	松山市沖	工学部海洋実習	大西秀次郎
H17.5.11	長浜沖	卒業研究	金本自由生
H17.5.16	松山市沖	水質調査	大西秀次郎
H17.5.17	吳市沖	地層探査	大西秀次郎
H17.5.19	松山市沖	工学部海洋実習	大西秀次郎
H17.5.24	中島周辺	プランクトン採集	大西秀次郎
H17.5.25	伊予灘	卒業研究	大西秀次郎
H17.6.8~9	長浜沖	卒業研究	大西秀次郎
H17.6.21	中島周辺	プランクトン採集	大西秀次郎
H17.6.22~23	中島周辺	卒業研究	大西秀次郎
H17.6.26~28	北条市沖 大洲	砂堆調査	大西秀次郎
H16.7.1~3	伊予灘	地層探査	木田彰
H17.7.4	別府湾	底質調査	木田彰
H17.7.7	中島周辺	卒業研究	大西秀次郎
H17.7.12	北条沖	砂堆調査	大西秀次郎
H17.7.13	北条市沖 大洲	地層探査	木田彰
H17.7.19	長浜沖	プランクトン採集	大西秀次郎
H17.7.20	伊予灘	卒業研究	大西秀次郎
H17.7.21~22	伊予灘	海洋調査	大西秀次郎
H17.8.1	中島周辺	海洋調査	大西秀次郎
H17.8.4~5	中島周辺	卒業研究	金本自由生
H17.8.8	伊予灘	海洋調査	大西秀次郎
H17.8.9	中島周辺	公開臨海実習	大西秀次郎
H17.8.10	中島周辺	生物調査	大西秀次郎
H17.8.11	中島周辺	公開臨海実習	大西秀次郎
H17.8.12	中島周辺	生物調査	金本自由生
H17.8.15	中島周辺	ナメクジウオ調査	金本自由生
H17.8.17~18	中島周辺	卒業研究	大西秀次郎
H17.8.19	中島周辺	ナメクジウオ調査	大西秀次郎
H17.8.23	伊予灘	フロント調査	大西秀次郎
H17.8.26~28	北条沖	ナメクジウオ調査	木田彰
H17.8.29~31	周防灘・三崎沖	海底堆積物試料採取	木田彰
H17.9.1~4	北条沖	海底堆積物試料採取	木田彰
H17.9.8~9	北条沖	藻類一次生産量調査	大西秀次郎
H17.9.12~13	北条沖	水中ビデオ観察	大西秀次郎
H17.9.14~15	中島周辺	生物調査	大西秀次郎
H17.9.16	中島周辺	プランクトン採集	大西秀次郎
H17.9.21	中島周辺	卒業研究	大西秀次郎
H17.9.22	中島周辺	生物潜水観察	大西秀次郎
H17.9.27	北条沖	藻類一次生産量調査	大西秀次郎
H17.9.30	北条沖	海洋調査	大西秀次郎
H17.10.5	伊予灘	卒業研究	大西秀次郎
H17.10.13	中島周辺	生物調査	金本自由生
H17.10.19	中島周辺	卒業研究	大西秀次郎
H17.10.24	北条沖	海底堆積物	大西秀次郎

11. 中島マリンステーション利用状況

H17.10.27	中 島 周 辺	ナメクジウオ調査	大 西 秀次郎
H17.11.4	北 条 沖	藻類一次生産量調査	大 西 秀次郎
H17.11.9	長 浜 沖	卒 業 研 究	大 西 秀次郎
H17.11.10	中 島 周 辺	生 物 調 査	金 本 自由生
H17.11.15	北 条 沖	砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H17.11.16	中 島 周 辺	プランクトン採集	大 西 秀次郎
H17.11.17	北 条 沖	砂 堆 調 査	大 西 秀次郎
H17.11.22	中 島 周 辺	プランクトン採集	大 西 秀次郎
H17.12.1	中 島 周 辺	生 物 調 査	大 西 秀次郎
H17.12.14	中 島 周 辺	卒 業 研 究	大 西 秀次郎
H18.2.1	中 島 周 辺	プランクトン採集	大 西 秀次郎
H18.2.21	中 島 周 辺	プランクトン採集	大 西 秀次郎
H18.3.22	中 島 周 辺	プランクトン採集	大 西 秀次郎

以上、述べ運行日数78日

12. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規定（13章参照）に基づき任命された学内の協力研究者)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
佐野 栄	教育学部理科教育	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
柳沢 康信	理学部生物地球圏科学科	教 授	魚類の繁殖生態に関する研究	環境影響評価予測分野
堀 利栄	理学部生物地球圏科学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境影響評価予測分野
佐藤 成一	理学部生物地球圏科学科	教 授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	環境影響評価予測分野
小南 哲也	理学部生物地球圏科学科	教 授	海産動物である棘皮動物（特にウニ）を用いた発生学的研究	環境影響評価予測分野
中島 敏幸	理学部生物地球圏科学科	助教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	環境影響評価予測分野
佐藤 康	理学部生物地球圏科学科	講 師	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	環境影響評価予測分野
金田 剛史	理学部生物地球圏科学科	講 師	藻類の形態形成に関する研究	環境影響評価予測分野
井上 幹生	理学部生物地球圏科学科	助教授	河川性魚類の生息環境の解析	環境影響評価予測分野
山口 正隆	工学部環境建設工学科	教 授	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
伊福 誠	工学部環境建設工学科	教 授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析分野
畠田 佳男	工学部環境建設工学科	講 師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析分野
鈴木 幸一	工学部環境建設工学科	教 授	河川・河口域の環境に関する研究	環境動態解析分野
渡邊 政広	工学部環境建設工学科	教 授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
西村 文武	工学部環境建設工学科	助教授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析分野
中村 孝幸	工学部環境建設工学科	助教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析分野
脇本 忠明	農学部生物資源学科	教 授	ダイオキシン類の環境動態	生態環境計測分野
本田 克久	農学部生物資源学科	教 授 (寄付講座)	ダイオキシン類の分析法および処理技術の開発	生態環境計測分野
竹内 一郎	農学部生物資源学科	教 授	藻場生態系の保全	生態環境計測分野
三浦 猛	農学部生物資源学科	教 授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	生態環境計測分野
中野 伸一	農学部生物資源学科	助教授	水圏物質循環系の生態学的研究	生態系解析分野
井内 國光	地域共同研究センター	助教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析分野
三宅 洋	工学部環境建設工学科	講 師	流域の自然環境および人間活動が河川生物群集に及ぼす影響の解明群集	環境動態解析分野

13. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規定（13章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者)

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
磯田 豊	北海道大学大学院水産科学研究科	助教授	沿岸域の流動とモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
原島 省	独立行政法人国立環境研究所水土圧圈環境研究領域	室 長	瀬戸内海のモニタリングに関する研究	環境動態解析分野
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究院海洋環境科学分野	教 授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析分野
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校情報工学科	助教授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
橋本 俊也	広島大学大学院生物圏科学研究所	助教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析分野
高橋 曜	独立行政法人産業技術総合研究所中国セクター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主 任 研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析分野
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	助教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析分野
柳 哲雄	九州大学応用力研究所力学シミュレーションセンター	教 授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析分野
松野 健	九州大学応用力研究所海洋大気力学部門	教 授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析分野
磯辺 篤彦	九州大学大学院総合理工学研究院	助教授	周防灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
市川 香	九州大学応用力学研究所	助教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析分野
清水 学	独立行政法人水産総合センター中央水産研究所	研究員	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析分野
増田 理子	名古屋工業大学社会工学専攻	助教授	藻場生態系の解析	環境動態解析分野
才野 敏郎	名古屋大学地球水循環研究センター	教 授	沿岸海域における基礎生産の変動とその制御要因に関する研究	環境動態解析分野
速水 祐一	佐賀大学有明海プロジェクト	助教授	沿岸海域における物質輸送、物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析分野
木村 伸吾	東京大学大学院新領域創成科学研究所 環境学研究系	助教授	海洋生物資源解析に関する研究	環境動態解析分野
藤田 正一	北海道大学大学院獣医学研究科	教 授	野生生物の薬物代謝機能と有害物質の毒性影響	生態環境計測分野
原 彰彦	北海道大学大学院水産科学研究科	教 授	海産魚類における内分泌搅乱物質の影響	生態環境計測分野
宮崎 信之	東京大学海洋研究所 大槌臨海研究センター	教 授	海棲哺乳類の生活史とその環境	生態環境計測分野
新井 崇臣	東京大学海洋研究所 大槌臨海研究センター	助 手	サケ科魚類を用いた環境モニタリング	生態環境計測分野
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	室 長	多環芳香族炭化水素、有機スズ化合物、重金属類およびPOPs関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	生態環境計測分野

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
功刀 正行	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	主任研究員	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	生態環境計測分野
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所 化学環境研究領域	主任研究員	巻貝類の内分泌搅乱の実態及び機構の解明	生態環境計測分野
森 千里	千葉大学大学院医学研究員 環境生命医学領域	教授	内分泌搅乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	生態環境計測分野
小宮山正敏	千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センター	助手	GFP マウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	生態環境計測分野
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	研究部長	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	生態環境計測分野
高田 秀重	東京農工大学農学部 環境資源科学科	助教授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	生態環境計測分野
井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター	教授	内分泌搅乱物質	生態環境計測分野
松井 三郎	京都大学地球環境学大学院	教授	世界の湖沼環境管理のための国際協力のありかた	生態環境計測分野
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院生物機能科学部門	助教授	水生生物における化学物質の影響	生態環境計測分野
有薗 幸司	熊本県立大学環境共生学部環境共生科	教授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	生態環境計測分野
國頭 恭	信州大学理学部物質循環学科	助教授	微量元素の環境モニタリングおよび環境動態の解明	生態環境計測分野
渡邊 泉	東京農工大学大学院 共生科学技術研究部	助教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影響の解明	生態環境計測分野
山田 格	国立科学博物館動物研究部	室長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	生態環境計測分野
野馬 幸生	国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター	室長	有害化学物質の適正処理及び分析法開発に関する研究	生態環境計測分野
滝上 英孝	国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター	主任研究員	バイオアッセイ／化学分析を用いた残留性化学物質の包括評価と管理手法の開発	生態環境計測分野
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究科	教授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析分野
中村 泰男	国立環境研究所海洋環境研究室	主任研究員	沿岸域海洋生態系における物質循環	生態系解析分野
小池 熱夫	東京大学海洋研究所	教授	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野
古谷 研	東京大学大学院農学生命科学研究科	教授	プランクトンの生態と基礎生産過程	生態系解析分野
木暮 一啓	東京大学海洋研究所 海洋生態系動態部門	教授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析分野
千浦 博	国際基督教大学教養学部理学科	准教授	海洋中での遺伝情報伝播機構と生物進化に関する研究	生態系解析分野
永田 俊	京都大学生態学研究センター	教授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析分野
川端善一郎	京都大学生態学研究センター	教授	水圏微生物の実験生態学的研究	生態系解析分野
田中 克	京都大学大学院農学研究科	教授	有明海の海産生物に関する研究	生態系解析分野
今井 一郎	京都大学大学院農学研究科	助教授	有害有毒プランクトンの生活史と生理生態学	生態系解析分野
上 真一	広島大学大学院生物圏科学研究所	教授	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析分野

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
大塚 攻	広島大学大学院生物圏科学研究科 濑戸内圏フィールド科学教育研究センター	教授	カイアシ類の分類および形態学的研究	生態系解析分野
深見 公雄	高知大学大学院黒潮圏海洋科学研究科	教授	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析分野
木下 泉	高知大学海洋生物教育研究センター	教授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析分野
伊谷 行	高知大学教育学部	助教授	海洋生物の共生に関する研究	生態系解析分野
安井 金也	広島大学大学院理学研究科附属臨海実験所	教授／所長	ナメクジウオ類の生態学的研究	生態系解析分野
立石 雅昭	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
松岡 篤	新潟大学理学部地質科学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環境影響評価予測分野
金井 豊	独立行政法人産業技術総合研究所深部地質環境研究センター地下環境機能チーム	研究チーム長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
西村 清和	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門沿岸都市地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
斎藤 文紀	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門沿岸都市地質研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
池原 研	独立行政法人産業技術総合研究所地質情報研究部門海洋地質研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
星加 章	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	グループ長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
三島 康史	独立行政法人産業技術総合研究所中国センターバイオマス研究センター	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野
高杉 由夫	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター地質情報研究部門沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
公文富士夫	信州大学理学部物質循環学科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
吉川 周作	大阪市立大学大学院理学研究科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
三瓶 良和	島根大学総合理工学部地球資源環境学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
高安 克己	島根大学汽水域研究センター	教授／センター長	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
長谷川修一	香川大学工学部安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
仲谷 英夫	香川大学工学部安全システム建設工学科	助教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
松岡 敦充	長崎大学 環東シナ海海洋環境資源研究センター	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	環境影響評価予測分野
本座 栄一	熊本大学大学院自然科学研究科	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —堆積作用に関する研究—	環境影響評価予測分野
前田 広人	三重大学生物資源学部海洋微生物学教室	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	環境影響評価予測分野

14. 運営委員会



(平成17年4月1日現在)

委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	丹下 春喜	法文学部教授
委 員	家山 博史	教育学部教授
委 員	東山 繁樹	医学部教授
委 員	山口 正隆	工学部教授
委 員	脇本 忠明	農学部教授
委 員	井上 幹生	理学部助教授
委 員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	井内 美朗	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	鈴木 聰	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター教授
委 員	上田 拓史	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	高橋 真	沿岸環境科学研究センター助教授
委 員	井上 統雄	研究協力部長（役職指定）

15. センター規則および運営委員会規程



愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、愛媛大学学則第8条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同教育研究施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究分野)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究分野を置く。

- (1) 環境動態解析分野
- (2) 生態環境計測分野
- (3) 生態毒性解析分野
- (4) 生態系解析分野
- (5) 環境影響評価予測分野

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学運営協議会（以下「運営協議会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから運営協議会が推薦し、学長が選考する。

- 2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、運営協議会が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(中島マリンステーション)

第13条 センターに、附属施設として中島マリンステーション（以下「施設」という。）を置く。

2 施設に関する規程は、別に定める。

(生物環境試料バンク)

第14条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。

(研究生)

第15条 センターは、研究生を受け入れることができる。

2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第16条 センターに関する事務は、研究協力部研究国際協力課において処理する。

(雑則)

第17条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センターの講師以上の専任教員
- (3) 各学部の専任教員 各1人
- (4) 研究協力部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。

3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聞くことができる。
(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。
2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究協力部研究国際協力課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則
この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則
この規程は、平成16年11月16日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長
- (2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。
2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。
3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要な事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。
2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究協力部研究国際協力課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営

に關し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項
- (2) 試料の管理に関する事項
- (3) 試料の提供に関する事項
- (4) 試料を用いた共同研究に関する事項
- (5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 試料バンク長
- (2) その他試料バンク長が指名する者

2 前項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究協力部研究国際協力課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

- 1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

- この内規は、平成16年11月16日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター附属中島マリンステーション規程

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第13条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター附属中島マリンステーション（以下「施設」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(施設長)

第2条 施設に、施設長を置く。

- 2 施設長は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター教員のうちから愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会が推薦し、学長が任命する。
- 3 施設長の任期は、2年とし、再任を防げない。
- 4 施設長は、沿岸環境科学研究センター長の指示に従い、施設の業務を処理する。

(雑則)

第3条 この規程に定めるもののほか、施設に関する必要な事項は、施設長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される施設長の任期は、第2条第3項の規程にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

発 行 2006年7月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167

印 刷 創風社出版
表紙デザイン：大森 浩二
表紙の「COE」は、21世紀 COE「沿岸環境科学研究拠点」
のロゴマークです。
裏表紙写真：来島海峡

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。